



強くなければ生きられない、優しさがなければ生きる資格がない
対立の文化から共生の文化へ



一般財団法人

人間自然科学研究所

目 次

強くなければ生きられない、優しさがなければ生きる資格がない

対立の文化から共生の文化へ

◆ 出雲和譲フォーラム パンフレット	1
◆ 天の時、地の利、人の和 -小松昭夫-	4
하늘의 때 · 땅의 이익 · 사람의 화(和) -코마츠아키오-	4
天时・地利・人和 - 小松昭夫 -	5
Timing, Place, Harmony -Akio Komatsu-	5
◆ 大韓国人安重根の東洋平和論 - 金鎬逸-	6
대한국인 안중근의 동양평화론 - 김호일 -	12
大韩国人 安重根的东洋和评论 - 金鎬逸 -	18
Korean People Ahn Choong-Gun Orient Peace Theory -Kim Ho - il-	22
◆ 平和は理想か—GCS 運動を例として - 宋錫源 -	30
평화는 이상(理想)인가 : GCS 운동을 사례로 - 송석원 -	36
和平是理想吗？ —以 GCS 运动为例谈起 - 宋錫源 -	42
Is the Pursuit of Peace Ideal? – Taking the GCS movement as an example - Seok-won Song -	48
◆ 人類の転換期における朝鮮半島と日本列島の地政学的役割 - 小松昭夫 -	54
인류사 전환기에 있어서 한반도와 일본열도의 지정학적 역할 - 코마츠아키오 -	62
朝鲜半岛与日本列岛在人类历史转折期所起的地缘政治学作用 -小松昭夫-	70
The turning point of the human history, Geopolitical role between The Korean Peninsula and The Japanese Islands. -Akio Komatsu-	76



強くなければ生きられない、優しさがなければ生きる資格がない

対立の文化から共生の文化へ

長い間に蓄積された社会システムの歪みから核拡散、地球温暖化が進み、そのうえグローバル化した金融が動搖、食糧・エネルギー・鉱物資源の世界的高騰が始まっています。

環日本海地域はアジアで最も進んだ近代文明地域でありながら、歴史的背景から竹島・独島領有権、海洋呼称問題に代表される抑止された対立・怨念エネルギーを生み出し続けています。現在の閉塞感を打破するには、対立の文化の上に繁栄し行き詰った文明から、共生の文化の上に華開く文明への転換以外に道はありません。

韓国、朝鮮民主主義人民共和国、日本の、過去、現在、未来に想定される諸問題を列挙し、対立のエネルギーを止揚（アウフヘーベン）に導く資源として活かし、この地域が世界に先駆け共生の文化を生み出す時です。世界的混乱が懸念される状況になり、時代とこの地域の使命に目覚めた人たちの叡智と勇気が試されています。京都及び松江にて開催されます第6回国際平和博物館会議へのご参加を心よりお待ちしています。

(<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/er/wp-museum/conference/index.html>)

강하지 않으면 살아 남을 수 없다. 그러나 부드러움이 없다면 살아갈 가치가 없다.

“대립의 문화”에서 “공생의 문화”로

긴 시간 축적되어 온 사회시스템의 봉괴로 부터 핵화산과 지구온난화가 가속화되고, 글로벌화 된 금융시장의 요동과, 식량, 에너지, 광물자원의 세계적 물가상승이 시작되고 있습니다.

동북아시아는 아시아에서도 가장 근대문화를 끌어온 지역이며, 역사적 배경으로 부터 생겨난 “독도/다케시마 영유권문제” “동해/일본해 명칭문제”로 대표되는 대립과 원한의 에너지를 뿜어내고 있는 지역이기도 합니다. 현재의 패쇄감을 타파하기 위해서는, “대립의 문화”로 번영을 누려왔으나 돌파구가 보이지 않는 문명으로부터, “공생의 문화”로 번영을 누릴 수 있는 문명으로 전환하는 것 이외에는 해결책이 없습니다.

한국, 북한, 일본간의 과거, 현재, 미래에 일어났거나 일어날 많은 문제들을 나열하고, 대립의 에너지를 지양(止揚/아우프헤벤)으로 유도, 자원화하여, 이 지역에서 “공생의 문화”를 창조해야 할 시기가 왔습니다. 세계적 혼란이 염려되는 가운데, 시대적 가치와 사명에 눈뜬 사람들의 예지(叡智)와 용기가 시험대에 오르고 있습니다. 교토(京都) 및 마츠에(松江)에서 개최되는 제6회 국제평화박물관회의에 많은 참가 부탁드립니다.

不坚强就无法生存，不和善就没有生存的资格

从对立文化走向共生文化

由于长时间积蓄的社会体系的扭曲，导致核扩散，全球变暖，以及全球一体化时代金融界的动摇，粮食产量·能源·矿物资源价格开始世界范围上涨。

环日本海地区是亚洲拥有最先进近代文明的区域。由于特定的历史背景，以竹岛·独岛所有權、海洋稱謂問題为代表的怨恨种子在近代历史中萌生并延续至今。因此，从对立文化走向共生文化，这是打破现今闭塞状态的唯一之路。

面对韩国、朝鲜民主主义人民共和国、日本的过去、现在、以及对未来的预测等诸多问题，引导其扬弃(Aufheben)对立资源，并利用此资源率先在环日本海地区产生共生文化。世界混乱的状况令人担忧，这也是考验对时代与此地区赋予使命的人们的智慧和勇气的时候。

借此机会，在京都及松江召开第6届国际和平博物馆会议，由衷期待您的参加。

There is no qualifications to live without the gentleness that cannot live if not strong

From Culture of the Opposition to Culture of the Symbiosis

Nuclear proliferation and global warming measure advance from the distortion of society system accumulated for long time, and besides globalization finance is agitation, international rising cost of food · energy · mineral resources begins.

The sea of Japan rim area is the most developed the modern civilization area in Asia. But it continues bringing about restrained opposition · grudge energy represented by Takeshima · Dokdo island territorial rights and ocean name problem from the background of the history.

There is not the way besides switch to the civilization that opens on culture of the symbiosis from the civilization that it came to a deadlock and prospered on culture of the opposition to defeat a blockade feeling now.

We, the sea of Japan rim area people, make a list of problems assumed in the past, the present, and the future in Korea, the Democratic People's Republic of Korea, and Japan, and keep it alive as the resources which lead energy of the opposition to the sublation, and it is time when this area brings about culture of the symbiosis ahead of the world.

It is in a situation that global confusion is concerned about, and wisdom and courage of people awakened to the times and this local mission are tried.

We look forward to waiting for your participation to the 6th International Conference of Museums for Peace held in Kyoto and Matsue heartily.



社団法人 安重根義士崇慕会 安重根義士紀念館館長

金 鎬 逸 (きむ ほいる) Ho-II Kim

大韓民国中央大学 史学科卒業。中央大学院（文学修士）。檀國大学院（文学博士）。中央大学史学科教授・学科長、韓国独立記念館韓国独立運動史研究所長、中国大連大学客員教授を経て、現在、大韓民国中央大学名誉教授、国学学术院長、(社)安重根義士崇慕会 安重根義士紀念館長。著書として「日帝下の学生運動」「韓国の郷校」「韓国近代の学生運動史」等。

중앙대학교 사학과졸업. 중앙대학교 대학원(문학석사). 단국대학교 대학원(문학박사). 중앙대학교 사학과 교수, 학과장. 독립기념관 한국독립운동사연구소장, 중국 대련대학 객좌교수. 현재 중앙대학교 명예교수, 국학학술원 원장, (사) 안중근의사승모회 안중근의사기념관장. 저서 「일제하 학생운동」 「한국의 향교」 「한국근대 학생운동사」 등.

毕业于大韩民国中央大学史学专业，中央大学研究生学院（文学硕士），檀国研究生学院（文学博士）。曾任中央大学历史学科教授·学科长、韩国独立纪念馆韩国独立运动史研究所所长、中国大连大学客座教授。现任大韩民国中央大学名誉教授、国学学术院院长、(社)安重根义士崇慕会安重根义士纪念馆馆长。著书有：《日帝下的学生运动》、《韩国的乡村学校》、《韩国近代学生运动史》。

Chung Ang University graduate history department. Chung Ang University graduate School (Master of Literature). Konkuk University graduate School (Doctor of Literature). A professor of history at Chung Ang University. Korean Independence Hall Manager history of Korea independence movement study. Chung Ang University a honorary professor pass through Chinese Dalian university guest professor. The study of Korean classical literature science chairperson. Patriot Ahn choong-gun Memorial Hall Director. Book "History of student movement of Korea modern times"etc



立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長

安齋育郎 (あんざい いくろう) Ikuro Anzai

東京大学工学部原子力工学科卒。工学博士。1986年立命館大学経済学部教授、1988年より同大学国際関係学部教授。国際平和ミュージアム名誉館長。日本平和学会理事、日本学術會議平和問題研究連絡委員会委員、世界大会平和博物館ネットワーク国際調整委員、原水爆禁止世界大会起草委員長などを要職を務める。

도쿄대학교 공학부 원자력공학과 졸업. 공학박사. 1986년 리즈메이칸(立命館)대학교 경제학부 교수, 1988년 리즈메이칸(立命館)대학교 국제관계학부 교수. 국제평화뮤지엄 명예교수. 일본평화학회 회장, 일본학술회의평화문제연구연락위원회 위원, 세계대회평화박물관네트워크 국제제조정 위원, 원수박(原水爆)금지세계대회 기초위원장 등 역임.

毕业于东京大学工学部原子能工学科，工学博士。1986年任立命馆大学经济学院教授，1988年起任该大学国际关系学院教授。现任国际和平博物馆名誉馆长。担任日本和平学会理事、日本学术会议和平问题研究联络委员会委员、世界大会和平博物馆网络国际协调委员、原子武器运动世界大会起草委员会委员长等要职。

Tokyo university graduate technology major, atomic energy engineering department. A doctor of engineering. 1986 A professor of economics at Ritsumeikan University. 1988 A professor of international relations at Ritsumeikan University. Kyoto Museum for world Peace, Honorary Director. Japan Peace Society Director. The Science Council of Japan Peace Problem Institute Liaison Committee Member. World Meeting Peace Museum Network International Research Member. World Meeting against atomic and hydrogen bombs Chairperson.



慶熙大学社会科学部政治外交学科教授

宋錫源 (そん そぐおん) Seok-Won Song

慶熙大学社会科学部政治外交学科卒業。京都大学大学院法学研究科博士課程修了（法学博士）。日本学術振興会特別研究員。京都大学助手、大谷女子大学、京都橘女子大学、花園大学非常勤講師を経て現在、慶熙大学社会科学部政治外交学科教授、日本学研究所所長。専門分野は日本政治思想史。

경희대학교 사회과학부 정치외교학과 졸업. 교토대학교 대학원 법학연구과(법학박사). 일본학술진흥회 특별연구원. 교토대학교 조교수, 오오타니(大谷)여자대학교, 교토토치마나(橘)여자대학교, 하나조노(花園)대학교 비상근강사. 현재 경희대학교 사회학과부 정치외교학과 교수, 일본학연구소소장. 전문분야는 일본정치사상사.

毕业于庆熙大学社会科学学院政治外交学科。京都大学研究生学院法学研究科法学博士，日本学术振兴会特别研究员。曾任京都大学助教、大谷女子大学、京都橘女子大学、花园大学外聘讲师。现任庆熙大学社会科学学院政治外交学教授、日本学研究所所长。研究领域为日本政治思想史。

Kyung Hee University graduate Social studies department politics diplomacy subject Kyoto University.graduate Doctor of law graduate course (A Doctor of Law).Japan Society for the Promotion of Science fellow.

Kyoto University assistant.Otani Women's College.Kyoto Tachibana Women's College.Kyung Hee University pass through Hanazono University part-time teacher.Professor, Department of Political Science.Director,Institute for Japanese Studies Manager of Japanology Research Institute.The specialized field is Japan history of political thought



財団法人 人間自然科学研究所 理事長

小松昭夫 (こまつ あきお) Akio Komatsu

1973年「小松電機産業」設立。91年ニュービジネス大賞受賞、93年地域社会貢献企業者賞受賞。94年HNS人間・自然・科学研究所設立。95年注目発明選定証受証、96年地域活性化貢献企業賞受賞、07年国土交通大臣表彰を受彰。シンポジウム開催と出版、数々の戦争記念館を訪問献花、平和環境健康分野で構想を発表。

1973년 코마츠전기산업 설립. 91년 뉴비지니스대상 수상, 93년 지역사회공헌기업자상 수상. 94년 HNS인간자연과학연구소 설립. 95년 주목발명선정증 수증, 96년 지역활성화공헌기업상 수상, 2007년 국토교통대신포상 수상, 심포지엄 개최와 출판물 진행. 해외의 많은 전쟁기념관을 방문, 현화, 환경, 건강 분야의 구상을 발표.

1973年创立小松电机产业。91年获New - Business大奖；93年获地域社会贡献企业者奖；94年成立HNS人间·自然·科学研究所；95年荣获注目发明选定证书；95年获地域活性化贡献企业奖；07年受国土交通大臣表彰。增多次举办研讨会，出版书籍，数次访问战争纪念馆并献花。在和平、环境、健康领域发表个人见解。

1973 Komatsu Electric Industry establishment . Highest Prize of New Business Grand-Prix" was won. 1993 Winning from community contribution company Prize. 1994. Human Nature Science Research Institute was founded. 1995 "The Selection as Remarkable Invention" was awarded by the Science and Technology Agency. 1996 Area ActiveContribution Company Prize. 2007 Life a person of meritorious monthly service commendation.Symposium holding and publication .Visit the many war Memorial and offer flowers.Announce the design in the field of Peace, Environment, and Health

平和のための分科会および展示

テーマ

「平和創造のための空間としての平和博物館」

平和博物館での展示や教育の実践、社会の中での平和博物館の現状(成果や困難)、隣接する諸研究領域の成果の平和博物館への反映など、平和博物館の可能性について広汎に議論できるようなテーマの分科会を準備中です(以下は、現在検討中の案)。

■分科会

- 各平和博物館の活動紹介(地域別)
- 平和博物館は現代の戦争・紛争をどう伝えたか?
- どのようにすれば戦争博物館を平和博物館に変えられるか
- バーチャル・ミュージアムの到達点と展望
- 平和博物館の展示技術の最前線
- どうすれば平和博物館がつくれるか
- 平和教育における平和博物館の活用
- 平和博物館と平和研究の結合
- メディアと平和博物館
- 文化・芸術施設等における平和の展示の可能性

■展示

- ポスター・セッション(各館資料展示)
- 「平和博物館は可能か?」

分科会報告募集

分科会での報告を募集します。報告時間は10~30分程度です。日本文もしくは英文で、A4・5枚以内の報告要旨を、2008年6月末までに、事務局まで電子メールか郵送でお送り下さい。当会議での報告の採否、報告時間及び発表日程などの詳細については、追って事務局よりご連絡します。

ポスター・セッション(資料展示)

立命館大学国際平和ミュージアム会場では、参加館や建設運動の現状を紹介・展示し、交流するための特別セッション(ポスター・セッション)を開設します。詳細は、4月に立命館大学国際平和ミュージアムH.P.
<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/er/wp-museum/index.html>内にてご案内いたしますのでご確認下さい。

「平和のための博物館」情報をご提供下さい

会議の開催と並行して、日本と世界の「平和のための博物館」の情報を集め、冊子にまとめます。世界の「平和のための博物館」を網羅する印刷物を作成したいと思いますので、必要情報のご提供にご協力下さい。ご提供いただく情報の内容、締め切り期日等の詳細は、4月に立命館大学国際平和ミュージアムH.P.
<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/er/wp-museum/index.html>内にてご案内いたしますのでご確認下さい。

宿泊ホテル

宿泊先は個人でお申し込みください。なお、当会議用として、JTBが一定数のホテルを確保しておりますので、必要な場合は下記までお問い合わせ下さい。

*JTB西日本 EC営業部MICEセンター

大阪府大阪市中央区久太郎町2-1-25 JTBビル7階

TEL.06(6260)5076 FAX.06(6263)0717

ボランティアの募集

この会議を実りあるものにするために、会議の企画・運営に力を発揮していただける方、会議の通訳(日英、日韓、日中等)などに協力していただける方を募集しています。ご協力いただける方は、ご氏名及び協力内容等を事務局 6peace-m@st.ritsumei.ac.jpまでご連絡ください。

第6回国際平和博物館会議事務局

〒603-8577 立命館大学国際平和ミュージアム気付
Tel. 075-465-8354 Fax. 075-465-7899
E-mail: 6peace-m@st.ritsumei.ac.jp



平和創造のための空間としての平和博物館
地球的問題解決のための「ピース・リタシー」の構築をめざして

第6回国際平和博物館会議

ご案内

2008年10月6日~8日 立命館大学国際平和ミュージアム

9日 京都造形芸術大学

10日 広島平和記念資料館

主催／第6回国際平和博物館会議組織委員会
共催／立命館大学・国際平和ミュージアム、京都造形芸術大学、広島平和記念資料館、
東北芸術工科大学、立命館アジア太平洋大学
助成／独立行政法人日本万国博覧会記念機構

世界の誰もが「希望の世紀」としてを迎えることを願っていた21世紀は、残念ながら、なおさまざまな暴力に満ちた様相を呈しています。核兵器から地雷や小銃に至るまでの武器はもとより、飢餓・貧困・差別・人権抑圧・社会的不公正・環境破壊・劣悪な衛生環境や教育実態など、人間の能力を豊かに開花させることを阻害する数多くの社会的条件が存在しています。私たちは、互いに手を結び合い、知恵を出し合って、これらの問題を解決する方法を探り、国境を越えた全地球規模の共同の努力を払うことが求められています。

これまで私たちはたくさんの戦争や暴力を体験してきました。そうした過去と誠実に向き合い、それを繰り返さないための教訓をしっかりと学び、実践することは、とても大切なことです。個人の体験は時とともに失われがちです。私たちはそれを社会的記憶として世代を越えて伝え、平和を創造するために積極的に役立てることが大切でしょう。平和のための博物館活動は、そのための効果的な方法であり、これから社会づくりに参加する若い世代を含めて、戦争や暴力の悲惨さ、命の尊さ、平和のかけがえのなさをしっかりと伝えていく責務があります。

平和のための博物館は、また、過去や現在のさまざまな暴力の悲惨な実態を知らせるだけの場であってはなりません。互いに人間性を信じあい、違いを超えて手を結び合い、自己実現を阻害するさまざまな暴力を克服し、人々が能力を存分に発揮してそれぞれの目標に向かって生き生きと躍動する—そんな社会づくりのためのこころと知恵を共有できる空間でありたいものです。そのためには、平和のための多様な活動にとりくんでいる博物館どうしが経験を交流し、知恵を分

かち合い、創造的な方法を編み出し、互いに励ましあってより効果的な活動を展開することが大切です。

この国際平和博物館会議は、1992年以来、イギリス・オーストリア・日本・ベルギー・スペインとほぼ3年おきに会議を開き、実績を積み重ねてきました。1998年に大阪と京都で開催された第3回会議は多くの方々の支援と参加によって、大きな成果を生み出すことができました。それから10年目の2008年10月、第6回国会議が再び京都と広島を舞台に開かれる運びとなりました。

私たちが直面している国際紛争や地球環境問題など、人類の死活に関わる重要な問題を解決するために、平和博物館は「ピース・リテラシー」(平和創造のための教養)の涵養と普及にどう貢献できるか—この大切な問題についての知恵を深め、共有するために、ぜひ皆さんの積極的なご支援、ご協力、ご参加を期待いたします。

平和博物館を平和づくりの発信地、集約地、そして、新たな創造の地とするために!



プログラム

◆10月6日(月)〈立命館大学 衣笠キャンパス〉

基調講演(ピーター・ヴァン・デン・デュンゲン:平和のための博物館国際ネットワーク(INMP)統括コーディネーター／ブランドフォード大学教授)

分科会

立命館大学国際平和ミュージアム見学
レセプション

◆10月7日(火)〈立命館大学 衣笠キャンパス〉

分科会

平和のための博物館国際ネットワーク(INMP)総会
記念講演
分科会

◆10月8日(水)〈立命館大学 衣笠キャンパス〉

記念シンポジウム

INMP 総会
分科会・平和のための博物館市民ネットワーク会議
エクスカーション

◆10月9日(木)〈京都造形芸術大学〉

全体テーマ「平和創造における芸術の役割」

記念講演(千住博:京都造形芸術大学学長)
狂言「棒縛」とミニトーク／春秋座
和太鼓「恵・恵炎」／春秋座
パネルディスカッション+展覧会「平和博物館は可能か?」
パネルディスカッション「芸術と平和—くローカルな知への問いかけ」
茶会・レセプション

◆10月10日(金)〈広島平和記念資料館メモリアルホール〉

原爆ドーム、広島平和記念資料館、ヒロシマ・ナガサキ原爆写真展見学

記念講演(秋葉忠利:広島市長予定)

被爆者証言

記念シンポジウム

閉会総会(第6回国際平和博物館会議宣言)

レセプション

※プログラムは、都合により変更することがあります。

論文集

会議の報告用論文集(『予稿集』)は、会議当日に配布します。また、会議の全容を収録・編集した『報告集』を会議終了後に出版します。

言語

会議の公用語は英語と日本語です。両者の間には基本的に同時通訳、部分的に逐次通訳サービスを行います。中国語・朝鮮語についても、可能な範囲で通訳の便宜をはかります。

日本の参加者の交流会

「平和のための博物館市民ネットワーク」による日本の参加者のための交流会を10月8日(水)午後に開催します。

日本の参加者の参加登録

日本の参加者(日本在住の外国人参加者を含む)の全日程参加登録料は、25,000円です。参加登録、会議で提出されるすべての報告資料の配布、通訳、昼食、コーヒー・ブレイクのサービスを受けることができます。ただし、宿泊代金、移動費、レセプション及びエクスカーションに参加される場合は実費負担をお願いします。

一日のみ参加する場合の参加登録料は、一般3,000円、学生2,000円となります。一日の参加者は、当日企画の講演・公演・分科会に自由に参加でき、通訳がつきます。なお、宿泊代金、移動費、レセプション及びエクスカーションに加え、会議報告資料、昼食等につきましては実費負担をお願いします。

登録手続き等について

本大会に関心のある方は、2008年4月に立命館大学国際平和ミュージアムH.P.

<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/er/wp-museum/index.html>
内にてご案内いたしますのでご確認下さい。

第6回 国際平和博物館会議 開催施設

京都 ①立命館大学国際平和ミュージアム
〒603-8577 京都府京都市北区等持院北町56-1
TEL.075-465-8151
<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/er/wp-museum/index.html>

世界初の大学立の平和博物館。常設展示室は、日本の「十五年戦争」の加害と被害の実態や現代に至る世界の戦争・紛争を展示しています。平和創造展示室は、「戦争がなければ平和でしょうか?」と訴えかけ、世界の構造的暴力の諸相とそれを克服するための市民の努力を描いています。メディア資料室では、戦争や平和に関わる豊富な文献・メディア資料を設置しています。「無言館」(長野県上田市)の姉妹施設である「無言館／京都館 いのちの画室(アトリエ)」も併設されています。



京都 ②京都造形芸術大学
〒606-8271 京都府京都市左京区北白川瓜生山2-116
TEL.075-791-9122
<http://www.kyoto-art.ac.jp/>

1977年創立。「芸術による平和創造」の理念の下、10学科31コースの芸術学部と3学科12コースの通信教育部、大学院を設置。約1万人の在学生数は国内の芸術大学としては最大級の規模を誇ります。キャンパスは、東山三十六峰の一つ瓜生山に位置し、既存樹木との共存がはかられています。学長千住博をはじめとして、秋元康、浅田彰、宇川直宏、榎本了亮、竹村真一、辻仁成、椿昇、ヤノベケンジなど第一線で活躍するアーティストや研究者が専任教員として指導に当たっています。



広島 ③広島平和記念資料館
〒730-0811 広島県広島市中区中島町1-2
TEL.082-241-4004
<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/>

1945年8月6日、広島は人類史上初めて原子爆弾による被害を受け、街は壊滅し多くの人の生命が奪われました。広島平和記念資料館は被爆から10年後の1955年8月に開館し、以来、半世紀以上にわたり、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を願うヒロシマの心を世界の人々に伝え続けてきました。館内では、被爆者の遺品や被災写真など400点以上に及ぶ資料を生きしく展示し、原爆の惨禍を他の誰にも体験させてはならないという被爆者の願いを伝え、人類は核兵器とは絶対に共存できないことを強く訴えています。



日本の平和博物館

世界には、平和博物館・施設が約120館ありますが、そのうち半数以上が日本に存在しています。

日本は、自治体立の施設も含めて

世界でもっとも平和博物館が多い国です。

1994年には、自治体立の平和博物館を中心

8館で「日本平和博物館会議」が、1998年には、

個人加盟の連携組織である「平和のための

博物館市民ネットワーク」が結成され、

情報交流や協議の機会を持ち、

相互の研鑽と共同の取り組みを進めています。



日本の平和博物館

北上平和記念展示館 TEL.0197-73-5876
〒024-0334 岩手県北上市和賀町藤根14-147-3 藤根生活センター内

太平洋戦史館 TEL.0197-52-4575
〒029-4427 岩手県奥州市衣川区陣場下41

青森空襲資料常設展示室 TEL.017-734-0163
〒030-0813 青森県青森市松原1-6-15 青森市中央市民センター内

しょうけい館 TEL.03-3234-7821
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-13 共同ビル九段2号館

昭和館 TEL.03-3222-2577
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1

わだつみのこえ記念館 TEL.03-3815-8071
〒113-0033 東京都文京区本郷5-29-13 赤門アビタシオン1階

東京大空襲・戦災資料センター TEL.03-5857-5631
〒136-0073 東京都江東区北砂1-5-4 政治経済研究所気付

都立第五福竜丸展示館 TEL.03-3521-8494
〒136-0081 東京都江東区夢の島3-2

せたがや平和資料室 TEL.03-3703-8100
〒158-0091 東京都世田谷区中町2-29-1 区立玉川小学校内

ホロコースト教育資料センター TEL.03-5363-4808
〒160-0015 東京都新宿区大京町22-1 HAKUYOHビル6階

中野区平和資料展示室 TEL.03-3228-8988
〒165-0026 東京都中野区新井3-37-6

女たちの戦争と平和資料館 TEL.03-3202-4633
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 AVACOビル2階

高麗博物館 TEL.03-5272-3510
〒169-0072 東京都新宿区大久保1-12-1 第2韓国広場ビル7階

中国帰還者連絡会記念館 TEL.049-231-9706
〒350-1175 埼玉県川越市大字笠幡1947番地25

原爆の図・丸木美術館 TEL.0493-22-3266
〒355-0076 埼玉県東松山市下唐子1401

山梨平和ミュージアム TEL.055-235-5659
〒400-0862 山梨県甲府市朝氣1-1-30

静岡平和資料センター TEL.054-247-9641
〒420-0838 静岡県静岡市葵区相生町6-20 中央ビル2F

浜松復興記念館 TEL.053-455-0815
〒430-0937 静岡県浜松市中区利町304-2

戦争と平和の資料館 ピースあいち TEL.052-602-4222
〒465-0091 愛知県名古屋市名東区よもぎ台2-820

岐阜市平和資料室 TEL.058-268-1050
〒500-8521 岐阜県岐阜市橋本町1-10-23 ハートフルスクエアーギ

大阪人権博物館 TEL.06-6561-5891
〒556-0026 大阪府大阪市浪速区浪速西3-6-36

吹田市平和祈念資料室 TEL.06-6387-2593
〒564-0072 大阪府吹田市出口町4-1

堺市立平和と人権資料館 TEL.072-270-8150
〒599-8273 大阪府堺市中区深井清水町1426 ソフィア堺内

丹波マンガン記念館 TEL.0771-54-0046
〒601-0533 京都府京都市右京区京北下中町

舞鶴引揚記念館 TEL.0773-68-0836
〒625-0000 京都府舞鶴市引揚記念公園内

奈良県立図書情報館 戦争体験文庫 TEL.0742-34-2111
〒630-8135 奈良県奈良市大安寺西1丁目1000番地

戦没した船と海員の資料館 TEL.078-331-7588
〒650-0024 兵庫県神戸市中央区海岸通り3-1-6全日本海員組合関西地方支部2階

神戸市戦災記念資料室 TEL.078-682-9501
〒652-0897 兵庫県神戸市兵庫区駅南通5-1-1

西宮市平和資料館 TEL.0798-33-2086
〒662-0944 兵庫県西宮市川添町15-26 西宮市教育文化センター1F

姫路市平和資料館 TEL.079-291-2525
〒670-0971 兵庫県姫路市西延末475

岡山空襲平和資料館 TEL.086-233-8311
〒700-0905 岡山県岡山市春日町5-6 岡山市勤労者福祉センター内

ホロコースト記念館 TEL.084-955-8001
〒720-0004 広島県福山市御幸町中津原815

福山市人権平和資料館 TEL.084-924-6789
〒720-0061 広島県福山市丸の内1-1-1

大久野島毒ガス資料館 TEL.0846-26-3036
〒729-2311 広島県竹原市忠海町大久野島

高松市市民文化センター平和記念室 TEL.087-833-7728
〒7760-0068 香川県高松市松島町1-15-1

平和資料館・草の家 TEL.088-875-1275
〒7780-0861 高知県高知市升形9-11

碓井平和祈念資料館 TEL.0948-62-5173
〒820-0502 福岡県嘉麻市上臼井767碓井琴平文化会館内

兵士庶民の戦争資料館 TEL.09496-2-8565
〒820-1101 福岡県鞍手郡小竹町御徳415-13

埼玉

埼玉県平和資料館
〒355-0065 埼玉県東松山市岩殿242-113
TEL. 0493-35-4111
<http://homepage3.nifty.com/saitamapeacemuseum/>

川崎

川崎市平和館
〒211-0021 神奈川県川崎市中原区木月住吉町33-1
TEL. 044-433-0171
<http://www.city.kawasaki.lg.jp/25/25heiwa/heiwa.htm>

神奈川

地球市民かながわプラザ
〒247-0007 神奈川県横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1
TEL. 045-896-2626
<http://www.k-i-a.or.jp/plaza/>

大阪

ピースおおさか
〒540-0002 大阪府大阪市中央区大阪城2-1
TEL. 06-6947-7208
<http://www.peace-osaka.or.jp/>

長崎

長崎原爆資料館
〒852-8117 長崎県長崎市平野町7-8
TEL. 095-844-1231
<http://www1.city.nagasaki.nagasaki.jp/na-bomb/museum/>

沖縄

沖縄県平和祈念資料館
〒901-0333 沖縄県糸満市字摩文仁614-1
TEL. 098-997-3844
<http://www.peace-museum.pref.okinawa.jp/>

岡まさはる記念長崎平和資料館 TEL.095-820-5600
〒850-0051 長崎県長崎市西坂9-4

ナガサキピースミュージアム TEL.095-818-4247
〒850-0921 長崎県長崎市松が枝町7-15

少国民資料館 TEL.095-823-3220
〒851-0251 長崎県長崎市田上3-17-47

佐伯市平和祈念館やわらぎ TEL.0972-22-5700
〒876-0811 大分県佐伯市鶴谷町3-3-12

対島丸記念館 TEL.098-941-3515
〒900-0031 沖縄県那覇市若狭1-25-37

ひめゆり平和祈念資料館 TEL.098-997-2100
〒901-0344 沖縄県糸満市伊原671-1

南風原文化センター TEL.098-889-7399
〒901-1111 沖縄県島尻郡南風原町字兼城716

佐喜眞美術館 TEL.098-893-5737
〒901-2204 沖縄県宜野湾市上原358

ヌチドウタカラの家 TEL.0980-49-3047
〒905-0502 沖縄県國頭郡伊江村字東江前2300-4

平和文化史料館ゆきのした TEL.0776-66-1564
〒910-0302 福井県坂井市丸岡町

長岡戦災資料館 TEL.0258-36-3269
〒940-0062 新潟県長岡市大手通2-1-2「まちなか・考房」1階

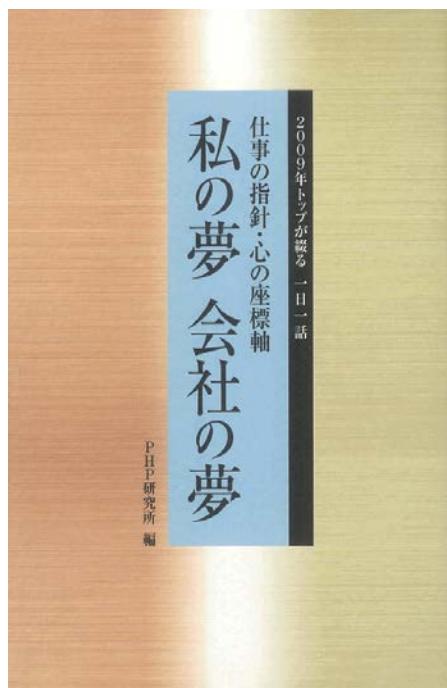
アウシュビツツ平和博物館 TEL.0248-28-2108
〒961-0835 福島県白河市白坂三輪台245

仙台市戦災復興記念館 TEL.022-263-6931
〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町2-12-1

強くなければ生きられない、優しさがなければ生きる資格がない

対立の文化から共生の文化へ

一天の時、地の利、人の和—



PHP 研究所 編

2009年トップが綴る一日一話 仕事の指針・心の座標軸

『私の夢 社会の夢』へ掲載

財団法人 人間自然科学研究所

天の時、地の利、人の和

小松電機産業（株）　社長　　小松昭夫
(財)人間自然科学研究所　　理事長

強くなれば生きられない、優しさがなければ生きる資格がない。グローバル時代に、衣食住が足った国で楽しく生きられる人間は、「楽しく持続的に生きられる世界をつくる。私たちがつくる」という言葉から生まれる。東西の冷戦とその終焉から生まれた、世界規模での核拡散、温暖化、金融不安、多極化を迎えた今日、朝鮮半島と日本、その間にある日本海と竹島は、人類の新たな繁栄か、破滅かの命運を担う地域である。

日本と近隣諸国との間で再生産され続ける怨念、恨み、打算を、昇華に導き、対立の文化から共生の文化に止揚しなければ内部崩壊さえ危惧される。

竹島と日本海の呼称、各国議会で取り上げられた従軍慰安婦の問題は、国民国家と人間の尊厳が問われている本質的な問題であり、グローバル時代の人間経営学の視点から考察すれば、共生時代への幕開けと捉えることができる。

三大核大国から大きな影響を受け、緊張関係にある日本、大韓民国、そして朝鮮民主主義人民共和国が、平和・環境・健康をテーマに、対立のエネルギーを止揚に導く構想を立案、新たなアイデンティティーの確立と繁栄へのプロセスを通じて、世界の紛争地帯に希望と勇気を提供できる時がきた。

하늘의 때·땅의 이익·사람의 화(和)

코마츠전기산업(주) 사장 코마츠아키오
(재)인간자연과학연구소 이사장

강하지 않으면 살아 남을 수 없다. 그러나 부드러움이 없다면 살아갈 가치가 없다. 글로벌 시대에 의식주가 풍족한 나라에서 즐거움을 영위하는 사람들은 「재미있게 영원히 살 수 있는 세상을 만든다. 바로 우리가 만든다」라는 말에서 생겨난다. 동서냉전과 그 시대의 종언에 생겨난 세계적 규모의 핵 확산·지구온난화·금융불안·다극화시대를 맞이한 지금, 한반도와 일본, 그리고 그 안에 존재하는 동해·일본해, 독도·다케시마는 인류의 새로운 번영인가, 파멸인가의 운명을 좌우하는 지역이다.

일본과 근접 국가 간에 계속적으로 반복 되고 있는 한(恨)·원한(怨念)·타산을 승화로 이끌어, 대립의 문화에서 공생의 문화로 지양(止揚/아우프헤벤)하지 않는다면 내부의 붕괴마저 초래할 수 있다.

독도·다케시마와 동해·일본해의 명칭 그리고 각국 의회에서 다루어진 종군위안부 문제는 국민 국가와 인간의 존엄이 걸린 본질적인 문제이며, 글로벌 시대의 인간경영학 시점에서 고찰한다면, 공생 시대의 개막이라고 할 수 있다.

3 대 핵大国(미국, 중국, 러시아)으로부터 많은 영향을 받아, 긴장 관계에 있는 일본, 대한민국, 그리고 북한이 평화·환경·건강을 테마로 대립의 에너지를 지양(止揚/아우프헤벤)으로 이끄는 구상을 입안하고, 새로운 아이덴티티의 확립과 번영의 프로세스를 통해, 세계의 분쟁 지역에 희망과 용기를 제공할 시기가 왔다.

天时・地利・人和

小松电机产业（株）社长 小松昭夫
人间自然科学研究所 理事长

不坚强就无法生存，不和善就没有生存的资格。全球一体化时代，生活在丰衣足食国家的幸福的人们，将从“创造永久幸福的世界，我们一同来完成”这句话中诞生。由东西冷战及其结束，产生了世界规模的核扩散、全球变暖、金融不安、社会多极化等现象。今天，介于朝鲜半岛和日本之间的日本海、竹岛，是关乎人类新兴繁荣，或是毁灭命运的地区。

日本和邻近诸国间不断连续再生的怨念、憎恨、计较，如果不引导其升华，扬弃对立文化向共生文化转变，恐怕会导致内部体系的崩溃。

竹岛・独岛的名称问题，在各国民议会被提起的随军慰安妇问题，是探寻国民国家和人类尊严的最本质问题。从全球一体化时代人类经营学的角度考虑，能够捕捉到向共生时代发展的开端。

在受三个核大国的影响，并且关系处于紧张状态的日本，韩国及朝鲜，以和平、环境、健康为主题，引导扬弃对立能量，并通过确立新的认同性和走向繁荣的过程，为世界充满纷争的地区带来希望和勇气。

Timing, Place, Harmony

Komatsu Electric Industry Co., Ltd
President Akio Komatsu

There is no qualifications to live without the gentleness that cannot live if not strong. The human being who can live happily in the country where food, clothing and house were worth in the global times "is born from words that "We make the world that can live persistently happily. We make it". Born from the East-West Cold War and the end, today when I greeted the nuclear proliferation in the global scale, warming, a financial panic, multipolarization, Korean Peninsura and Japan, between the Sea of Japan and Takeshima Island is an area taking fate of the ruin or new prosperity of the human

The grudge that continues being reproduced between Japan and neighboring countries I lead a grudge, a calculation to the sublimation, it is misgiven even inside collapse if we do not sublate from culture of the opposition to culture of the symbiosis

Naming of Takeshima Island and the Sea of Japan, the problem of picking up army nurse in each national conference, the essential problem that one-country-one-nation and human dignity are asked, and if we consider it from the viewpoint of the human being business administration of the global times can regard it as an opening scene to the symbiosis times.

It is taken big influence by the three major nuclear powers, Japan, Korea and the Democratic People's Republic of Korea which have a relation of strain, a theme with peace · environment · health, draw up a design to lead energy of the opposition to the sublation, through establishment of new identity and a process to the prosperity, time when we could offer hope and courage to the trouble zone in the world

大韓國人 安重根の 東洋平和論

大韓民國 中央大學校 名譽教授
安重根義士紀念館 館長
金鎬逸

1

“私が韓国独立を回復し東洋平和を維持するために三年のあいだ海外でその日暮らしの野宿をしながらも、ついにその目的を達することができず、この地に死するにあたって我ら二千万兄弟姉妹は、それぞれ自ら奮發して学問に力を尽し、實業を振興して私の及ぼそうとした意志を受け継いで自由独立を回復するなら死ぬもの遺恨がない”。この遺言は安重根(1879.9.2~1910.3.26)が殉国する前二千万の我が民族に残した言葉だ。

安重根の32年の短い人生はひたすら大韓の独立と東洋平和のために身を殺して、仁を成した民族の太陽であった。民族主義史学者で大韓民国臨時政府の第2代大統領であった独立運動家白岩朴殷植は、”安重根の歴史に根拠して彼を評価する時、ある者は身をささげて国を求めた志士だと言ったし、または韓国のために仕返しした熱烈な侠客だとも言われた。私はこういう贊辞に終わったら足りないところがあると思う。安重根は世界的な眼光を持って平和の代表者を自認した人だ”と言って、安重根を志士や義士という実践的な行動家であると同時に、これを支える思想家としての位置をもっと強調していることが分かる。

事實 安重根は、国権回復のための教育救国運動と物産奨励運動に先立った民族の先覚者であり、カトリックの篤い信者として布教活動を展開した宗教活動家でもあった。また直接武器を持って日本帝國主義の軍警と対立し戦っている義兵らを指揮した將軍でもあった。また、韓国を侵略した日本の初代統監で総理大臣を歴任した樞密院の議長伊藤博文を中国黒龍江省のハルビン驛頭で砲殺した大韓の英雄として、私たち民族史に永遠に残る偉大な業績を成し遂げたのである。

安重根のこのような実践的で果斷性ある偉業には、彼の独特的思想が裏付けられていたし、それは ‘東洋平和論’ という理論があったからである。東洋平和論は、彼が普段持っていた 愛天・愛人・愛国の 3 大精神を土台にした儒教思想、開化思想、キリスト教思想が複合された思想体系であった。東洋平和論の窮極

の目的は、東洋の代表的な国家である韓国・中国・日本の三国がそれぞれ独立国家としての主権を持ちながら、国際社会においてはお互いに協力して西欧帝国主義の侵略に共同で対処する一方、三国が共同繁栄をはかる方案を具体的に提示した政策理論であった。

2

東洋平和論は、もちろん安重根だけが主張した理論ではなかった。この用語は、日本の為政者や知識人たちが掲げた侵略政策から始まった。すなわち 19世紀末以来、日本帝國主義が侵略を取りつくろう策として使った自国の利益のみのための反平和的な単語であった。それは‘脱亜論’‘大同合邦論’‘アジア連帯主義’などを掲げて、韓国を含めたアジア各国を侵略して大日本帝国を作ろうとした日本帝国主義の膨脹理論から出発したのであった。

韓国では開化思想家たちによって外勢の侵略に対処し国家の主権を守って東洋平和を成遂げるために、‘中立論’が上策という主張から出発している。社会進化論に目覚め始めた開化派人士らは、三国連帯論を打ち出したり、日帝のアジア連帯主義に同調する傾向に進んで行った。

国権を喪失しつつある当時の情勢の中で、安重根をはじめとする民族の先覚者たちは日帝のお決まりの東洋平和の理論に反旗をあげ、眞の意味での東洋平和をもたらす理論を模索することになるが、その白眉が安重根の東洋平和論だと言える。

安重根の東洋平和論は、東洋の大勢の関係と平和戦略の意見を開進しようとした内容であった。だが、この理論は、不幸にも未完の作品として世の中に目のを見た。それは、安重根が東洋平和論の完成まで至らずに殉国したからであった。

安重根が東洋平和論を構想したことは、彼が即興的な感情からではなく民族運動を展開しながら救国の方略をそれなりに考え整え、当時の言論と書籍を通じて知識の幅を広げ、民族運動家たちを教育しながらより一層確固な信念を持つようになったのである。

彼は当時の新聞であった、大韓毎日新報、漢城新聞、帝国新聞のような国内新聞と、アメリカで発行された 公立新聞、沿海州ウラジオストックで発行された大東共報等を購読し、著書では「泰西新史」、「萬國史」、「朝鮮史」、「萬國公法」などを読んで理論定立の手がかりとした。

これと共に安重根は、彼が接触した人士からも一定の影響を受けたと思われる。まず彼は、儒教的な素養を彼の祖父である仁壽(インス)公から漢学の基本的な教養書による教育を受け、開化思想に対する部分は、父の泰勳(テフン)公から影響を受けた。また 天主教の神父のビルレム(洪錫九)やルガック(郭元良)宣教師

等により 国際情勢や西欧思想に目覚めたと見なければならないだろう。彼らのなかには、島山 安昌浩、溥齋 李相禹、李範允等がいる。

3

安重根の東洋平和論の執筆は、6回にわたった裁判過程を終えて旅順地方法院の法廷で死刑が言い渡された後から始まった。すなわち 1910年2月14日死刑が求刑された後、刑執行だけを残した状態で、先に「安應七 歷史」という個人 傳記を同年3月15日に脱稿した後、殉國した3月26日までの11日間で序文と前鑑 一部だけを残して未完成のまま終わった作品である。

日帝関東都督府高等法院長との対談で安重根は、東洋の大勢と平和政略に対する見解を明らかにしようするために1ヶ月だけ死刑執行を延ばしてくれるよう述べた。法院長がこれを承諾し、安重根はその執筆を始めた。しかし前述したように死刑執行が繰り上げられたせいで、東洋平和論は完成されなかつたのである。

元々東洋平和論は、1.序文 2.前鑑 3.現象 4.伏線 5.問答で構成しようとしたようである。序文は、19世紀 帝國主義時代において東洋三国の團結を強調し、これを通じて西欧帝國主義列強の侵略を阻んで 特に防禦策を講じなければな

らないと主張した。前鑑とは前の人の事を鑑として自らを警戒しようという意味であり、そこでは現象は現われて見える現在の状態を記述しようとした。伏線は、後の事を備えてあらかじめ構えておく事、すなわち これから発生する事件に対する準備として、それに係わる事を先にあらかじめ照らして見る事を意味する。問答では お互いに聞いて答えることとして結論を結ぼうとした。

“成功と失敗は、古今つねに決まった物事の道理である。今日世界は、東西にわかれても人種がそれぞれ異なり お互いに競争することを好み、利器の研究に農商よりもっと夢中になって新たに電氣砲、飛行船、浸水艇(潜水艦)等を発明しているが、これらは人や事物を害する機械である。若い青年たちを訓練して戦場におくり無数の貴重な生靈が犠牲物のように打ち捨てられ、血は川をなし、死骸は積もって山を成して止む日がない”。この文章から始まる序文は、弱肉強食、適者生存の論理の中で国際社会が自国の利益のために弱小国を踏み台とする時代的状況を見抜いた。ひいては人間尊重と人類の共同繁栄と言う大前提は無視されたまま戦争という暴力を動員しても霸権を掌握し、そのために先を争って戦争武器の開発に拍車をかけていた時代の状況を、序文は痛烈に批判している。

筆者は、つづいて 西洋帝国主義の国々の侵略性と暴力性を糾弾しながら、その中でも もっともひどい国が帝政ロシアだと見ていた。このような帝政ロシア

の南進政策を退けることができる勢力は日本であったので韓国と清国が日本を助けて戦争を勝利に導いたと主張していた。

4

“昔から東西南北どの州を問わず予測しにくいことは、大勢の變化であり、わからないことが人心の移り変わり”と言しながら、前鑑では歴史の進展は人間の意志如何によって決まるという意識を持って、19世紀末から20世紀初までアジア大陸で起きた1894年の清・日戦争、1904-1905年の露・日戦争を通じた東洋社会の流れを次のように説明していた。

第一に、清・日戦争でその戦争の原因と日本が勝利した理由、そして清國が敗れた理由を民族性の側面から分析した。すなわち この戦争で日本の勝利した理由は、明治維新以後 舉國的に上下人民たちが力を結集して対処したから戦争を勝利に導いたと見ていた。これに反して清國の敗れた理由は、中華思想に基づいた自惚れと権威主義、国論の分裂、支配階層に対する民衆の不信、政治の紊乱などが惨敗をもたらしたと見ていた。

第二に、帝政ロシアの極東政策に対する憂慮と日本の過失を論じている。三国干渉によって帝政ロシアが日本を牽制し清国が遼東半島を回復しながらも、遼東半島の旅順の租借に成功して、不凍港を得るための南下政策の実状を批判しながら そのすべてが日本が清国との戦争を起こしたからだと 筆者は述べていた。

第三に、日・露戦争の原因、その性格、西欧列強の対策、韓国・清国の対応等を鋭い眼で分析し、その得失を批判している。安重根の立場で見れば、韓国の独立保障と東洋平和のために日本が帝政ロシアと戦争をするということは言語道断であり、韓国の主権を無視し韓国人の意思を尊重しないで戦争を挑発したことを辛辣に批判した。

その当時日本は、さいわいにも連勝をおさめたが、まだ咸鏡道、遼東半島 旅順、満州 奉天地域を占領できないまま 戦争状態であった。この時、韓国の官民が一致団結し、日本を相手にしたとすれば、1895年乙未年日本人が韓国の明成皇后を無惨に殺害した仕返しすることができたと主張し、清国も上下が協同して、かつての義和団の時のように行動したとすれば、1894年甲午年の念願を果たせたはずだ。と安重根は見ていた。

それとともに日本を相手として韓国と清国がお互いに争ったらこの間隙を利用してイギリス・フランス・アメリカ・ドイツ・イタリア・オーストリア・ポルトガル・ギリシア等が山東半島渤海灣に軍隊を集めながら脅威を加えるであろう。そのようになれば仕方なく日本・清国が対抗するようになり これによつて 東洋は自滅するしかないと説破した。

第四に、日露戦争の講和條約がアメリカの仲裁の下に、それもアメリカの領土であるポートマスで締結するようになった理由に問題を呈して、ここに人種間の差別を見て、韓国がロシアとははじめから関係がないのにもかかわらず條約文に韓国問題を入れた理由を問題にしている。

第五に、安重根は日本帝國主義に対して強い警鐘を与えている。同じ黄色人種ながら韓国を侵略して支配しようとした日本帝國の大陸侵略政策を糾弾し、いつかはそれに対する代価を受けると強く批判した。

5

以上、獄中で安重根が筆を執った「東洋平和論」の中で「前鑑」部分の内容であるが、この内容も全部述べることができたわけではない。

したがって現在、序文、前鑑の一部分を持って東洋平和論全体を明らかにすることはできない。しかし断片的に審問調書や、特に安義士が 1910 年 2 月 17 日 関東都督府高等法院長と面談した内容を記した‘聴取書’には、東洋平和論に対する安重根の理想が盛られている。まず東洋の中心地で遼東半島の港町である旅順を永世中立地で作って各国代表による常設委員会を設置することとともに、下記の〈箱記事参照〉のような政策を施行することを主張した。

〈旅順永世中立地設置施行方案〉

1. 東洋平和會議の組職

三国である民の中で会員募集、財政は 1 人当たり会費 1 ウォン募金額で運営

2. 共同銀行設立、共同貨幣発行

三国が共同で出資し銀行設立、各國 共用貨幣発行

3. 組職機構の拡大

三国の重要地域に平和會議支部と銀行支店 設置

4. 永世中立地旅順保護

日本 軍艦 5~6 隻を港に停泊させて保護担当

5. 平和軍の養成

各国青年募集、最小限 2 ヶ国語教育

6. 共同経済発展

日本の指導の下 韓国・清国の商工業発展 圖謀

7. 国際的承認

韓国・中国・日本のリーダーがローマ法王から大觀を受ける

8. 日本の侵略蛮行反省

韓国と中国に対する日本帝國主義の侵略糾弾と対応

東洋平和論は西勢東占という帝国主義の波の中に彼らの侵略と収奪に対応して東洋三国が共同対処するという理論である。この東洋平和論は、韓国の開化論者たちが主張した中立論や日本の國粹主義者たちのアジア連帶論とは次元が違うものだった。

ほぼ 100 年前に人類の普遍的な幸福を追い求める平和の論理を開いた安重根の東洋平和論は、彼の熾烈な短い人生の中から湧き出た成果であった。

安重根の東洋平和論は、一時代一地域を超えた地球上のすべての人類が平和に仲良く暮すことができる理想郷を志向し、まず東洋三国である韓国、中国、日本が共同体を構成して模範を見せようとした。この安重根の東洋平和論は、現在ヨーロッパで施行されているヨーロッパ連合(EU)の先行理論であり、その証であると言える。

대한국인 안중근의 동양평화론

한국 중앙대학교 명예교수

안중근의사기념관장

김호일

1

“내가 한국독립을 회복하고 동양평화를 유지하기 위하여 삼년동안 해외에서 풍찬 노숙하다가 마침내 그 목적을 도달치 못하고 이곳에서 죽노니 우리들 2 천만 형제자매는 각각 스스로 분발하여 학문에 힘쓰고 실업을 진흥하여 나의 끼친 뜻을 이어 자유 독립을 회복하면 죽는 자 유한이 없겠노라”

이 유언은 안중근(1879. 9. 2 ~ 1910. 3. 26)이 순국하기 전 2 천만 우리민족에게 남긴 내용이다.

안중근은 32 년의 짧은 인생의 역정을 오직 대한의 독립과 동양평화를 위하여 살신성인한 민족의 태양이었다. 민족주의 사학자이며 대한민국 임시정부 2 대 대통령이었던 독립운동가 백암 박은식은 “안중근의 역사에 근거하여 그를 평가할 때 어떤 사람은 몸 바쳐 나라를 구한 지사라 하였고 또는 한국을 위해 복수한 열렬한 협객이라고 하였다. 나는 이런 찬사에 그친다면 미진한 바가 있다고 생각한다. 중근은 세계적인 안광을 가지고 평화의 대표자를 자임한 사람이다”라고 하여 안중근을 지사나 의사라는 실천적 행동가임과 동시에 이를 뒷 받쳐 주는 사상가로서의 위상을 더욱 강조하고 있음을 알 수 있다.

사실 안중근은 국권회복을 위한 교육구국운동과 물산장려운동에 앞장선 민족의 선각자이었고 천주교의 독실한 신자로 포교활동을 전개한 종교 운동가였으며 직접 무기를 들고 일본제국주의의 군경과 맞서 싸운 의병을 지휘한 장군이기도 하였다. 또한 한국을 침략한 일본의 初代統監이었으며 總理大臣을 역임한 樞密院 의장 이토 히로부미를 중국 흑룡강성 하얼빈 역에서 포살한 대한의 영웅으로 우리 민족사에 기리 남을 위대한 업적을 이룩한 인물이었다.

안중근의 이러한 실천적이고 과단성 있는 위업은 그의 독특한 사상이 뒷받침되었으며 그것은 ‘동양평화론’이라는 이론이 있었기 때문이다. 동양평화론은 그가 평소에 가지고 있었던

애천·애인·애국의 3 애 정신을 바탕으로 한 유교사상, 개화사상, 기독교사상이 복합된 사상체계였다. 동양평화론의 궁극목적은 동양의 대표적인 국가인 한국·중국·일본 3 개국이 각기 독립국가로서의 주권을 가지면서 국제사회에 있어서는 서로 협력하여 서구제국주의 침략에 공동으로 대처하는 한편 안으로는 3 국이 공동번영을 도모하는 방안을 구체적으로 제시한 정책이론이었다.

2

동양평화론은 물론 안중근만이 주장한 이론은 아니었다. 이 용어는 일본의 위정자나 지식인들이 내걸었던 침략정책에서 시작되었다. 즉 19 세기말 이래 일본제국주의가 침략의 호도책으로 사용하여 자국의 이익만을 위한 반 평화적인 단어였다. ‘탈 아론’, ‘대동 합방론’, ‘아시아연대주의’ 등을 내걸고 한국을 비롯한 아시아 각국을 침략하여 대일본제국을 만들려고 했던 일본제국주의의 팽창이론에서 출발했던 것이다.

한국에 있어서는 개화 사상가들에 의하여 외세의 침략에 대처하고 국가의 주권을 지키고 동양평화를 이룩하기 위하여 ‘중립론’이 상책이라는 주장에 출발하고 있다. 사회진화론에 눈뜨기 시작한 개화파인사들은 삼국 연대론을 내세우기도 했고 일제의 아시아연대주의에 동조하는 경향으로 기울어져 갔다.

국권이 상실되어가는 당시의 정세 속에서 안중근을 비롯한 민족의 선각자들은 일제의 상투적인 동양평화 이론에 반기를 들고 진정한 의미에서 동양평화를 가져올 이론을 모색하게 되고 그 백미가 안중근의 동양평화론이라고 할 수 있다.

안중근의 동양평화론은 동양의 대세의 관계와 평화전략의 의견을 개진하려고 한 내용이었으나 불행하게도 미완의 작품으로 세상에 햇빛을 보았으니 그것은 안중근이 동양 평화론을 미처 탈고하지 못한 채 순국하였기 때문이다.

안중근이 동양평화론을 구상한 것은 즉흥적인 감정에서가 아니라 민족운동을 전개하면서 구국의 방략을 나름대로 생각하고 다듬으면서 당시의 언론, 관계서적을 통하여 지식의 폭을 넓히고 민족운동가들과의 교류를 통하여 더욱 더 확고한 신념 속에서 나온 결과였다.

그는 당시의 신문이었던 대한매일신보, 황성신문, 제국신문과 같은 국내신문들과 미국에서 발행되던 공립신문, 연해주 블라디보스토크에서 발행되던 대동공보 등을 구독하면서, 저서로는

「태서신사」, 「만국사」, 「조선사」, 「만국공법」 등을 읽고 이론정립에 도움을 받았다.

이와 함께 안중근은 그가 접촉했던 인사들로부터도 일정한 영향을 받았다고 볼 수 있다. 우선 유교적인 소양을 그의 조부인 인수공으로부터 한학의 기본적인 교양서를 교육받았으며, 개화사상에 대한 부분은 부친 태훈공으로부터 영향을 받았으며, 천주교신부였던 빌렘(홍석구)이나 르각(곽원량)선교사 등으로부터 국제정세나 서구사상에 눈을 떴다고 보아야 할 것이다. 이와 함께 국내 독립운동가들로부터 많은 영향을 받았으니 도산 안창호, 보재 이상설, 이범윤 등이 그들이라고 할 수 있다.

3

안중근의 동양평화론은 6 회에 걸친 재판과정을 끝내고 여순 지방법원 법정에서 사형언도가 내려진 뒤부터 집필이 시작되었다. 즉 1910년 2월 14일 사형언도 후 형 집행만 남은 상태에서 먼저 「안웅칠 역사」라는 개인 전기를 동년 3월 15일에 탈고한 뒤 순국한 3월 26일 사이인 11일 사이에 서문과 전감일부분만 집필한 미완성인 채 끝난 작품이다.

일제 관동도독부 고등법원장과의 대담에서 안중근은 동양대세와 평화정략에 대한 견해를 밝히고자하니 1개월만 사형집행을 늦추어 달라고 요구했다. 이에 대하여 법원장은 집필이 완료될 때 까지 연기해 주겠다고 이를 허락하자 동양평화론의 집필을 시작하였던 것이다. 그러나 전술한 바와 같이 사형집행이 빨라짐으로 인하여 집필의 끝을 마치지 못 했던 것이다.

원래 동양평화론은 1. 서문, 2. 전감, 3. 현상, 4. 복선, 5. 문답으로 구성하려고 하였던 것 같다. 서문은 19세기 제국주의시대에 동양 3국의 단합을 강조하고 이를 통하여 서구제국주의의 열강의 침략을 막고 특히 방아책을 강구하여야 한다고 주장하였다. 전감은 앞사람의 일을 거울삼아 스스로 경계하자는 뜻이었고 현상은 나타나 보이는 현재의 상태를 기술코자 했으며 복선은 뒤의 일을 대비하여 미리 꾸며놓는 일 즉 앞으로 발생할 사건에 대한 준비로서 그에 관련된 일을 앞에서 미리 비쳐 보이는 일을, 문답은 물음과 대답, 서로 묻고 대답하는 것으로서 결론을 맺고자 했던 것이다.

“성패는 만고에 항상 정해진 이치이다. 오늘날 세계는 동서로 갈라지고 인종이 각각 다르며 서로 경쟁하기를 밥 먹듯 하며 이기연구에 농상보다 더욱 열중하여 새로 전기포, 비행선, 침수정 등을

발명하고 있으니 이것들은 사람이나 사물을 상해하는 기계들이다. 젊은 청년들을 훈련시켜 전쟁터에 몰아넣어 수없는 귀중한 생령들이 희생물처럼 버려져 피가 내가되어 흐르고 시체는 쌓여 산을 이루어 그칠 날이 없다”로 시작되는 서문은 약육강식, 적자생존의 논리 속에서 국제사회가 자국의 이익을 위하여 약소국을 제물로 화하는 시대적 상황을 짚어 보았다. 나아가 인간준중과 인류의 공동번영이란 대전제는 무시당한 채 전쟁이라는 폭력을 동원해서라도 패권을 장악하고 이를 위해 다투어 전쟁무기개발에 박차를 가하고 있던 시대상황을 통렬히 비판하고 있다. 이어서 서양제국주의 국가들의 침략성과 폭력성을 규탄하면서 그중에서도 가장 심한 국가가 제정 러시아라고 보았다.

이러한 제정 러시아의 남진정책을 물리칠 수 있는 세력은 일본이었고 그래서 한국과 청국이 일본을 도와 전쟁을 승리로 이끌었다고 주장했다.

4

“예로부터 동서남북 어느 주를 막론하고 예측하기 어려운 것은 대세의 반복이요 알 수 없는 것이 인심의 변천”이라고 하면서 전감에서는 역사의 진전은 인간의 의지여하에 따라서 결정된다는 의식을 가지고 19 세기 말에서 20 세기 초까지 아시아 대륙에서 치루어졌던 1894년 청·일 전쟁, 러·일 전쟁을 통한 동양사회의 흐름을 다음과 같이 설명하였다. 첫째 청·일 전쟁에서 그 전쟁의 원인과 일본이 승리한 이유와 청이 패배한 이유를 민족성의 측면에서 살펴보았다 즉 동학농민운동이 외세를 끌어들여 한국인의 의사와 관계없이 청·일 전쟁이 일어났다고 보았다. 또한 이 전쟁에서 일본이 승리한 이유는 명치유신 이후 거국적인 상하 인민들이 힘을 결집하여 대처하였기 때문에 전쟁을 승리로 이끌었다고 보았다. 이에 반하여 청국이 패배한 이유는 중화사상에 바탕을 둔 자만과 권위주의, 국론의 분열, 지배계층에 대한 민중의 불신, 정치의 문란 등이 참패를 가져왔다고 보았다.

둘째 제정 러시아의 극동정책에 대한 우려와 일본의 과실을 논하고 있다. 3국 간섭에 의하여 제정러시아가 일본을 견제하면서 청국이 요동반도를 환부 받게 만들어 주면서 요동반도의 뒤순조차를 성공하고 부동항을 얻기 위한 남하정책의 실상을 비판하고 그 모든 것이 일본이 청국과의 전쟁을 일으켰기 때문이라고 하였다.

셋째 러·일전쟁의 원인, 그 성격, 서구열강의 대책, 한국·청국의 대응 등을 예리한 형안으로 분석하여 그 특실을 비판하고 있다. 안중근의 입장에서 보면 한국의 독립보장과 동양평화를 위해서 일본이 제정러시아와 전쟁을 한다는 것은 언어도단이며 한국의 주권을 무시하고 한국인의 의사를 존중하지 않고 전쟁을 도발한 것을 신랄히 비판하였다.

그 당시 일본은 요행이 연승을 거두었으나 아직 함경도, 요동 반도 여순, 만주 봉천지역을 점령하지 못한 전쟁상태였는 바 이때 한국의 관민이 일치단결하여 일본에 대항하였다면 1895년 을미년 일본인이 한국의 명성황후를 무참히 시해한 원수를 갚을 수 있었다고 주장하고 청국도 상하가 협동하여 전날 의화단 때와 같이 행동했다면 1894년 갑오년의 숙원을 갚았을 것이라고 보았다.

그러면서 일본을 상대로 한국과 청국이 서로 다투다면 이 틈새를 이용하여

영국·프랑스·미국·독일·이탈리아·오스트리아·포르투갈·그리스 등이 산동 반도 발해만으로 군대를 집결시키면서 위협을 가할 것이다. 그렇게 되면 어쩔 수 없이 일본·청국이 대항하게 되고 이에 따라 동양은 자멸할 수밖에 없다고 설파하였다.

넷째 러·일 전쟁의 강화조약이 미국의 중재하에 그것도 미국영토인 포오츠머스에서 체결하게 된 이유에 문제를 제기하면서 이것을 인종간의 차별로 보면서 조약문에 한국이 러시아와 처음부터 관계가 없는데 한국문제를 넣은 이유가 무엇인가를 묻고 있다.

다섯째 안중근은 일본제국주의에 대하여 강한 경종을 주고 있다. 같은 황인종이면서 한국을 침략하여 지배하려한 일본제국주의의 대륙침략정책을 전면 공격하면서 언젠가는 그 값을 치룰 것이라고 강하게 비판하였다.

5

이상 옥중에서 안중근이 집필한 「동양평화론」 중 전감의 내용인 바 이 내용도 전부 서술되어진 것 같지 않다.

그러므로 현재 서문, 전감의 일부분을 가지고 동양평화론 전체를 밝힐 수는 없다. 그러나 단편적으로 심문조서 등과 특히 안 의사가 1910년 2월 17일 관동도독부 고등법원장과 면담한 내용을 담은 '청취서'에 동양평화론에 대한 안중근의 이상이 담겨있다. 우선 동양의 중심지이며 요동반도의 항구도시인 뤼순을 영세중립지로 만들어 각국

대표에 의한 상설위원회를 설치함과 동시에 다음과 같은 정책을 시행할 것을 주장하였다.

〈뤼순 영세중립지 설치 시행 방안〉

1. 동양평화회의 조직
3 국인 민중에서 회원 모집, 재정은 1 인당 회비 1 원 모금액으로 운영
2. 공동은행 설립, 공동화폐 발행
3 국이 공동 출자하여 은행 설립, 각국 공용화폐 발행
3. 조직기구의 확대
3 국 중요 지역에 평화회의 지부와 은행지점 설치
4. 영세중립지 르순 보호
일본군함 5~6 척을 항구에 정박시켜 보호 담당
5. 평화군 양성
각국 청년모집, 최소한 2 개 국어 교육
6. 공동경제발전
일본의 지도 아래 한국·청국의 상공업 발전 도모
7. 국제적 승인
한국·중국·일본 지도자가 로마교황으로부터 대관을 받음
8. 일본의 침략만행 반성
한국과 중국에 대한 일본제국주의의 침략 규탄과 대응

서세동점이라는 제국주의 물결 속에 그들의 침략과 수탈에 대응하여 동양 3 국이 공동 대처한다는 이론인 동양평화론은 한국의 개화론자들이 주장한 중립론이나 일본 국수주의자들의 아시아연대론과는 차원이 다른 것이었다.

지금으로부터 거의 100 년 전에 인류의 보편적 행복을 추구하는 평화의 논리를 펼던 안중근의 동양평화론은 그의 치열한 짧은 삶의 역정 속에서 우러나온 결과였다.

한 시대 한 지역을 넘어선 지구상의 모든 인류가 평화롭게 오순도순 사이좋게 살 수 있는 이상향을 지향하고 우선 동양 3 국인 한국·중국·일본이 공동체를 구성하여 모범을 보이고자한 안중근의 동양평화론은 현재 유럽에서 시행하고 있는 유럽연합(EU)의 선행이론이었고 그 본보기라 할 수 있다.

大韩国人 安重根的东洋和评论

大韩民国 中央大学 名誉教授
安重根义士纪念馆 馆长
金镐逸

1

“为了恢复韩国独立维持东洋和平，三年来一直在海外过着风餐露宿的生活，但是最终也未能达到这个目的。这片土地上我的两千万兄弟姐妹，如果能够继承我的遗志，发奋图强努力学习，实现自由独立的话，那我将死而无憾。”这是安重根(1879. 9. 2-1910. 3. 26)殉国之前为我们民族二千万儿女留下的遗言。

安重根在他短暂的32年人生中，为大韩独立和东洋和平不惜献出自己的生命，是成仁民族的太阳。民族主义历史学者、大韩民国临时政府第二任总统、独立运动家白岩 朴殷植说：“以安重根的历史为依据对他作评价的时候，有人称他是为国捐躯的志士；也有人称他是为韩国复仇的热血侠客。我认为仅仅是这样的赞词还不够充分，安重根是具有远见的和平代表者。”安重根可以称得上是志士或义士的实干家，同时他作为思想家的地位也不容忽视。

事实上，安重根是为国家权力复苏，率先发起教育救国运动和物质奖励运动的民族先觉者；也是作为虔诚的天主教信徒开展传教活动的宗教积极分子。他还是指挥义士们直接拿起武器与日本帝国主义军队抗击的将军。他在中国黑龙江省哈尔滨车站前，枪杀了侵略韩国的日本第一代统监，历任首相枢密院议长伊藤博文。作为大韩的英雄，他的丰功伟绩永载史册。

安重根进行如此果断性的伟大事业，证明了他独特的思想，这就是“东洋和平论”。所谓东洋和平论，是他把以敬天·爱人·爱国三大精神为基础的儒教思想、进化思想、基督教思想融合一体而形成的思想体系。东洋和平论最终的目的是：一方面代表东洋的韩国·中国·日本各自作为独立国家拥有主权，同时在国际社会中相互协作共同应对西欧帝国主义的侵略；另一方面作为政策理论提出了三国共同繁荣的具体方案。

2

当然，东洋和平论不只是安重根一人的主张。这一用语最早出现于日本当政者和有识之士们提出的侵略政策中。也就是说19世纪末以来，这个词作为日本帝国主义掩饰侵略的策略，是只图自国利益的反和平性词语。它是从提出“脱亚论”、“大同合邦论”、“亚洲联合主义”，打算创建大日本帝国，侵略韩国在内

亚洲各国的日本帝国主义膨胀论出发的。

在韩国，开化思想家们为应对外部侵略保护国家主权进而实现东洋和平，把“中立论”作为上策提出。对社会进化论开始觉醒的开化派人士们提出三国联合论，有赞同日帝提出的亚洲联合主义的倾向。

面对国家主权逐渐丧失，以安重根为首的民族先驱们向日帝推出的东洋和平理论举起反对旗帜，摸索真正意义上由东洋和平引出的理论。其中最为出色的是安重根的东洋和平论。

安重根的东洋和平论的内容主要是为了拓展东洋众多关系及和平战略建议。但是，由于安重根不幸殉国，这个理论也作为尚未完成的作品流传于世。

安重根构想的东洋和平论，不是出自他即兴的感情，而是在一边开展民族运动一边寻求相应救国策略时，经过深思熟虑得出的。通过当时大量言论和书籍不断扩大知识面，对民族运动者们进行教育的同时，也越发坚定了自己的信念。

安重根大量购读当时的报纸，如大韩每日新报、汉城新闻、帝国新闻等国内报刊，以及美国发行的公立报，沿海港口国家符拉迪沃斯托克发行的大同公报等；另外通过阅读《泰西新史》、《万国史》、《朝鲜史》、《万国公法》等书籍，为理论命题提供了重要依据。

与此同时，安重根也从与他接触的人士那里受到一定影响。首先，儒家的素养是从他祖父仁寿那里通过学习汉学基础教科书得来。进化思想的部分，是受父亲泰勋的影响。另外，从天主教神父 Biruremu(洪锡九)和 rugakku(郭元良)传教士等处得知必须认清国际形势和西欧思想。他们之中还有岛屿 安昌浩、傅齐 李相揳、李范允等。

3

安重根开始执笔东洋和平论，是在经历 6 次审讯最终被旅顺地方法院宣判死刑之后。也就是说在 1910 年 2 月 14 日被宣布死刑等待被行刑的状态下，于 3 月 15 日发表个人传记《安应七 历史》之后，在离 3 月 26 日殉国为止 11 天内，只写下序文、前鉴部分，未能全部完成。

安重根与日帝关东都督府高等法院院长面谈时，提出延缓 1 个月行刑的请求，目的是为了更加明确东洋的大势与和平政略。得到院长同意后，安重根开始东洋和平论的撰写，但是由于死刑被提前执行最终无法完成。

最初东洋和平论计划由五部分构成：1. 序文 2. 前鉴 3. 现象 4. 伏笔 5. 问答。序文，主张在 19 世纪帝国主义时代团结东洋三国，以此阻挡西欧帝国主义列强的侵略，特别要注意加强防御策略。前鉴，意思是以前人之事为鉴，警戒自己。这一部分记述了所能看见的现状。伏笔是指为之后的事情做准备。也就是说作为对今后发生的事情的准备，提前预见与那件事相关的事情。问答，是以互相间的问答内容为基础最后得出结论。

“成功与失败，是古今决定事物的道理。当今世界被划分为东西两部，人种各自存在差异并爱好相互竞争。比起农业商业，人们更热衷于对利器的研究以及新发明，如电气炮、飞艇、潜水艇(潜水军舰)等，这些都是有害于人和事物

的器械。青年们接受训练后被送上战场，无数宝贵的生灵象牺牲品一样被置之不理。血流成河，死尸堆积如山。”以上述文章开头的序文，认清了在弱肉强食、适者生存的伦理中，国际社会处于只图自国利益而把弱小国家作为踏脚石的一种现实状况。进而痛斥了无视互相尊重和人类共同繁荣的大前提，发动战争、夺取霸权，争先恐后的推动战争武器开发的时代状况。

笔者认为，在不断谴责西洋帝国主义各国侵略性和暴力性的同时，可以发现那其间最残酷的国家其实是沙俄。因为日本具有能够抵制沙俄南进政策的势力，所以在韩国和清朝帮助下使得日本取得战争胜利。

4

“从前开始不管东南西北哪个州都难以预测的事情，随着时代巨变，现在无法明白的是人心的变化。”以此为开头，在前鉴中本着“人类意志决定历史发展”的意识，对 19 世纪末到 20 世纪初在亚洲大陆爆发 1894 年甲午战争、1904-1905 年日俄战争后的东洋社会发展作了以下说明。

第一，从民族性方面分析了甲午战争爆发、日本胜利、以及清朝战败各自的原因。即，在这场战争中日本之所以取得胜利，是因为明治维新以后举国上下人民齐心协力一同应战。反过来清朝惨败的理由，是基于对中华思想的自满和权威主义，国论分裂，民众对领导阶层失去信任，政治紊乱等导致的。

第二，对沙俄远东政策的担忧和日本的过失做了论述。

受三国干涉，沙俄牵制日本使清朝政府收复辽东半岛。与此同时成功的在辽东半岛的旅顺设租借地，得到不冻港。笔者对沙俄南下政策的实情进行批判，同时也指出其所有原因都归结于日本对清朝政府发动战争。

第三，用犀利的眼光分析了日俄战争爆发的原因、性格、西欧列强的对策、韩国·清政府的反应等，并谴责了其过失。从安重根的立场来看，为了保障韩国的独立和东洋和平，日本与沙俄发起所谓战争是荒谬绝伦的。他辛辣地批判了无视韩国主权、不尊重韩国人的意思挑起战争的恶行。

当时的日本侥幸获得连胜，由于尚未占领咸镜道、辽东半岛 旅顺、满洲 奉天地区仍处于战争状态。安重根提出，这个时候如果韩国官民能一致团结反抗日本的话，就能为 1895 年（乙未年）遭受日本人杀害的韩国明成皇后报仇。他还看到如果清朝上下一同协力，象以前的义和团时候一样行动的话，应该能够完成 1894 年甲午年的心愿。

与此同时，趁以日本为敌的韩国和清政府相争之时，英国·法国·美国·德国·意大利·奥地利·葡萄牙·希腊等军队在山东半岛渤海湾集结，加剧威胁。在这样的状况演变下日清对抗是无法避免的。也由此反驳“东洋只会自然灭亡”的说法。

第四，针对日俄战争的议和条约由美国调停，在美国朴次茅斯(Portsmouth)签订的理由提出问题。从人种差异来看，韩国与俄罗斯从开始就没有一点关系，但是韩国问题却被列入条约中，对于其理由提出质疑。

第五，安重根给日本帝国主义敲响了警钟。强烈抨击日本帝国的大陆侵略政策，对同样是黄种人的韩国实施侵略，并企图对其支配的行径，今后会为此付

出代价。

5

以上内容，均出自安重根在狱中执笔写下的《东洋和平论》中“前鉴”部分，但不是全部内容。

时至今日，仅拥有序文，前鉴一部分，还不能完全了解东洋和平论的全部。但是，从不完全的讯问笔录，特别是安义士记下的1910年2月17日与关东都督府高等法院院长面谈内容的“听取书”中，可以看出对于东洋和平论安重根的理想所在。首先提议把东洋的中心地、辽东半岛的港口城市——旅顺作为永远中立地，在那里设立代表各国的常设委员会，同时按照下述内容实施政策。

《设立旅顺永久中立地的实行方案》

1. 东洋和平会议组织

在三国国民中，征集会员。财政运营，向每人征收1韩元会费。

2. 成立联合银行，发行通用货币

三国联合出资成立银行，发行各国通用货币

3. 扩大工作机构

在三国的重要地区设立和平会议支部，银行分行

4. 对永久中立地旅顺实施保护

日本派遣5—6艘军舰停泊在港口，负责安全保卫工作

5. 培养和平军

募集各国青年，最少实行2国语教育

6. 共同发展经济

在日本的指导下，发展韩国·清政府的工商业

7. 国际认可

韩国·中国·日本的领导人接受罗马教皇的概观

8. 要求日本对侵略野蛮行为作出反省

谴责日本帝国主义对韩国和中国实施的侵略行为

东洋和平论是在西势东占的帝国主义浪潮中，东洋三国共同对抗其侵略和掠夺的理论。这个理论与韩国开化论者们主张的中立论，以及日本国粹主义者们的亚洲联合论的着眼点不同。

100多年前为追求人类普遍幸福而提出的安等根东洋和平论，是从他炙热而短暂的人生中涌现出的成果。

安重根的东洋和平论，志在建立超越时代与地区，地球上全人类都能和平友好生活的理想之乡，首先把东洋三国韩国、中国、日本作为共同体建成和平的典范。安重根的东洋和平论，可以说是现在欧洲施行的欧洲联合组织(EU)的先行理论。

Korean People Ahn Choong-Gun Orient Peace Theory

Korea Chung Ang University Honorary Professor
Ahn Choong-Gun Memorial Hall
Director Kim Hoil

1

“ I restore Korea independence, and to maintain Orient peace while doing camping-out of living from hand to mouth abroad during three years, I cannot achieve the purpose after all, we, 20,000,000 brothers and sisters, splurge by oneself each and make power in study on dying in this ground, that I take the will that I promote business, and I was going to give, and there is not thing grudge to be wasted if I come over and restore free independence sequel to”. This will is the words that I had for our race of previous 20,000,000 that Ahn Choong-gun (1879.9.2~1910.3.26) does ardent patriotism of.

Ahn Choong-Gun of the short life of 32 years devoted his life for independence and Orient peace of Korea very much earnestly, and it was the racial sun which formed humanity. It was a nationalism historian, it was said even if it was an ardent knight-errant and Park Eun-Sik of independence movement which was the second President of the Republic of Korea provisional government said to the history of the "Ahn Choong-Gun that it was the patriot whom the person there was devoted his life, and demanded a country when it did grounds, and it evaluated him or it took revenge on for Korea. I think that there is the place that I run out of if it ends in such praise. It says that person which admitted a representative of the peace with the brightness of the eye that Ahn Choong-Gun is world-famous, I understand that I emphasize a position as a thinker supporting this more at the same time to be a practical man of action called a patriot and the righteous person with Ahn Choong-Gun.

In fact, Ahn Choong-Gun is the pioneer who preceded education saving the country movement for national power recovery and product encouragement movement at bottom of a race, It was the religion activist who developed propagation activity as a Catholic ardent believer. In addition, it was the general who commanded the loyal soldiers who fought

in rivalry with the guard force of the principle of Japanese emperor country with a direct weapon. In addition, I accomplished great achievements to stay in the history of our race as a hero of Korea eternally very much that a gun killed Hirofumi Ito who successively held the Prime Minister with the Japanese first commander who invaded Korea in Harbin in China.

His unique thought was supported, and, for such a great achievement that I am practical, and there is decisiveness of the Ahn Choong-Gun , it is because there was a theory called “Orient peace theory”. The Confucianism thought that based it on three biggest mind of the heaven • sweetheart • the patriotism that he usually thought the orient peace theory, civilization thought, Christianity thought were compounded thought systems. Three countries were the policy theories that showed the plan which measured joint prosperity concretely while they cooperated each other in the global community and dealt with aggression of the principle of Europe emperor country jointly while three countries of Korea • China • Japan where the ultimate purpose was an oriental representative nation of the orient peace theory had sovereignty as the each independent nation.

2

The Orient peace theory was not the theory that of course only Ahn Choong-Gun insisted on. This term began with the aggression policy that Japanese administrator and intellectuals advocated. In other words, since 19 end of the century, it was a word of the anti-peace only for the profit of the own country which it used as the measures how the principle of Japanese emperor country kept up aggression. It advocated “escape from Asia theory”, “theory to justify Japan-Korea merger”, “Asian solidarism” and left the swelling theory of the Japan imperialism that I invaded each Asian country which was able to include Korea, and was going to make Great Japanese Empire.

Argument leaves the claim called the good plan among I deal with aggression of the outside group by civilization thinkers in Korea and protect national sovereignty, and to accomplish Orient peace. The civilization group masses who had begun to be awakened to a theory of social evolution proposed three solidarities theory and advanced to the tendency to go along with Asian solidarism of the emperor on a day.

In the then situation losing national power, the pioneers including the Ahn Choong-Gun of a race give a rebel flag to a theory of the usual Orient peace of the emperor on a day and will grope for a theory to bring the Orient peace in the true meaning, but it may be said that the best of is the Orient peace theory of Ahn Choong-Gun.

The Orient peace idea of Ahn Choong-Gun was the contents that it was going to do Oriental a large number of relations and an opinion strategic peacefully. But, unfortunately, this idea was recognized by the world as an unfinished work in the world. It was because I did ardent patriotism without Ahn Choong-Gun reaching it to completion of the Orient peace theory.

While it was not out of impromptu feelings, and he developed Zionism, it thought about the stratagem of the saving the country as such that Ahn Choong-Gun elaborated a plan for Orient peace theory, and was set, and spread by width of the knowledge through then speech and book and it depended while educating race campaigners and came to have the faith that was more absoluteness.

They were domestic newspapers like Maeil Newspaper, Han Seong Newspaper, Je Guk Newspaper then and it was published Public Newspaper in U.S.A., and he read that it was published Dae Dong publicity in Vladivostok, and read books that is Tae Seo New History, Man Gun History, Korean History, Mam Guk Law etc and assumed it the clue of the theory formation

It seems here with that came under constant influence of the masses whom he came into contact with. At first, as for him, the reputation, the part for the civilization thought were affected from Tae Hun duke of father by education by the basic culture book of Chinese classics from In Su duke who was his grandfather with the quality of Confucianism. In addition, you must consider that you were awakened to the international situation and Europe thought by Hong Seok-Gu or Gwak Won-Ryang propagator of the father of the Roman Catholicism. There are An Chang-Ho, Lee Sang-Seol, Lee Beom-Yun in them.

3

It began after the writing of the Orient peace theory of Ahn Choong-Gun could put the trial process that extended over the six times away, and death penalty was sentenced to in the court of the Yeo Sun district method House. In other words it is the work which it has only

preface and one part of the ex-models in 11 days until March 26, and was over with being unfinished after having finished writing in his above called "An Eung-Chil" in the state that left only the punishment execution earlier on March 15, the same year after death penalty was demanded on February 14, 1910.

I spoke Ahn Choong-Gun by a talk with Japanese imperialism governor-general prefecture Parlement head to postpone execution only for one month to be going to clarify the Oriental situation and an opinion for peace political tactics. The law director consented to this, and Ahn Choong-Gun began the writing. However, by the result that execution was brought forward as having mentioned above, the Orient peace theory was not finished.

Originally the Orient peace theory seems to have been going to constitute it by 1. preface 2. previous model 3. phenomenon 4. the present 5. questions and answer. The preface emphasized solidarity of Orient 3 countries in the principle of emperor country times in the 19th century, I blocked the aggression of the principle of Europe emperor country Great Powers through this, I insisted that I must take a defense in particular. The previous model was a meaning to be cautious of oneself as a model with a former person and was going to describe a current state therefore the phenomenon appeared, and to be seen. I mean that I light up that the foreshadowing possesses the back and poses beforehand namely that I am concerned with it as preparations for the case to occur from now on beforehand earlier. I was going to tie up a conclusion as question and answer each other.

" Success and the failure are reason of things which were always decided in the ancient and modern times. The world is divided into the east and west and a race is different each and likes that they compete each other, and I invent electric gun, an airship, submarine, but these are machines hurting a person and things for the study of the tool newly more absorbedly than agriculture and commerce today. "That there is not a day I train young men and see you to the battlefield, and innumerable valuable apparitions of a living person are left alone like sacrifice thing, and the blood does a river, and the corpses are piled up and form a mountain, and to stop. The preface which began with this sentence saw through the situation of the times when the global community assumed a lesser power a step for profit of an own country in the survival of the fittest, the logic of the survival of the fittest. Human being respect and joint prosperity and

the main premise to say of the human mobilize violence called the war with I have been ignored and hold hegemony, and the preface criticizes the situation in the times when therefore I compete for a point and accelerated the development of the war weapon severely in its turn.

The most terrible country considered it to be Czarist Russia in that while the writer followed, and impeaching aggression characteristics and the violence nature of countries of the West imperialism. When Korea and China helped Japan because the power which could reject the southing policy of such Czarist Russia was Japan and led war to the victory, I insisted.

4

“While it is a large number of repetition to be hard to predict regardless of any north, south, east and west state from old days, and it says with the change of the hearts of the people not to understand” with the consciousness that the development of the history is fixed at by human will state of things in the ex-model, it is just for the first time in the 20th century from 19 end of the century; explained a flow of the Orient society through the war as follows on war, the Russo-Japanese War for 1904–1905 years, the Sino-Japanese War in 1894 when got up in the Asian Continent.

First I analyzed the reason why the casus belli and Japan won by the Sino-Japanese War and the reason that China beat from the side of the ethnicity. In other words I considered the Japanese reason that won the top and bottom people concentrated power after the Meiji Restoration, and to have led war to the victory because I dealt by this war. Conceit and authoritarianism, division of the public opinion, distrust, disorder of the politics of the people for the rule hierarchy based on Sinocentrism considered the reason that lost of China to have brought a crushing defeat against this.

Second I discuss anxiety for the Far East policy of Czarist Russia and a Japanese fault. While Czarist Russia checked Japan by three interference, and China did a time of east peninsula, I succeeded in a lease of Port Arthur of the east peninsula, and the all spoke the writer while criticizing the real condition of the southing policy to get a warm-water port when the reason was because Japan woke up war with China.

Third I analyze bare casus belli, the character, the measures of the Europe Great Powers, correspondence of Korea · China with sharp eyes

on a day and criticize the loss and gain. It was unspeakable that Japan fought against Czarist Russia for Korean independent security and Orient peace and criticized that I provoked war bitingly if I looked in the situation of Ahn Choong-Gun without I ignored Korean, and respecting Korean intention.

Fortunately, Japan gained a successive victory in the those days, but it was state of war without can still occupy Ham Gyeong State, the Liaodong peninsula, Yeo Sum , Chinese area. If a citizen of Korean official got united then, and did it against Japan, a Japanese killed Korean Myeong-Seong Empress mercilessly in the second in 1895; if insisted when was able to take revenge, and top and bottom cooperated, and China acted almost time of the ex-Boxer, should have been able to carry out the heart's desire in the former in 1894. and Ahn Choong-Gun thought.

If Korea and China compete for Japan as a partner with it each other, use this gap, and U.K. · France · U.S.A. · Germany · Italy · Austria · Portugal · Greece adds a menace to the Shandong Peninsula while concentrating the armed forces. If it came to look like it, Japan · China came to be opposed unwillingly and told that the Orient cannot but ruin itself hereby.

Fourth, a peace treaty of the bare war presents a problem in the reason that it came to conclude in Portsmouth that is an American territory with American arbitration on a day and watches it by discrimination between races here and does the reason that put Korea problem in a treaty in spite of Korea having nothing to do with Russia from the beginning in a problem.

Fifth Ahn Choong-Gun insisted on it for the principle of Japanese emperor country. I impeached the continent aggression policy of the Japanese emperor country which I invaded Korea in spite of being the same yellow-skinned races and was going to rule over and I was strong and criticized it when I received the price for it someday.

5

It was the contents of the "previous model" part, but was not able to all speak these contents in "the Orient peace idea" which Ahn Choong-Gun wrote for behind bars as things mentioned above.

Therefore, I cannot clarify the whole Orient peace theory now having preface, the part of the previous model. However, the ideal of Ahn Choong-Gun for the Orient peace theory is served in "written statement" which trial record and Ahn Choong-Gun in particular wrote down the

contents which had a talk with Japanese imperialism governor-general prefecture Parlement head on February 17, 1910 fragmentarily. At first I insisted on enforcing the policy that seemed to be following < box article reference > and

I am simultaneous that I make Yeo Sun which is the port town of the Shandong peninsula with a permanently neutral ground in an Oriental center and install a standing committee by each country representative.

< Yeo Sun permanent neutrality place setting enforcement person idea >

1. Orient peace conference organization

The member recruitment, the finance administer it for the amount of fee 1 won donation per one among the people who are 3 countries

2. Joint bank establishment, published by joint money

3 countries invest jointly and publish the bank establishment, each country common use money

3. Expansion of organization mechanism

It is peace conference branch office and bank branch setting in the important area of 3 countries

4. Permanent neutrality place Yeo Sun protection

5 ~ 6 Japanese warships anchor in the port and protection charge

5. The training of the peace force

Each the country recruitment, two minimum national language education

6. Joint economic development

It fosters commerce and industry development of Korea · China in Japanese guidance

7. International approval

Korean · Chinese · Japanese leader receives a broad perspective from the Pope

8. Japanese aggression barbaric act reflection

Aggression impeachment and correspondence of Japanese imperialism for Korea and China

It is the theory that the Orient peace theory copes with their aggression and plundering in a wave of the imperialism called the west group east fortune-teller, and Orient three countries deal with jointly. This Orient

peace theory was different from the Asian solidarity theory of middle argument and nationalism which Korean civilization debaters insisted on in a dimension.

The Orient peace theory of Ahn Choong-Gun that opened the logic of the peace in pursuit of universal happiness of the human approximately 100 years ago was the result that sprang out from his fierce life that had a short it.

The Orient peace theory of Ahn Choong-Gun intended the ideal town which all human on the earth beyond one area could live for in the days of 1 peacefully , At first Korea which was Orient 3 countries, China, Japan constituted a community and were going to show a model. This Ahn Choong-Gun's the Orient peace theory is a precedent theory of European Union (EU) enforced in Europe now, and it may be said that it is the identification.

平和は理想か—GCS運動を例として

韓国・慶熙大学
宋錫源

1. はじめに

20世紀を戦争と革命の世紀であるといい、その世紀の100年間に起こったあらゆる戦争と革命は近代国家がまさしく近代国家であるがゆえに避けては通れない道であった、という議論が盛んに論じられてきた。そしてその延長線上で21世紀のあるべき姿が模索され、ある意味では当然の帰結として自然と環境に優しく、社会的な弱者にも配慮した幸福な生活世界の実現が論じられた。20世紀のありのままの現実社会から21世紀のあるべき理想社会への変化を模索するとき、戦争と革命などに代わる新しい価値あるいは秩序としての平和構想、平和運動は自然なものであるといえよう。

もちろん、平和が模索されたのは単に21世紀だけの特徴ではない。人類は歴史始まって以来、常に平和を望み、追い求めてきた。しかし、にもかかわらず、人間は数多くの戦争をも行なってきた。平和はそう簡単に実現できるものではない。しかし、どうしても平和を取り戻せることはできない、ということでもない。平和は単に理想であるばかりではないのである。戦争を正しく語り伝えることは平和への入り口である。そして平和を現実のものにするためには日々の日常生活における実践運動から始めなければならない。日々の日常生活から究極的にオウトピアとしての世界平和の実現を目指とする明るい社会(GCS)をつくる運動を紹介したい。

2. GCSの基本精神

明るい社会、つまりGCSをつくる運動とは、趙永植(Choue Young Seek)・慶熙大学の創立者が呼び掛け人となって設立された、善意(Goodwill)、協同(Cooperation)、奉仕・寄与(Service)の三つの精神を生活化し、健全社会運動、良い暮らし運動、自然保護運動、人間復権運動、世界平和運動、など五つの運動を展開する世界的な規模の市民運動である。この運動が目指している目標は、人種・宗教・理念・国籍を越えて地球協同社会(Global Cooperation

Society : GCS)を建設し、延いては地球共同社会(Global Common Society : GCS)を建設するものである。

明るい社会をつくる運動の母体となったものは1950年代に始まった農村啓蒙運動と1960年代の良い暮らし運動であった。当時、貧困と失意にあふれていた韓国社会に、農村啓蒙運動と良い暮らし運動は意識と生活革命を通じて韓国の国民に新しい希望を植え付けるのに大きな役割を果たした。

明るい社会をつくる運動の基本精神をもう少し詳しく見てみよう。

(1) 三つの精神

① 善意 (Goodwill)

善意は人間の生活関係において当然にして持たなければならない純粋な愛であり、すべての人間関係において基礎になる精神である。人間は誰であれ、他人との間に絶え間のない相互関係の中で共に生きてゆく。善意の精神は他人だけをためにしたものではなく、本人の心を精華する徳である。善意の精神は聖賢たちが残した名言をよく実践する精神である。善意の精神から希望が生まれ、やり甲斐や満足が得られ、また人間味あふれる対話が可能になり、愛と幸福が芽生えるのである。

② 協同 (Cooperation)

人類の文化遺産はすべて協同の産物であるといえよう。協同の力で創造と発展が行なわれ、隣同士の和睦と社会的結束が固められる。いくら優れた能力を持った人であるといえどもその能力には限界がある。協同は人間共同体の発展のための基礎になる精神であり、歴史発展の基本要件である。宇宙の万物は協同の原理によって生成変化し、世界平和や人類の繁栄もまた協同を通じてはじめて実現できるものである。

③ 奉仕・寄与 (Service)

奉仕は他人のために何かを行なうことである。多様な人間関係の中で行なわれる人間の日常生活は他人からの助力によってなされている。寄与の精神は奉仕よりも高い精神で、自分に余裕があるときに他人に助けの手を差し伸べるのではなく、自分の能力が許される限度内で一生の間成し遂げたすべてを社会に還元するものである。

(2) 五つの運動

① 健全社会運動

目的:精神世界と物質世界の調和で真の人間の路を回復し、利己的行動や不信、不調理、退廃風潮を取り除いて明るく健全で人情と合理が共存する真の人間社会を建設すること。

実践徳目:

- ・何事に対しても善意の生活で担った責任を果たす。
- ・正しく知り(正知)、正しく判断し(正判)、正しく行動する(正行)生活習慣を身につける。
- ・明るい表情、笑う生活で明朗な社会をつくる。
- ・退廃と不正、不調理を取り除いて正しい社会をつくる。
- ・毎日瞑想生活を通じて自分を振り返り、やり甲斐のある人生を開拓する。

②良い暮らし運動

目的:人間の物質的欲求を実現して人生の質を高め、豊かな社会を建設すること。ただ、物質的豊かさだけを盲目的に追求するのではなく、健全な精神をベースに人間に暮らしがいのある地球共同社会の建設を目指す。

実践徳目:

- ・計画的な消費生活で過消費を根絶する。
- ・物資を節約しリサイクルを勧める。
- ・生産性を増大させるための機械化・科学化を進める。
- ・勤勉・質素な生活で自活の路を開拓する。
- ・協同の精神で共同体の生産性を増大させる。

③自然保護運動

目的:破壊されつつある自然環境を積極的に保護し、破壊された自然を基の状態に復元させ、自然を人間生活の宝庫と安らぎの場としてつくること。人間は自然から生まれ、自然で生き、また自然に戻る。自然は我々に夢と希望を与え、情緒を養う場所である。

実践徳目:

- ・花の道、花の咲き乱れる村、緑の山をつくる。
- ・動物や植物などを保護し、生態系の保存に努める。
- ・公害を防止し、公害の発生要因を除去する。
- ・自然のなかで情緒を純化させる。
- ・国連が勧める環境保護運動に参加する。

④人間復権運動

目的:科学中心主義と物質万能主義によって起る人間軽視風潮を一掃し、人間が科学・物質・制度から特立した主体者としての役割をしながら、歴史と文明の創造者としての人間の価値と本質を大切にする人間社会をつ

くっていくこと。つまり物質と制度の隸従から抜け出して人間を尊重する人間中心の社会を建設すること。

実践徳目：

- ・国家・人種・宗教に対する差別をしてはならない。
- ・人間愛を基に規範を守り社会秩序を維持する。
- ・人間重心主義の新しい価値秩序を確立し人類の普遍性を確立する。
- ・人間の自由・平等と能力を保障する民主主義を信奉する。
- ・物質や制度より人間を重視する。

⑤世界平和運動

目的：人類の歴史は戦争の連續であった。戦争は人類が熱心に努力して築いた多くの財産を破壊し、多くの命を奪った。最近の世界は現代の科学と技術の発達によって一つの地球共同体として狭められたが、人間はナショナリズムと国家主義の壁を越えることができず、対立や葛藤が続いている。したがって、地球村の時代を希求しながら戦争や葛藤をなくし、平和や和合によって人類の共存が保障される永久平和を追求する。

実践徳目：

- ・人種や国家に対する偏見を捨て、人類の多様性を認め和合を増進する。
- ・地球も一つ、人類も一つ、我らは皆家族であるとする人間愛を実践する。
- ・自然災害や戦争で苦しんでいる犠牲者に援助する。
- ・国同士の交流を増進し、親善を図る。
- ・国連の役割と機能を強化し、世界平和に貢献する。

3. GCS の実践運動

明るい社会(GCS)をつくる運動としては、まず明るい社会研究所の設立をあげることができる。同研究所は、1975年10月、明るい社会をつくる運動を展開するに当たってこの運動の理論と実践方案を研究し開発する機構として設立された。そして明るい社会(GCS)クラブを組織している。明るい社会クラブの組織は、国際本部、国家本部、地区、連合会、単位クラブなどの体系を持っている。特に国際本部は、1979年設立されて以降、37ヶ国において国家本部が組織され活動を行っている。

<表1>GCS 国家本部の現況

	Nations
Asia	Nepal, Taiwan, Malaysia, Mongol, Sakha, India, Japan, China, Kazakhstan, Thailand, Philippines, Korea

Europe	Norway, Germany, Russia, Belgium, Sweden, Spain, England, Ukraine, France
Africa	Nigeria, Uganda, Kenya, Tanzania
America	Mexico, America, Brazil, Argentina, Uruguay, Chile, Costa Rica, Colombia, Paraguay, Peru
Oceania	New Zealand, Australia

GCS 国際本部の主な活動としては海外医療奉仕、国際救護・援助などが上げられる。

<表 2> GCS 国際本部の主な活動

	活動
外医療奉仕	韓国・タイ連合医療奉仕、韓国・インドネシア連合医療奉仕、アフリカ・スーダン連合医療奉仕、モンゴル医療奉仕、カザフスタン医療奉仕、サハリン医療奉仕、ロシア韓方医療奉仕、中国医療奉仕
国際救護・援助	アフリカ・ソマリア児童を援助する基金の募金、Chernobyl 原電事故被害児童無料医療奉仕

なお、GCS 国家本部が 1980 年代から結成し始めたことから、GCS 国際本部は GCS 運動の世界的な交流、協力、連帯意識を向上させる目的で毎年 GCS 国際大会を開催している。

<表 3>GCS 国際大会

年度	テーマ
1994	道徳と人間性の回復のための GCS 運動展開
1995	家庭倫理の回復
1996	道徳性と人間性の回復
1997	道徳の再建と社会平和
1998	GCS 運動と社会平和
1999	新しい一千年を迎えた人類が進むべき道
2000	GCS 運動と社会平和
2001	地球共同社会を実現させるためのネオルネサンス運動
2002	Pax UN を通じた人類共同社会
2003	ネオルネサンスを通じた人類共同社会の実現
2004	平和のための緊急課題: テロリズムの克服

2005	ネオルネサンスを通じた世界平和の実現
------	--------------------

対立や葛藤、戦争のない、明るい社会(GCS)をつくる運動は、こうした GCS 国際本部を頂点とするあらゆる活動を行なっているが、そのなかで特筆すべきこととしては、国連に働き掛け「世界平和の日」、「世界平和の年」を制定したことであるといえよう。すなわち、「世界平和の日」は 1981 年の国連総会で毎年 9 月の 3 週目の火曜日にすることが、また「世界平和の年」は 1982 年の国連総会で 1986 年にすることがそれぞれ正式に決定された。

4. オウトピア(Oughtopia) : GCS と世界平和

GCS を通じて実現せんとする世界平和はオウトピア(Oughtopia)である。オウトピアとは、言葉とおり当為としての平和である。たとえば、三正(正知、正判、正行)瞑想の生活習慣をみにつけるなど日々と日常生活から人間社会に当然あるべき価値としての世界平和を実現することである。したがってオウトピアとしての平和は決して理想ではない。そもそも人間社会はオウトピアでなければならない。じっさい三正瞑想についていと、人間のあらゆる行動は思考の結果であって、深く考えてから行う行動は価値のある結果をもたらす。つまり正しい考えから正しい行動が生まれるし、こうした生活は対立や怨念を越えて協力・和解を促進する。明るい社会(GCS)をつくる運動の活動はオウトピアを実現させることを目標としている。明るい社会はオウトピアをつくり、オウトピアは社会・世界を明るくする。

2005	ネオルネサンスを通じた世界平和の実現
------	--------------------

対立や葛藤、戦争のない、明るい社会(GCS)をつくる運動は、こうした GCS 国際本部を頂点とするあらゆる活動を行なっているが、そのなかで特筆すべきこととしては、国連に働き掛け「世界平和の日」、「世界平和の年」を制定したことであるといえよう。すなわち、「世界平和の日」は 1981 年の国連総会で毎年 9 月の 3 週目の火曜日にすることが、また「世界平和の年」は 1982 年の国連総会で 1986 年にすることがそれぞれ正式に決定された。

4. オウトピア(Oughtopia) : GCS と世界平和

GCS を通じて実現せんとする世界平和はオウトピア(Oughtopia)である。オウトピアとは、言葉とおり当為としての平和である。たとえば、三正(正知、正判、正行)瞑想の生活習慣をみにつけるなど日々と日常生活から人間社会に当然あるべき価値としての世界平和を実現することである。したがってオウトピアとしての平和は決して理想ではない。そもそも人間社会はオウトピアでなければならない。じっさい三正瞑想についていと、人間のあらゆる行動は思考の結果であって、深く考えてから行う行動は価値のある結果をもたらす。つまり正しい考えから正しい行動が生まれるし、こうした生活は対立や怨念を越えて協力・和解を促進する。明るい社会(GCS)をつくる運動の活動はオウトピアを実現させることを目標としている。明るい社会はオウトピアをつくり、オウトピアは社会・世界を明るくする。

평화는 이상(理想)인가 : GCS 운동을 사례로

한국 · 경희대학교
송 석 원

1. 머리말

20 세기는 전쟁의 혁명의 세기라 할 수 있는 바, 이 세기의 100 년간에 일어난 모든 전쟁과 혁명은 근대국가가 그야말로 근대국가이기 때문에 피할 수 없는 길이었다는 논의가 활발히 이루어져 왔다. 그리고 그 연장선상에서 21 세기의 바람직한 모습이 모색되어, 어떤 의미에서는 당연한 귀결로서 자연과 환경을 중시하고, 사회적 약자에게도 배려한 행복한 생활세계의 실현이 논의되었다. 20 세기의 있는 그대로의 현실사회에서 21 세기의 당위로서의 이상사회로의 변화를 모색할 때, 전쟁과 혁명 등에 대신한 새로운 가치 혹은 질서로서의 평화구상, 평화운동은 자연스러운 것이라고 할 수 있다.

물론, 평화가 모색된 것은 단지 21 세기만의 특징은 아니다. 인류는 역사가 시작된 이래 언제나 평화를 희망하고, 또 추구해왔다. 그러나 그럼에도 불구하고, 인간은 수많은 전쟁을 해왔다. 평화는 그렇게 간단히 실현되는 것이 아니다. 그러나 아무리 해도 평화를 되찾을 수 없는 것도 아니다. 평화는 단지 이상일 뿐만은 아니다. 전쟁을 올바르게 전하는 것은 평화로 진입하는 첫걸음이다. 그리고 평화를 현실의 것으로 만들기 위해서는 일상생활에서의 실천운동으로부터 시작해야 한다. 일상생활에서 궁극적으로 오토피아로서의 세계평화의 실현을 목표로 하는 밝은 사회(GCS)운동을 소개하고자 한다.

2. GCS 의 기본정신

밝은 사회, 곧 GCS 를 만드는 운동이란, 趙永植(Choue Young Seek) 경희대학교 설립자가 주창하여 설립된, 善意(Goodwill), 協同(Cooperation), 奉仕 · 寄与(Service)의 3 대 정신을 생활화하여, 健全社会運動, 良善運動, 自然保護運動, 人間復權運動, 世界平和運動 등 5 대 운동을 전개하는 세계적인 규모의 시민운동이다. 이 운동이

지향하는 목표는 인종·종교·이념·국적을 넘어 地球協同社會(Global Cooperation Society : GCS)를 건설하고, 나아가 地球共同社會(Global Common Society : GCS)를 건설하는 것이다.

밝은 사회를 만드는 운동의 모체(母體)가 된 것은 1950년대에 시작된 農村啓蒙運動과 1960년대의 良善기運動이었다. 당시, 빈곤과 실의에 빠져 있던 한국사회에 農村啓蒙運動과 良善기運動은 의식과 생활혁명을 통해 한국 국민에게 새로운 희망을 심어주는 데에 큰 역할을 하였다.

밝은 사회 만들기 운동의 기본정신을 좀 더 구체적으로 살펴보자.

(1) 3대 精神

① 善意(Goodwill)

善意는 인간의 생활관계에서 당연히 갖추어야 할 순수한 사랑이며, 모든 인간관계에서 기초가 되는 정신이다. 인간은 누구든지, 타인과의 사이에 끊임없는 상호관계의 속에서 함께 살아간다. 善意의 정신은 타인만을 위한 것이 아니라, 본인의 마음을 精華하는 德이다. 善意의 정신은 성현들이 남긴 명언을 잘 실천하는 정신이다. 善意의 정신에서 희망이 생기고, 보람과 만족을 얻을 수 있으며, 또한 인간미 넘치는 대화가 가능하고 사랑과 행복이 짹른다.

② 協同(Cooperation)

인류의 문화유산은 모두 협동의 산물이라 할 수 있다. 협동의 힘에서 창조와 발전이 이루어지고, 이웃 간의 화목과 사회적 결속이 견고해진다. 아무리 뛰어난 능력을 가진 사람이라 하더라도 그 능력에는 한계가 있다. 협동은 인간공동체의 발전을 위해 기초가 되는 정신이며 역사발전의 기본 요건이다. 우주의 만물은 협동의 원리에 의해 생성변화하고, 세계평화와 인류의 번영도 역시 협동을 통해 비로소 실현할 수 있다.

③ 奉仕・寄与(Service)

봉사는 타인을 위해 무언가를 하는 것이다. 다양한 인간관계 속에서 일어나는 인간의 일상생활은 타인으로부터의 助力에 의해 이루어진다. 기여의 정신은 봉사보다도 높은 정신으로 자신에게 여유가 있을 때 타인을 돋는 것이 아니라 자신의 능력이 허용하는 한도 내에서 일생 동안 성취한 모든 것을 사회에 환원하는 것이다.

(2) 5대 運動

①健全社會運動

목적 : 정신세계와 물질세계의 조화로 참된 인간의 길을 회복하고, 이기적인 행동, 불신, 부조리, 퇴폐풍조를 제거하여 밝고 건전하며 인정과 합리가 공존하는 참된 인간사회를 건설하는 것.

실천덕목 :

- 매사에 선의의 생활로 맡은 바 책임을 다 한다.
- 바르게 알고(正知), 바르게 판단하고(正判), 바르게 행동(正行)하는 생활습관을 갖는다.
- 밝은 표정, 웃는 생활로 명랑사회를 이룩한다.
- 퇴폐와 부정, 부조리를 제거하고, 바른 사회를 이룩한다.
- 매일 명상생활을 통해 자신을 돌아보고 보람된 삶을 개척한다.

②잘살기運動

목적 : 인간의 물질적 욕구를 실현하여 삶의 질을 높이고 풍요로운 사회를 건설하자는 것이다. 그러나 물질적 풍요만을 맹목적으로 추구하는 것이 아니라 건전한 정신을 기반으로 인간이 살기 좋은 地球共同社會의 건설을 목표로 삼는다.

실천덕목 :

- 계획적인 소비생활로 과소비를 근절한다.
- 물자를 절약하고 재활용을 권장한다.
- 생산성 증대를 위한 기계화, 과학화에 힘쓴다.
- 근면 검소한 생활로 자활의 길을 개척한다.
- 협동의 정신으로 공동체의 생산성을 증대한다.

③自然保護運動

목적 : 파괴되는 자연환경을 적극 보호하고 파괴된 자연을 원상태로 복원시킴으로써 자연을 인간생활의 보고와 안식처로 만들기 위한 운동이다. 인간은 자연에서 태어나서 자연에서 살다가 자연으로 돌아간다. 자연은 우리에게 꿈과 희망을 안겨주고 정서를 키워주는 영양제와 같은 것이다.

실천덕목 :

- 꽃 길, 꽃 동네, 푸른 동산을 만든다.
- 동, 식물을 보호하고, 생태계 보존에 힘쓴다.
- 공해를 방지하고, 공해발생 요인을 제거한다.
- 자연 속에서 정서를 순화하여 호연지기를 키운다.
- 유엔이 권장하는 환경보호운동에 동참한다.

④人間復權運動

목적 : 과학중심주의와 물질만능주의에서 야기되는 인간경시풍조를 일소하여 인간이 과학, 물질, 제도에서 독립된 주체자로서 역할을 하며 역사와 문명의 창조자로서 인간의 가치와 본질을 소중하게 여기는 인간사회를 이룩하려는 운동이다. 즉, 물질과 제도의 예속에서 벗어나 인간을 존중하는 인간중심의 사회를 건설하려는 운동이다.

실천덕목 :

- 국가, 인종, 종교에 대한 차별대우를 하지 않는다.
- 인간애를 기반으로 규범을 지켜 사회질서를 유지한다.
- 인간중심주의의 새 가치질서를 세워 인류의 보편성을 확립한다.
- 인간의 자유, 평등과 능력을 보장하는 민주주의를 신봉한다.
- 물질이나 제도보다 인간을 중시한다.

⑤世界平和運動

목적 : 인류가 살아온 역사는 전쟁으로 이어져왔다. 전쟁은 인류가 많은 노력을 기울여 이루어 놓은 수많은 재산을 하루아침에 잿더미로 만들고 수많은 생명을 죽음으로 내 몰았다. 오늘날 세계는 현대 과학과 기술의 발달에 의해서 하나의 지구공동체로 좁아졌으나, 인간의 마음은 민족주의와 국가주의의 경계를 벗어나지 못하고 대립과 갈등이 계속되고 있다. 밝은사회운동은 지구촌시대를 바라보면서 전쟁보다는 평화, 갈등보다는 화합을 통해서 인류의 공존공영이 보장되는 영구평화를 이룩하고자 한다.

실천덕목 :

- 인종과 국가에 대한 편견을 버리고 인류의 다양성을 인정하며 화합을 증진한다.
- 지구도 하나, 인류도 하나, 우리 모두 한 가족이라는 인간애를 실천한다.
- 천재지변과 전쟁으로 고통 받는 희생자들에게 도움의 손길을 제공한다.
- 국가 간의 교류를 증진하며 친선을 도모한다.
- 유엔의 역할과 기능을 강화하여 영구평화를 이룩하는데 기여한다.

3. GCS의 실천운동

밝은사회(GCS)운동으로는 먼저 밝은사회연구소의 설립을 들 수 있다.

동 연구소는 1975년 10월 밝은사회운동을 전개하는데 즈음해서 이 운동의 이론과 실천방안을 연구하고 개발할 기구로서 설립되었다. 그리고 밝은사회클럽을 조직하고 있다. 밝은사회클럽의 조직은 국제본부, 국가본부, 지구, 연합회, 단위클럽 등의 체계를 갖고 있다. 특히, 국제본부는 1979년에 설립된 이래 37개국에서 국가본부가 조직되어 활동하고 있다

<표 1> GCS 국제본부의 현황

	Nations
Asia	Nepal, Taiwan, Malaysia, Mongol, Sakha, India, Japan, China, Kazakhstan, Thailand, Philippines, Korea
Europe	Norway, Germany, Russia, Belgium, Sweden, Spain, England, Ukraine, France
Africa	Nigeria, Uganda, Kenya, Tanzania
America	Mexico, America, Brazil, Argentina, Uruguay, Chile, Costa Rica, Colombia, Paraguay, Peru
Oceania	New Zealand, Australia

GCS 국제본부의 주요 활동으로는 해외의료봉사, 국제구호·원조 등을 들 수 있다.

<표 2> GCS 국제본부의 주요 활동

	활동
해외의료봉사	한국·태국 연합의료봉사, 한국·인도네시아 연합의료봉사, 아프리카 수단 의료봉사, 몽골 의료봉사, 카자흐스탄 의료봉사, 사할린 의료봉사, 러시아 한방의료봉사, 중국 연변지역 의료봉사
국제구호·원조	아프리카 소말리아 아동돕기 기금 모금, 체르노빌(Chernobyl) 원전사고 피해아동 무료의료봉사

또한, GCS 국가본부가 1980년대부터 결성되기 시작하였기 때문에 GCS 국제본부는 GCS운동의 세계적인 교류, 협력, 연대의식을 향상시킬 목적으로 매년 GCS 국제대회를 개최하고 있다.

<표 3> GCS 국제대회

연도	주제
1994	도덕과 인간성 회복을 위한 밝은사회운동 전개

1995	가정윤리 회복
1996	도덕성과 인간성 회복
1997	도덕재건과 사회평화
1998	GCS운동과 사회평화
1999	새로운 천 년을 맞이하여 인류가 나아가야 할 길
2000	GCS운동과 사회평화
2001	지구공동사회 구현을 위한 네오르네상스 운동
2002	Pax UN을 통한 인류공동사회
2003	네오르네상스를 통한 지구공동사회 구현
2004	평화를 위한 긴급 과제 : 테러리즘의 극복
2005	네오르네상스를 통한 세계평화 구현

대립과 갈등, 전쟁이 없는 밝은사회(GCS)를 이루하는 운동은 이러한 GCS 국제본부를 정점으로 한 다양한 활동을 하고 있으나, 그 가운데 특별히 기술해야 할 것은 국제연합에 제안하여 「세계평화의 날」, 「세계평화의 해」를 제정한 것이라 할 수 있다. 즉, 「세계평화의 날」은 1981년 국제연합총회에서 매년 9월의 3째 주 화요일로 하는 것이, 또한 「세계평화의 해」는 1982년 총회에서 1986년으로 하기로 각각 정식으로 채택되었다.

4. 오토피아(Oughtopia) : GCS와 세계평화

GCS를 통해 실현하고자 하는 세계평화는 오토피아(Oughtopia)이다. 오토피아란, 말 그대로 당위로서의 평화이다. 예컨대, 三正(正知、正判、正行)명상의 생활습관을 의하는 등 일상생활에서부터 인간사회에 당연한 가치로서의 세계평화를 실현하는 것이다. 따라서 오토피아로서의 평화는 결코 이상이라고 할 수 없다. 원래 인간 사회는 오토피아여야 한다. 실제로 三正명상에 관해 보면, 인간의 모든 행동은 사고의 결과로서, 깊이 생각하고서 행하는 행동은 가치 있는 결과를 가져온다. 즉, 올바른 생각에서 올바른 행동이 나오는 것이다. 이러한 생활은 대립이나 원한(怨念)을 넘어 협력과 화해를 촉진한다. 밝은사회운동의 활동은 오토피아를 실현시키는 것을 목표로 하고 있다. 밝은 사회는 오토피아를 만들고, 오토피아는 사회와 세계를 밝게 만든다.

和平是理想吗？—以 GCS 运动为例谈起

韩国 庆熙大学
宋锡源

1. 绪论

20世纪也可以说是战争的革命的时期，许多观察家认为在这个世纪的100年中所发生的

所有战争与革命是现代国家形成过程中不可避免的，所以战争一直是人们所议论的话题。二十一世纪人们不断摸索追求的目标，其实在某种意义上，这种目标自然会围绕在保护环绕地球的自然环境，保护社会群体中的弱势群体从而使他们也可以过上幸福的生活，这些也成为当今观察家们争议的热点之一。

其实，追求和平并不只是二十一世纪才有的特征。早在人类历史起源的时候，人们就向往和憧憬着和平。然而，人们却违背自己追求和平的愿望，发动了数以万计的战争。要维持和缔造一个和平的社会并非一件容易的事情。但和平也并不是不可能实现的。和平也并不仅是理想，如果能用正确的手段来进行战争也就成为进入和平时代的第一步。为了缔造和平我们应该从日常生活中的实践运动来做起，下面我来介绍下以“Oughtopia”为世界和平的实现目标的“光明社会运动”。

2. GCS 的基本精神

光明社会，即 GCS 创立的运动，赵永植 (Choue Young Seek) 是韩国庆熙大学的创始人，他带头提倡所设立的友好，亲善 (Goodwill)，合作 (Cooperation)，服务，贡献 (Service) 的三大精神变得生活化，同时他还带头展开了健全社会运动，致富运动，自然保护运动，人类复权运动，世界和平运动等五大运动，同时这些运动成为世界规模的市民运动。这些运动面向的目标是建立在超越人种，宗教，理念，国籍等而不断前进中的地球协同社会 (Global Cooperation Society: GCS)。

光明社会起源于 1950 年展开的农村启蒙运动与 1960 年展开的致富运动。当时陷入贫穷与失意之中的韩国社会通过开展思想与生活革命，

从而在韩国人民树立起面对生活的信心上起到了重大的作用。
接下来让我们更具体的了解与分析下“创造光明社会的运动”。

(1) 三大精神

①亲善 (Goodwill)

亲善是人们在社会生活关系中必须具有的醇粹的爱心，是和所有人建立人际关系的基础条件，同时它无时无刻地存在于每个人与他人之间的相互关系之中。亲善不仅是为了他人好，同时它也可以使个人的精神得到升华。亲善可以使人在精神上产生希望，同时使人们在价值上得到实现与满足，也可以使人与人之间对话洋溢着人性美与人文关怀，还可以使爱与幸福萌芽。

②合作 (Cooperation)

人类的所有文化遗产都可以说成是合作的产物。在合作的力量之下，实现了创造与发展，邻里之间的和睦相处，社会的团结稳定等。一个人不管多么有能力，但个人能力毕竟是有一定的限度的。合作是人类共同体发展的基础精神，也是历史发展的必要条件。宇宙中的万物也是依靠合作的原理而产生变化，世界和平与人类繁荣也是通过合作之后才实现的。

③服务，贡献 (Service)

服务与奉献是为了他人而去做某事。多种多样的人际关系中，人们的日常生活其实都离不开与他人的合作，贡献精神比服务具有更崇高的意义，贡献不是在自己空闲的时间去帮助他人，而是在自己的能力限度之内，用毕生的精力与努力去回报社会。

(2) 五大运动

①健全社会运动

目的：使人类的精神世界与物质世界协调发展，重建一个充满爱的人类社会。消除自私自利的行为，互相不信任的行为，违背条理的行为，以及颓废风气，建立一个光明，健全，仁爱与正义共存的美好人类社会。

实践的德目：

- 用善良的心全身心地投入到自己所负责的每一件事情
- 养成能辨别是非，能判断对错，对待事情能采取正确的行为的良好生活习惯
- 以明朗的表情，去微笑的面对生活，以争取实现光明的社会
- 消除颓废精神与否定行为以及违背常理的行为，创造一个良好的

社会风气

- 每天都通过对自经历的一天进行冥想来寻找自己生存的价值与意义

②致富运动

目的：为了满足人们在物质上的需求，提高人们生存的质量，提倡建立一个繁荣的社会。然而并不只是盲目的只追求物质上的东西，而是在人们精神生活也得到满足的基础上把建立一个很好的地球共同社会当作一个目标。

实践的德目：

- 有计划地进行消费杜绝过渡消费现象的产生
- 节约物资提倡与鼓励进行再回收利用
- 为了提高生产力与生产效率致力于机械化与科学化
- 在勤俭朴素的基础上开辟一条自立更生的道路
- 以合作精神提高共同体的生产量

③自然保护运动

目的：自觉地保护被破坏的自然环境，尽量使大自然恢复原始的生态系统，制定对有关自然生态系统的报告也为了人们能有自己的安息之处而进行的一项运动。人产生于自然死后又重新回到自然。大自然就好比是我们实现梦想与拥抱希望的营养剂。

实践的德目：

- 铺造开满花的路，建造开满花的村庄，使处处都呈现出一幅山清水秀，鸟语花香的景象
- 保护动植物，为保护生态系统而尽自己的努力
- 去除妨碍社会的公害，驱除妨碍社会的一些重要原因
- 使个人的身心与情操在大自然中得到良好的熏陶与培养，培养浩然之气
- 积极参与 UN(联合国)所鼓励参与的环境保护运动

④人类复权运动

目的：扫清由于科学中心主义与物质万能主义所引起的忽视人类的力量的浪潮。人类是科学，制度中的独立的主体。认为人类可以主宰历史与命运，强调人类的价值是很可贵的。即，人类并不附属于物质与制度之中，是尊重人类并且建设以人类为中心的社会的运动。

实践的德目：

- 不根据国家，人种，宗教来与差别的对待所有人

- 以仁爱为基础，维持有秩序，有法可依，有法必依的社会秩序
- 以人类为社会中心创造新的价值，以确立人类的普遍性
- 信奉保障人类自由，平等与能力的民主主义
- 重视人类，强调人类比物质和制度都重要

⑤世界和平运动

目的：自从人类历史开始以来一直是战争不断，战争花费了人类许多的精力，浪费了很多财产，还有很多在废墟中由于战争而无辜死亡的无数生命。随着现代科学技术的发展，地球在逐渐变小（全球化加强），人类的思想脱离不了民主主义与国家主义的经济，一直生存在对立与纠纷之中。光明社会运动在企盼着地球村时代的同时，更期待没有战争只有和平，没有纠纷只有融洽的人类共存共荣的永久和平的实现。

实践的德目：

- 抛弃种族歧视，以及对个别国家的偏见，认同人们是多样性的，是人与人之间更融洽的相处
- 同一个地球，同样的人类，我们都作为一个共同的和睦的大家庭共同友爱相处
- 给予由于自然灾害或者战争而受苦受难的人们以关怀与援助
- 增加国与国之间的交流，使国家间的关系都很友好
- 加强 UN（联合国）的职责，以实现永久的和平

3. GCS 的实践运动

要开展光明社会（GCS）运动首先设立了光明社会研究所。光明社会研究所于 1975 年 10 月在光明社会运动的展开之际成立，它主要是为了研究光明社会运动的理论以及实践方案的开发而设立。然后还组织了光明社会俱乐部，光明社会俱乐部的组织设有国际本部、国家本部、地区、联合会、单位俱乐部等。尤其值得一提的是，自 1979 年国际本部成立以来一共有 37 个国家组织参与者国家本部的活动。

表一：GCS 国际本部的现状

	Nations
Asia	Nepal, Taiwan, Malaysia, Mongol, Sakha, India, Japan, China, Kazakhstan, Thailand, Philippines, Korea

Europe	Norway, Germany, Russia, Belgium, Sweden, Spain, England, Ukraine, France
Africa	Nigeria, Uganda, Kenya, Tanzania
America	Mexico, America, Brazil, Argentina, Uruguay, Chile, Costa Rica, Colombia, Paraguay, Peru
Oceania	New Zealand, Australia

GSC 国际本部的主要活动是海外医疗服务，国际救助等。

表二：GCS 国际本部的主要活动

海外医疗服务	韩国. 泰国联合医疗服务，韩国. 印度联合医疗服务，非洲苏丹联合医疗服务，蒙古医疗服务，哈萨克斯坦医疗服务，库页岛医疗服务，俄罗斯中医医疗服务，中国延边地区医疗服务
国际救助	非洲索马里儿童的扶持，募集基金，切尔诺贝利泄漏事故受害儿童的免费医疗服务

另外，由于 GCS 国家本部从 1980 年开始成立，GCS 国际本部每年都开展 GCS 国际大会，主要是为了加强 GCS 运动在世界上的交流，合作与团结意识的培养。

表三：GCS 国际大会

年度	主题
1994	为了道德与人性的回复而展开的光明社会运动
1995	家庭道德的回复
1996	道德性与人性的回复
1997	道德的重建与社会和平
1998	GCS运动与社会和平
1999	为迎接新千年人类社会继续向前发展
2000	GCS运动与社会和平
2001	为地球成为一个共同社会的实现新文艺复兴运动
2002	通过Pax UN的人类共同社会
2003	通过新文艺复兴运动来实现地球共同社会
2004	为了和平而进行的紧急课题：克服恐怖主义

2005

通过新文艺复兴来实现世界和平

为了实现没有对立与纠纷，以及战争的光明社会（GCS）而进行的运动的 GCS 国际本部逐步的进行多种多样的活动，在这其中最重要的就是国际联合提议而制定的“世界和平日”“世界和平年”。即，“世界和平日”于 1981 年由国际联合总会定于每年 9 月第三周星期二，另外，于 1982 年把 1986 年定为世界和平年。

4. Oughtopia：GCS 与世界和平

通过 GCS 来实现世界和平称为 Oughtopia。Oughtopia 如果直译的话就是指的和平。比如，养成三正（正知，正判，正行）的冥想的生活习惯，把它作为从生活中的基准，从点滴做起，以实现世界和平。因此 Oughtopia 决不是理想，本来人类社会就是需要 Oughtopia 的。实际上根据三正冥想来看，人类所有的行为都是进行思考后而产生的，这样一来，如果经过深思熟虑而去行动人类的行为就会产生比较有价值的结果。即，进行正确的思考后就会产生好的结果，这种生活方式可以忽略一些怨恨以及对立，从而促进合作与和解。光明社会运动以实现 Oughtopia 为目标一直在展开与进行着，光明社会制造 Oughtopia，Oughtopia 使社会与世界变得更光明。

**Is the Pursuit of Peace Ideal?
– Taking the GCS movement as an example -**

**Kyunghee University, Korea
Seokwon Song**

1. Introduction

There has been a lively argument that all the wars and revolutions during the last 20th century were inevitable in the formation of a modern nation, considering 20th century itself as the age of war and revolution. By extension of this period, a desirable figure of 21st century has been considered - discussing on the realization of places where even weak people could live with happiness, and, in an aspect of a natural consequence, focusing on the importance of nature and environment. When changes from the real society, as what it is, in 20th century to the ideal one, as what it should be, in 21st century are required, it is natural that peace movement, or the embodiment of peace, replaces war and revolution as new value or order.

The pursuit of peace, of course, is not a feature only in the 21st century: human beings have continued to want and pursue peace since the beginning of history; they have conducted lots of wars. Peace is not a simple process which can be obtained easily. However, there is a way in which peace can be realized. Peace is not just an ideal one. To acquaint people correctly with wars is the first step toward peace. In addition to this, practical movement in a daily life has to be started in order to make peace materialize. I'll introduce the GCS movement which has the purpose to achieve world peace, kind of Utopia, indeed in an everyday life.

2. The Basic Spirit of the GCS

The movement of making the GCS, advocated and organized by Dr. Young Seek Choue Who established Kyunghee University, is a citizens' campaign with

a worldwide scale: living up to the three spirits, *goodwill, cooperation and service*, and carrying out the five movements, *The Movement for a healthy society, The Movement for Better Living, The Movement for the Love of Nature, The Movement for the Restoration of Human Dignity, The Movement for Global Peace*. The purpose of this campaign is to construct *the Global Cooperation Society (GCS)* without the restriction of race, religion, ideology and nationality, and to construct *the Global Common Society (GCS)* in the long run.

This campaign aiming for bright society stemmed from two movements, the Enlightenment movement in the country in 1950s and the Prosperous society movement in 1960s. At that time, these movements had made a huge role of giving Korean, in the depths of poverty and despair, a new hope through the revolution of awareness and lifestyle. I'll deal with the basic spirit of the GCS in detail.

(1) The Three Spirits

① Goodwill

Goodwill is pure love necessary for people's daily lives and the basic spirit of all the relationship which people have. People live together, continuing to have a mutual relationship with other people. The spirit of goodwill is not only for another people but also for oneself in the light of virtue for mind's purification. This spirit is the one of practicing what the sages preached. This spirit makes hope, satisfaction, love and happiness as well as makes conversation, filled with humanity, possible.

② Cooperation

Cultural legacies of human beings are considered as products of cooperation. The power of cooperation leads to creativity and development, and it makes the social union strengthen. Even an extraordinary person has limitations. Cooperation is the fundamental spirit and condition for the further development of a community.

③ Service

Service means to do something for other people. Daily life of people based on various relationships is made up through other people's supports. The spirit of contribution is higher in degree than the one of service, which means to return all the things achieved during the whole life to society, not just to help people when the ability is enough.

(2) The Five Movements

① The Movement for a healthy society

The purpose: It aims at recovering sincere humanity through the harmony between spirit and matter, eliminating selfish mind, distrust, impropriety and degenerating trend, and constructing a true society having humanity and rationality.

The practice items

- Try to fulfill responsibility on every single thing.
- Have three right habits- knowing right, judge right and acting right, related with the Three Right Meditation.
- Establish a bright society by smiling.
- Construct a sound society as well as remove degeneration, injustice and impropriety
- Think over myself and exploit a life worth living in every day's meditation

② The Movement for Better Living

The purpose: It aims at pursuing a material desire, raising the level of life and constructing a prosperous society. However, the real objective is to establish the global common society where people are well off, not just to chase a material prosperity blindly.

The practice items

- Cut off conspicuous consumption by planning in advance.
- Spare resources and recommend recycling
- Strive for the progress of science and mechanization in order to improve productivity.
- Seek a living for myself, based on a life of diligence and economy.
- Make community's productivity increase through the spirit of cooperation

③ The Movement for the Love of Nature

The purpose: It aims at making nature a refuge and treasure house of human's life by protecting natural environment against destruction and restoring it to the original state. Human beings come from nature, live in nature and return to nature.

:

The practice items

- Make a road and village with flowers as well as a green hill
- Protect animals and plants, and make efforts to preserve ecosystem.

- Prevent pollution by getting rid of factors of pollution.
- Revive my exhausted energy among nature.
- Take part in environmental campaigns highly recommended by UN.

④ The Movement for the Restoration of Human Dignity

The purpose: It aims at making a human society in which the value and nature of human beings, as a creator who plays an independent role from science or regulation and makes history and culture, are regarded preciously.

The practice items

- Don't give discriminative treatment to a specific nation, race and religion.
- Maintain social order by keeping rules on the basis of humanity.
- Fix the principle of universality by establishing the new value of anthropocentrism.
- Have faith in democracy which secures personal liberty, equality and ability.
- Value human more than material and system.

⑤ The Movement for Global Peace

The purpose: The history of mankind has been inherited by wars. Wars have burnt up large number of properties, made by hard effort of humankind, to ashes overnight, and have driven out numerous life to the death. Although world become narrow to global community by advance of modern science and technology today, ideas of human still cannot freed from boundary of racialism and nationalism, and antagonism and conflicts are continued. The GCS movement aims at establishing eternal peace which guarantee coexistence and co-prosperity of mankind, through peace and harmony rather than war and conflict.

The practice items:

- Put away a prejudice about race and nation, admit mankind diversity, and promote concord.
- Put humanity - One earth, one mankind, one whole family – in practice.
- Extend a helping hand to victims who suffer from natural disasters and wars.
- Increase interchange between countries and cultivate friendship.
- Strengthen UN's role and function in order to contribute to achieve the eternal peace.

3. Practice movement of GCS

First activity of the GCS movement is the establishment of the GCS institute. The institute was founded as organization which research, develop theories and practice plan of the movement at the time of development GCS movement in October, 1975. And the GCS club has formed. The GCS club has a system such as international head office, national head office, district, combined conference, unit club, etc. Especially, the international head office is taking an active part with setting up national head office in 37 countries since it established in 1979.

Table 1: The Status of the GCS International Head Office

	Nations
Asia	Nepal, Taiwan, Malaysia, Mongol, Sakha, India, Japan, China, Kazakhstan, Thailand, Philippines, Korea
Europe	Norway, Germany, Russia, Belgium, Sweden, Spain, England, Ukraine, France
Africa	Nigeria, Uganda, Kenya, Tanzania
America	Mexico, America, Brazil, Argentina, Uruguay, Chile, Costa Rica, Colombia, Paraguay, Peru
Oceania	New Zealand, Australia

Main workings of the GCS international head office are overseas volunteer medical service, international relief and assistance, etc.

Table 2: Main Activities of the GCS International Head Office

	Activities
Overseas volunteer Medical service	volunteer medical service by union of Korea and Thailand, volunteer medical service by union of Korea and Indonesia, volunteer medical service to Sudan in Africa, volunteer medical service to Mongolia, volunteer medical service to Kazakhstan, volunteer medical service to Sakhalin, volunteer oriental medical service to Russia, volunteer medical service to the area along the border of China
International relief And assistance	Collection of a fund for helping Somali children in Africa, free volunteer medical service for victim children of Chernobyl atomic energy accident

Furthermore, as the GCS national head office was established from 1980s, the GCS international head office has been holding GCS international meeting every year for the purpose of improving international interchange, cooperation and

fellowship of the GCS movement.

Table 3: International Meeting of the GCS

Year	Subject
1994	Development of GCS movement for recovery of morality and humanity
1995	Recovery of family ethics
1996	Recovery of morality and humanity
1997	Reconstruction of morality and social peace
1998	GCS movement and social peace
1999	The Way mankind should go with greeting next millennium
2000	GCS movement and social peace
2001	Neo-Renaissance for realization of a common global society
2002	Common mankind society through Pax UN
2003	Realization of a common global society through Neo-Renaissance
2004	Urgent problem for peace: conquest of terrorism
2005	Realization of world peace through Neo-Renaissance

The movement of making a bright society without a conflict, trouble and war has been carried out, taking part in various activities with the GCS international head office as the central figure.

4. Oughtopia: the GCS and World Peace

The figure of world peace through the GCS is Oughtopia. Oughtopia literally means peace as what it should be. It is the realization of peace, as an undoubted value, in a daily life – for example, acquiring the habit of the Three Right Meditations. Therefore, peace as Oughtopia is not ideal. And a human society should be Oughtopia. Considering the Three Right Meditation, all the activities people do are results of thought: the deeper people think over, the more valuable outcomes they produce. Namely, right thought makes right behavior. The movement of making a bright society aims at realizing Oughtopia. A bright society makes Oughtopia, which leads to a bright society and world again.

人類史の転換期における、朝鮮半島と日本列島の地政学的役割

財団法人 人間自然科学研究所
理事長 小松 昭夫

核拡散、地球温暖化、そして長い間に蓄積された社会システムの歪みから、グローバル化した金融が動搖、「信」の崩壊が進み、食糧・エネルギー・鉱物資源の世界的高騰を生じ、世界規模での社会混乱さえ懸念される状況を迎えています。

一国だけでは存続できないグローバル時代を迎える人類の叡智と勇気が試されるときがきました。対立の文化の上に繁栄した文明から、共生の文化の上に繁栄する文明への転換以外に、世界的な閉塞状態を解決する道はありません。その転換をいつ、どこから、誰が先駆けとなつて推し進めるべきかを模索するうち、アジアで最も進んだ近代文明地域でありながら、歴史的背景から制御された対立・怨念エネルギーを生み出し続けている、朝鮮半島と日本列島に、人類の命運を担う重要な役割がまわってきたと認識しています。

中国政府仲介による六カ国協議が、粘り強い努力の中で2003年以降断続的に開かれていますが、これは国連常任理事国であり核大国の中国、米国、露国がこの地域を、世界的視点からいかに重要視しているかを示しています。

朝鮮半島と対岸の日本列島の間には日本海東海呼称問題、竹島独島領有権主張に代表される近代の歴史から生まれた怨念が、硬直状態で今日に続いている。韓国、朝鮮民主主義人民共和国、日本で、世界に先駆け、過去、現在、そして未来に想定される諸問題を列挙し、対立のエネルギーを止揚（アウフヘーベン）に導き、共生の文化を生み出す条件が整ってきました。

1988年、日本国島根県松江市の小松電機産業株式会社創業の地において「知革塾」を立ち上げ、1994年人間自然科学研究所設立を通じて、20年にわたり国内外で講演会シンポジウムの開催、出版、銅像建立、世界の戦争と平和記念館訪問と献花、寄付、メディアでの対談、啓蒙学習活動を通じて今日に至っています。特に本年は、出雲大社の神語「幸魂奇魂」を

千家尊祐宮司様に頂き日中韓英の四ヶ国語で、グローバル時代の人間学「中国古典名言集」を、北京の学苑出版社で編纂、発表することができました。

活動記録はホームページに日中韓英仏の五ヶ国語で掲載しています。これまでの活動ができたのも、国内はもとより、韓国、中国を始め、世界のたくさんの賛同者のおかげであり、心より感謝申し上げます。

世界の現状・朝鮮半島と日本列島

ヨーロッパでは永年宿敵であったドイツとフランスが中心となり、統一通貨ユーロによる共生文化圏を構築し、相違点を併記した歴史教科書を共有、また世界に先駆け低炭素社会を目指して、地下資源文明から、風、太陽光などを利用した地表資源文明へ転換する努力が目に見える形で始まっています。

日本では高度成長期の公害とオイルショックを契機に環境・省エネ技術開発が進み 1992 年のブラジルサミットから環境立国といわれてきましたが、1997 年の京都議定書締結以降、生産工場における削減は進んだものの、全体の排出量は大幅に増加しているのが実態です。

近年は少子高齢化と累積債務の拡大が進み、健康保険・年金の破綻懸念、サブプライム問題に端を発する資源高騰などにより一気に不安が高まつてきました。また、破綻企業の債権放棄を伴う企業再生が頻繁に繰り返された結果、政官民の相互不信が増大、世代間対立、地域間対立、国家間対立などが複雑に絡まり、出口の見えない状況になっています。

様々な社会現象が増幅し、政治家、官僚に対する不信と絶望が怒りにつながり、尊属殺人、通り魔的殺人と、自殺と不可解な事件が多発しています。死刑が過去例のないスピードで執行されていますが、これも本質的な問題解決にはならず、ますます混迷の度を深めているように思われます。

韓国社会も少子高齢化、教育費の暴騰、ソウル一極集中、国内経済の不振などに、米国産牛肉輸入問題が重なり、若者を中心とした抗議行動が全土に広がり、子どもの誘拐事件が増えるなど、社会不安の様相を呈しています。

このままでは両国とも、社会の基礎である「信」と「分業」が機能しなくなり、内部崩壊さえも予想されます。

朝鮮民主主義人民共和国においても六カ国協議の長期化により、食料・エネルギーなどで困難な状況が続いていると思われます。

核大国であり国連の常任理事国でもある米国、露国、中国も、国内に大きな問題を抱えており、世界を強力にリードすることが一国では困難な状

況になっています。

怨念と対立地帯をオウトピアに

世界で今、最も急がれていることは、アジアでいち早く近代化を進め、工業化社会を作り上げた日本と韓国、そして地下資源が豊富な朝鮮民主主義人民共和国が、それぞれの役割を果たすことから怨念・対立エネルギーを止揚に導き、環境と健康問題に国家民族と、世界の賛同者が力を合わせ、低炭素社会のアジア型モデルを生み出すことです。

戦争に至らず、かつ怨念を制御しながら持続している現在の三カ国の状態は、世界で初めて、結果重視の競争と対立の文化圏を、過程重視の競争と共生が両立する文化圏（オウトピア）に変えるために、最も条件がそろっている地域といえます。

このプロセスは出口の見えない紛争地帯に希望と勇気を提供することにつながり、最も緊急のテーマである停戦協定が期待できます。

そして三カ国には普遍的なアイデンティティの確立と真の愛国心が芽生え、他国からのプロジェクト参加者には生きがいと誇りが生まれると思います。

竹島独島、日本海東海

島根県による「竹島の日」制定（2005年）、日本海東海呼称に関わる鳥取県の碑文問題（2007年）が日韓両国で大きく報道されました。また、小泉純一郎首相の訪朝（2002年）と靖国神社参拝により、日本列島、日本海、朝鮮半島、そして中国が緊張地帯であることが国内外に広く知られるようになりました。

韓国、朝鮮民主主義人民共和国と、日本の間には、日清戦争、明成皇后暗殺、伊藤博文の狙撃、安重根の処刑、日露戦争、朝鮮植民地化、創氏改名、強制労働、戦争被害、従軍慰安婦、拉致問題、日本人妻未帰還などの問題が未解決のまま残っています。

力の均衡が破れ世界が不安定化すれば、こうした問題はいつ表面化しても不思議ではありません。些細なことが発火点となり大きな災難につながったことは、過去の歴史を見れば明らかです；

従軍慰安婦問題と尊厳の命

偶然、5月の訪韓時に日本国旗たなびく日本大使館前で、八十歳を超

た元従軍慰安婦の方々の日本に対する抗議活動に遭遇しました。毎週水曜日に行われており、800回を超えて現地で聞き、その雰囲気と回数に強烈な衝撃を受けました。装甲車とたくさんの韓国警察官に護られる中での、日本人による国会謝罪請求の市議会決議の報告、幼稚園児の合唱、若い男女の踊りによる慰めを受けておられる姿は、なんとも言えないものでした。

見過ごすことは彼女たちが亡くなるのを待っているといわれても仕方がありません。これは日韓両国家と民族の崩壊につながる本質的なことが問われていることであり、日本人はもちろんのこと、韓国人の見識と智慧と勇気が問われていると気づきました。

人類には生物としての命と、他の生物にはない尊厳の命があります。彼女たちは戦争中、大変な受難によって尊厳の命を失いました。私たちが日本人、韓国人、人間としての自覚があれば、彼女たちの戦後の長く困難な尊厳の命の獲得活動を放置することはできなかつたはずです。

この問題を解決するために、たくさんの方々が努力してこられましたが、根本的解決に至っていません。そして2007年4月にワシントンポスト紙に市民グループによって「慰安婦の真実」という意見広告が掲載され、続く6月に掲載された日本の国会議員や著名人の連名による意見広告で、この問題は広く世界に知れ渡りました。

結果として、米国上下院、カナダ議会、オランダ議会、EUによる欧州議会、フィリピン議会、オーストラリア議会で、日本政府が公式謝罪を行うよう決議されました。強制力こそありませんが、日本人の見識が問われており、グローバル時代に、これを無視することは長きに渡って深刻な影響が広がると認識しています。

一億二千万人の戦争犠牲者の記録

18世紀のアメリカ独立戦争、フランス革命は、領土の画定、国民の国政参画、移動・言論の自由など、今日の社会システムの主流である国民国家を生み出しました。ここに至る約250年間で、日本の総人口に匹敵する一億二千万人の戦争犠牲者の上に、今日の豊かな時代があります。

緊張地帯である韓国、朝鮮民主主義人民共和国、その対岸の日本が、米国、中国、露国そして世界の理解を得て、対立と怨念のエネルギーを止揚し、朝鮮半島と対岸の日本列島から確かな平和の流れを生み出し、人類緊急の課題である地球温暖化に代表される環境問題、そして鳥インフルエンザに代表される健康問題に、国境を越えて取り組む平和事業を人類は必要

としています。

ここに、一つのプロジェクトを提案いたします。近代の戦争による死者を全て記録するメモリアルタワー、世界の戦争と平和博物館がネットワークでつながり、実際の展示が一ヵ所で見られる写真と映像による総合平和戦争展示場、世界と IT で結ばれた国際平和環境健康会議場の、構想、建設、運営を通じて、韓国、朝鮮民主主義人民共和国、日本の、世界恒久平和実現への役割が明確になり、結果的に和解は進むと思われます。

こうして生まれた世界平和モデルは、現在の紛争地帯の人々に平和の流れを生み出す勇気と智慧を提供することにつながります。

中世日本の代表的な思想家であり、大きな影響を与えた二宮尊徳翁は「経済なき理論はたわごと、理念なき経済は罪悪」「一家を廃して万家を興す」「推譲」などの言葉を残しています。少子高齢化がますます深刻になり、仕事も近隣諸国にどんどん流出している状況にも関わらず、今の生活を維持するために子孫に負債を先送りする人はエコノミックアニマルといわれます。これに過去の戦争から生じた怨念を合わせて先送りすれば、子孫の夢と希望を食べてしまうドラキュラになってしまいます。

日本は第二次世界大戦、韓国は朝鮮戦争による焼け野原から、西側社会の枠組みの中で世界各国の支援を受け、国民の努力と相まって、今日の豊かな社会を築いてきました。

今、恩恵を受けた米国、安い石油の大量供給を受けた中東諸国は、非常に困難な状況を迎えています。豊かさを享受しながら、小さな岩礁や、その海の呼称を問題とし、多大なエネルギーと時間を費やす両国の光景は、これまで恩恵を受けた国々の人々や、十数億人いるといわれる一日一ドル以下で暮らす人々の目にはどのように映るのでしょうか。

人間としての認識があれば、このような状況を一日も早く脱し、私たちが世界に平和のモデルを生み出することは、日韓両国が復興し、今日の発展に至るまでに多くの恩恵を受けた世界の人々に対する、当然の義務と責任です。

日本の道州制

日本の都道府県制度は、帝国主義列強の中でどう生き延びるかという視点から 19 世紀末に骨格をつくり、第二次大戦後も修正を加えながら現在に至っています。科学技術の発達と世界情勢の激変の中で、現行の都道府県制度は諸悪の根源と認識しています。

日本は戦後、輸出主導の高度加工貿易と、地方交付税による土木建築主

体の内需経済体制のもと高度成長経済を謳歌しました。現在は世界に製造工場を展開し、その収益が国内に持ち込まれ、国内工場との連携で社会システムが機能しています。金融はその周辺で大きな役割を果たしてきましたが、実体経済から極端に掛け離れた金融派生商品が大量に出回るようになつた現在、社会矛盾が許容不可能な段階にまで及んでいます。

行き詰った諸問題を解決するという視点から、道州制議論が始まりましたが、最も道州制が必要な地方において、無知か、現実を直視しない既得権益をもつた知事、市長、議員、経済人及び官公庁天下り諸団体に阻まれ、企業破綻、ワーキングプア、自殺者、がんに代表される難病の大量発生を招きながら、議論は低調なままでです。

こうした現象の放置は過去においては、ナショナリズムの台頭と戦争につながり、近隣諸国に甚大な損害を与え、国民にもおびただしい死と長い間の苦難を強いてきました。核拡散とブロードバンドが進展した今日の世界情勢においては、国家間の軍事的衝突ではなく、テロと犯罪、精神的な圧迫による、文化と構造から発生する陰湿な「新たな内戦」の様相が色濃く見えてくるようになりました。

この難局を開拓するためには、国内外の他地域と補完関係が成り立つように、文化・自然環境・産業基盤・人口・面積から、新たな自治体である道州の枠組みを考える必要があります。世界の中で持続的に有意義に生きられる道州経営の三大要諦は

- ① 世界の中でどのような役割を単独または道州間連携で果たすか
- ② 他地域に、どのような役割を期待するのか
- ③ 地域内の、富の再配分システムをどのように構築するのか

です。そしてこれは日本だけではなく、韓国においても、また世界の衣食住の足ったどの地域においても、いえるのではないでしょうか。世界経済が混乱を始めた現在、あらゆる改革に先行して速やかに実行しなければ内部崩壊が始まり、この修復にはとてもなく大きな代償を払うことになると思われます。

道州制の先駆けとして、朝鮮半島の対岸にある日本中国地方と、世界一のつり橋でつながった四国地方を、1,200万人を擁する州とし、州はを「平和・環境・健康」と定める。

州都は人類最初の原爆投下により敗戦が早まり、戦火を免れ、戦後責任を果たす地域として運命付けられた山陰中海宍道湖圏に置く。ここに州都を置けば、中国四国州が日本海東海を挟んだユーラシア大陸を正面から捉えていると国際的に理解され、最もふさわしい平和への意思表示になります。

州都が「竹島の日」を定めた島根県、東海日本海碑文問題で国際的な論議を呼んだ鳥取県ということを考えれば、対立を生み出したところが平和の文化を生み出す特別の使命をもった地であるということもできます。

この地は、城山三郎著『指揮官たちの特攻』とそれをテーマとしたNHKの報道で広く知られた、ドイツとの技術提携で生まれた艦上爆撃機「彗星」を使った最後の特攻隊長中津留大尉が指導教官をしていた地です。第二次大戦末期の日本本土決戦のための陸海軍の国内最大の航空基地の集積地でもありました。

米国では「中津留大尉の判断」が戦後の日本を救ったといわれ、「日本最後の侍」として尊敬されていると聞き及んでいます。

また戦争により左腕を失った漫画家水木しげる氏のキャラクターが並ぶ「妖怪ロード」が近年誕生し、集客力のある観光地となっています。古くには砂鉄・稻作・発酵文化を通じて、伽耶国の時代から朝鮮半島と特別の縁があったことは両国に伝わる文献・史跡・地名から明らかです。

また四国は平安時代に世界に例のない四百年の平和を築くのに、大きな役割を果たした弘法大師空海誕生の地であり、その縁を訪ね、古刹を歩く四国八十八箇所があり、貴重な文化遺産として多くの方の巡礼をうけています。

第6回国際平和博物館会議

グローバル時代を迎える世界人類史的視点から州是を定め、これを日本、世界に問う中で、ほかの州の州是も定まってきます。その総和が国是であり、この具現化のプロセスの差異により、いくつかの政党が生まれれば、21世紀の新しい議会制民主主義が生まれます。難しい時代を迎えた日本、そして韓国ともに検討に値することではないでしょうか。

今世界で起きている困難な現象は、共生の文化を生み出す陣痛とも捉えられるとともに、これに参加せずに放置、もしくは対策のみに終始すれば、内部不信からの崩壊は不可避となります。

怨念エネルギーによって生まれた対立の文化を、経済と両立するプロジェクトで止揚に導き、共生の文化を生み出すための会議を、10月6日から始まる第6回国際平和博物館会議・分科会と、その後の出雲フォーラムの中で開催したいと思います。

先に述べました、従軍慰安婦であった方たちの長い間の苦難と年齢を考えれば、一刻の猶予もなりません。このプロジェクトが動き出せば、彼女たちの生存中に尊厳の火が再び灯り、ここから恒久平和の流れが始まり、人類の歴史の中で尊厳の火は永遠に消えることはなく、日韓両国の国民はもとより、その恩恵は広く世界に及び、人類恒久の財産となることでしょう。

う。

これは真の平和、環境、健康を生み出す入り口です。韓国、朝鮮民主主義人民共和国、日本、そして世界の皆様の賛同を、心より念じています。

인류사 전환기에 있어서 한반도와 일본열도의 지정학적 역할

재단법인 인간자연과학연구소
이사장 코마츠 아키오(小松昭夫)

핵확산 · 지구온난화 그리고 오랜 시간 동안 축적되어 온 사회시스템의 흔들림으로 인해 글로벌화 된 금융시장의 요동과 「믿음(信)」의 붕괴가 시작되고 있습니다. 뿐만아니라 식량 · 에너지 · 광물자원 등 전 세계적인 물가상승을 유발시키고 있으며, 글로벌 규모의 사회적 혼란 마저 야기시키는 상황에 놓여 있습니다.

자국의 힘만으로는 존속할 수 없는 글로벌 시대에서 일류의 예지(叡智)와 용기가 시험대에 올랐다고 볼 수 있습니다. 대립의 문화에서 번영을 이루어 낸 문명에서 공생의 문화로 번영을 이루어 내어야 하는 문명으로 전환하는 것 이외에는 세계적 혼란 상태를 해결할 수 있는 길은 없습니다. 그 전환을 언제, 어디서, 누가 앞장서서 할 것인가를 모색하던 중, 아시아에서도 가장 근대 문명 지역이면서 역사적 배경으로 볼 때 제어된 대립과 원한(怨念)이라는 에너지를 낳고 있는 한반도와 일본 열도야말로 인류의 운명을 짊어질 중요한 역할이 주어졌다고 할 수 있습니다.

중국 정부의 중개로 시작된 6 자회담이 끈질긴 교섭으로 2003년 이후 부터 단계적으로 개최되고 있습니다만, 이것은 유엔상임이사국인 동시에 핵대국인 중국 · 미국 · 러시아가 이 지역을 세계적 시점으로 얼마나 중요시하고 있는지를 보여주는 것입니다.

한반도와 일본 간에는 “독도 · 다케시마의 영유권 주장문제”, “동해 · 일본해의 명칭문제” 등 근대사에서 생겨난 “원한(怨念)의 문제”가 경직된 채로 지금까지 내려오고 있습니다. 대한민국과 북한 그리고 일본이 세계의 선구자가 되어 과거 · 현재 그리고 미래에 발생할 수 있는 모든 문제들을 열거하고, 대립의 에너지를 지양(止揚/아우프헤벤)으로 이끌어 내면, 공생의 문화를 창조할 모든 조건이 갖춰어 진 것입니다.

1988년, 일본 시마네현 마츠에시(코마츠전기산업 주식회사 창업지)에 “지혁숙(知革塾)”을 세우고, 1994년 인간자연과학연구소를 설립하여, 세계의 전쟁과 평화기념관을 방문하고, 현화 · 기부 그리고 미디어와의 대담 및 계몽 활동을 통해 오늘에 이르고 있습니다. 특히 올해에는

이즈모 대사(出雲大社)의 신화 “행흔(幸魂)기흔(奇魂)”를 센게다카마사(千家尊祐) 궁사(宮司)로 부터 기증받았으며, 글로벌 시대의 인간학을 집대성한 4 개국어(한중일영)판 “중국고전명언집”을 북경의 學苑出版社에서 편찬, 발표하였습니다.

자세한 내용은 본 연구소 홈페이지에 5 개국어(한중일영불)로 개제되어 있으니 참조 하시기 바랍니다. 지금까지 연구소 활동을 계속할 수 있었던 것은 국내 뿐만아니라, 대한민국 및 중국을 비롯한 세계의 많은 동참자들의 참여와 협조가 있었기 때문입니다. 진심으로 감사의 말씀을 드리는 바입니다.

세계의 현상, 한반도와 일본열도

유럽에서는 영원한 숙적이었던 독일과 프랑스가 중심이 되어 통합화폐인 유로를 만들고 그를 통해 공생문화권을 구축하여, 상이점(相違點)을 병기한 역사교과서까지 공유하였습니다. 또한 세계에서 처음으로 저탄산사회를 지향하며, 지하자원에 의존한 문명에서, 바람·태양열등을 이용한 지표자원문명(地表資源文明)으로 전환하는 노력이 지속적으로 이루어지고 있습니다.

일본에서는 고도성장기의 공해 문제와 오일 쇼크를 계기로 환경 및 에너지 절감 기술 개발이 추진되어 왔으며, 1992년 브라질 수뇌 회담에서 “환경 입국”으로 불려져 왔습니다만, 1997년 쿠데타(京都)협정서 체결 이후, 생산공장은 절감 했음에도 불구하고 전체의 공해 배출량은 큰폭으로 증가하고 있는 추세입니다.

최근에는 저출산·고령화와 누적된 채무의 증가, 건강보험, 국민연금의 파탄이 우려되는 가운데, 서브프라임 사태의 발단으로 인한 자원의 물가상승 등으로 정세는 한층 더 심각한 위기로 치닫고 있습니다. 또한, 도산 기업의 채권 포기에 따른 기업 재생이 빈번히 반복되어 온 결과, 정관민(政官民)간의 상호불신 확대와, 세대간 대립, 지역간 대립, 국가간의 대립이 복잡하게 얹켜, 돌파구가 보이지 않는 상황에 처해있습니다.

여러 사회현상이 증폭되고, 정치가와 관료에 대한 불신이 절망과 분노로 바뀌어, 존속 살인·무차별 살인·자살 등 불가 항력적인 사건들이 다발적으로 일어나고 있습니다. 사형이 과거에 도 예가 없었던 스피드로 집행되고 있습니다만, 이 또한 본질적인 문제 해결에는 미치지 못하고 갈수록 혼미의 도를 더하고 있습니다.

대한민국 사회도 저출산·고령화와 사교육비의 증가, 서울 집중현상, 국내경제의 부진 뿐만아니라, 미국산 쇠고기 수입문제까지 겹쳐, 짚은충을 중심으로 항의운동이 전국으로 확대되고, 어린이 유괴사건이

증가하는등 사회 전반에 걸쳐 불안 양상이 증가하고 있는 실정입니다. 이대로라면 대한민국과 일본은 사회 기반인 「믿음(信)」과 「분업(分業)」이 제 역할을 하지 못할 것이며, 내부 붕괴의 위험 마저 예상됩니다.

북한은 6 자회담의 장기화로 인해, 식량 · 에너지 등으로 곤란한 상황에 처해져 있습니다.

핵 대국인 유엔상임국인 미국과 러시아 그리고 중국도 국내의 큰 문제를 안고 있으며, 자국의 힘만으로 세계를 리드해 가기는 힘든 상황에 있습니다.

원한(怨念)과 대립지대를 오토피아로

세계에서 지금 가장 급한 것은, 아시아에서 가장 빨리 근대화를 이루고, 공업화 사회를 이룬 일본과 대한민국 그리고 지하 자원이 풍부한 북한이 각자의 역할을 이루어내는 것입니다. 그로인해 원한(怨念)과 대립 에너지를 지양(止揚/아우프헤벤)으로 이끌어 낼 수 있으며, 환경과 건강 문제를 국가와 민족 그리고 세계의 동참자들이 힘을 합하여 저탄소사회(低炭素社会)인 아시아형 모델을 창조할 수 있는 것입니다.

전쟁으로 치닫지 않고, 원한(怨念)을 자제하면서 지속되고 있는 3 개국(대한민국, 북한, 일본)의 상태는, 세계에서 처음으로 “결과 중시의 경쟁”과 “대립의 문화권”을, “과정 중심의 경쟁”과 “공생”이 양립하는 문화권(오토피아)”으로 편모하기 위한 모든 조건이 가장 준비되어 있는 지역이라고 할 수 있습니다.

이 과정은 돌파구가 보이지 않는 분쟁지역에 “희망”과 “용기”를 제공하게 될 것이며, 남북한의 우선과제인 정전협정도 기대할 수 있을 것입니다.

그리고 3 개국에는 보편적 정체성의 확립과 진정한 애국심이 솟아오르게 될 것이며, 제 3 국에서 참가한 프로젝트 멤버들에게는 자긍심과 생동감이 넘쳐날 것입니다.

독도/다케시마, 동해/일본해

일본 시마네현에 의한 ”독도(다케시마)의 날(2005 년)” 제정과 동해/일본해 명칭문제에 관련된 돛토리현 비문문제(2007 년)가 한일양국에 크게 보도되었습니다.

또한 고이즈미 준이치로(小泉純一郎) 전수상의 방한(2002 년)과

야스쿠니신사 참배로 인해, 한반도와 일본열도, 동해/일본해, 그리고 중국이 긴장지대인 것을 국내외적으로 넓리 알려지게 되었습니다.

대한민국, 북한과 일본 간에는, 청일전쟁 · 명성황후 시해사건 · 이토히로부미 저격 · 안중근 의사의 처형 · 러일전쟁 · 한반도의 식민지화 · 창시개명 · 강제노동 · 전쟁 피해 · 종군위한부 · 납치문제, 일본인 부인 귀환 등의 문제가 해결되지 않은 상태로 남아 있습니다.

힘의 균형이 무너져 세계가 불 안정하게 되면, 이러한 문제는 언제 표면화되어도 이상하지 않을 것입니다. 사소한 것이 불씨가 되어 큰 재난으로 이어지는 것은 과거의 역사를 보면 알 수 있습니다.

종군위안부문제와 존엄의 생명

지난 5월에 한국을 방문했을 때, 우연히 일장기가 펼려이고 있는 주한일본대사관 앞을 지나게 되었고, 거기서 80세를 훌쩍 넘기신 종군위안부 할머니들이 일본 정부에 대한 항의 운동을 하고 계신 모습을 보았습니다. 매주 수요 집회가 있으며, 올해로 800회를 넘어섰다는 것과 그 날의 분위기에 강렬한 충격을 받았습니다. 또한 전 의경들이 포진한 가운데 일본인이 일본 국회에 사죄 청구를 시의회에서 결의한 보고서와 유치원생들의 합창과 젊은 댄서들이 위문 공연으로 위안을 받고 계신 모습은 뭐라고 해야 할지 말문이 막혔습니다.

할머니들의 활동을 이대로 방치한다는 것은 그들이 돌아가시기를 기다리고 있는 것은 아닌가라고 추궁당해도 반문을 할 수 없을 것입니다. 이것은 한일 양 국가와 민족의 붕괴로 이어지는 본질적인 문제이며, 일본인은 물론이며, 한국인의 견식과 지혜 · 용기가 필요할 시기라고 생각합니다.

인류에게는 생물로서의 생명과 다른 생물들에게는 없는 “존엄의 생명”이 있습니다. 할머니들은 전쟁 중, 엄청난 고통과 수난으로 인해 존엄의 생명을 잃고 말았습니다.

우리들이 한국인, 일본인, 인간이라는 자각이 있다면, 전쟁으로 잃어버린 할머니들의 “존엄의 생명”을 찾아 드리는 활동을 해 나가야 할 것입니다.

이 문제의 해결을 위해 많은 분들이 노력해 오셨습니다만, 근본적 해결방안은 내놓지 못하고 있습니다. 그 와중에 2007년 4월 워싱턴포스트에 뉴욕, 뉴저지 한인유권자센터를 중심으로 대뉴욕지구 121 추진연대가 “위안부의 진실(The truth about ‘COMFORT WOMEN’)”를 게재되었으며, 이어 6월에 개최된 일본 국회 의원이나 저명인의

광고로 이 문제가 확대되어 세계적으로 문제의 존재성을 넓리 알리게 되었습니다.

결과적으로, 미국상하원, 캐나다의회, 네델란드의회, EU 유럽의회, 필리핀의회, 오스트리아의회에서 일본정부가 공식 사죄를 해야한다고 결의하였습니다. 강제력은 없습니다만, 일본인의 견식을 주시하고 있으며, 글로벌 시대에 이것을 무시한다는 것은 대대손손에 걸쳐 심각한 영향을 미칠 것이라고 생각합니다.

일억이천만명의 전쟁희생자를 기록

18 세기 미국 독립 전쟁, 프랑스 혁명은 영토의 획정(画定), 국민의 국정 참가, 이동과 언론의 자유등, 현 사회시스템의 주류인 국민 국가를 창출시켰습니다. 그후 약 250 년간 일본 총 인구에 맞먹는 일억이천만명의 전쟁 희생자들로 인해 오늘의 풍요로운 시대가 있는 것입니다.

긴장 지대에 있는 대한민국과 북한 그리고 일본이, 미국 · 중국 · 러시아 그리고 세계의 이해를 얻어, 대립과 한의 에너지를 지양(止揚/아우프헤벤)하고, 한반도와 마주보고 있는 일본열도에서부터 항구적인 평화의 흐름을 조성하여, 인류의 긴급사안인 지구온난화에 대표되는 환경 문제 그리고 조류인플루엔자(AI)에 대표되는 건강문제를 국경을 초월해서 대처하는 평화 사업이야 말로 인류가 갈구하고 있는 것입니다.

여기에서 한가지 프로젝트를 제안합니다. 근대 전쟁으로 인한 사상자들을 모두 기록하는 “메모리얼 타워”, 세계의 전쟁과 평화기념관이 네트워크로 연결하여, 실제의 전시가 한 곳에서 볼수 있는 사진과 영상으로 종합 평화 전쟁 전시장과 세계와 IT로 연결한 국제 평화 환경 건강 회의장의 구상과 건립 · 운영을 통해 대한민국, 북한, 일본의 세계 영구 평화 실현에 대한 역할이 명확하게 될 것이며, 결과적으로 화해(和解)가 진행될 것이라 생각합니다.

이런 과정을 통해 구축된 세계평화 모델은, 현재의 분쟁 지대의 사람들에게 평화의 흐름을 조성하는 용기와 지혜를 제공할 수 있을 것입니다.

중세 일본의 대표적인 사상가인 니노미야 손토크(二宮尊徳)는 “이념없는 경제는 죄악이며, 경제를 수반하지 않는 이론은 실없는 소리에 불과하다”, “사소한 것에 연연하지 말고 큰 것을 보라”, “추양(推讓)”이라는 명언을 남겼습니다. 저출산 · 고령화 문제는 가속화되고 있으며, 주변국가로 일터가 옮겨가고 있는 상황에, 지금의 생활을 유지하기 위해 자손들에게 부채를 떠넘기고 있는 사람들을

“에코노믹 에너밀”이라고 합니다. 이 문제와 함께 과거의 전쟁에서 생겨난 “한”을 뒤로 떠넘긴다면, 자손의 꿈과 희망을 빼앗아 버리는 드라큐라와 같다고 할 수 있습니다.

일본은 제2차 세계 대전으로 대한민국은 6.25 전쟁으로 인해 잣더미가 되었으나, 서방의 시스템과 세계 각국의 지원과 국민의 노력이 합쳐져 오늘날의 번영을 이룩하였습니다.

지금, 도움을 받았던 미국과 값싼 석유를 대량 공급 받았던 중동 국가들은 굉장히 어려운 상황에 처해 있습니다. 풍족함을 누리면서 작은 암초(독도/다케시마)나, 바다의 명청문제(동해/ 일본해)로, 많은 에너지와 시간을 낭비하는 양국의 광경을 지금까지 도움을 주었던 나라의 사람들과 수십억에 이른다고 하는 하루에 1달러 이하의 생활을 하는 사람들 눈에는 어떻게 비추어 질까요?

인간으로서의 인식이 있다면 이러한 상황을 하루라도 빨리 개선하여, 우리들이 세계 평화 모델을 창안하는 것이야 말로 한일양국이 부흥하며, 지금의 발전을 이루기 까지 많은 도움을 준 세계인들에게 대한 당연한 의무이자 책임입니다.

일본의 도주제 (道州制)

일본의 도도부현(都道府県)제도는, 제국주의 열강 속에서 어떻게 살아 남을 것인가를 시점으로 19세기 말에 골격을 만들고, 제2차 대전 후에도 수정을 거듭해가면서 오늘에 이르고 있습니다. 과학 기술의 발달과 격동하는 세계정세 속에서, 현행의 도도부현(都道府県)제도는 모든 악(諸惡)의 근원이라고 생각하고 있습니다.

일본은 전쟁 후, 수출 주도의 고도 가공무역과 지방교부세로 토목 건축 주도의 내수경제 체제하에 고도 경제 성장을 구가(謳歌)했습니다. 현재는 세계에 제조 공장을 전개해서 그 수익을 국내로 가지고와 국내 공장과 연계하여 사회시스템이 기능하고 있습니다. 금융은 그 과정에서 큰 역할을 발휘해 왔습니다만, 실체 경제에서 극단적으로 동떨어진 금융 파생 상품이 대량으로 쏟아져 나온 결과, 심각한 사회 모순이 허용이 불가능한 단계에 까지 이르고 있습니다.

돌파구가 보이지 않는 문제들을 해결하려는 시점에서 도주제(道州制)의론이 시작되었지만, 정말로 도주제가 필요한 지역에는, 현실을 직시하지 않고 기득 권익을 확보하고 있는 지사, 시장, 의원, 경제인 및 관공서에 낙하산 인사한 단체들에 방해를 받아, 기업파단, 근로 빈곤층, 자살자, 난병이 대량 발생을 초래하면서 논의 조차 이루어지지 않고 있는 상황입니다.

이런 상태의 방치는, 과거에 비춰보면 민족주의 출현과 전쟁으로

이어져, 근접 국가에 막대한 손해는 물론, 자국민들에게도 비참한 죽음과 오랜 동안 고난과 고통을 앓겨 주었습니다. 핵 확산과 브로드밴드가 발달한 오늘날에는 국가간의 군사적 충돌이 아닌, 테러와 범죄, 정신적 압박으로 인한 문화와 구조에서 발생하는 “새로운 내전” 양상이 현저하게 두드러집니다.

이 난국을 타개하기 위해서는 국내외 및 타 지역과 보완관계가 성립되도록 문화 · 자연환경 · 산업기반 · 인구 · 면적 등에서 새로운 자치제인 도주(道州)를 기틀로 생각할 필요가 있습니다. 세계 속에서 지속적으로 유익한 삶을 영유할 수 있는 도주(道州)경영의 3 대 요체(要諦)는 다음과 같습니다.

- ①세계 속에서 어떤 역할을 단독 또는 도주간 연계로 완수할 것인가.
- ②다른 지역에 어떤 역할을 기대할 것인가.
- ③지역내 부의 재 분배 시스템은 어떻게 구축할 것인가.

입니다. 그리고 이것은 일본 뿐만아니라, 대한민국에서도 또 전 세계의식주가 해결되는 지역이라면 해당되지 않겠습니까? 세계 경제가 혼란에 빠져 있는 지금, 모든 개혁이 선행되어 신속히 대처하지 않는다면, 내부 붕괴가 시작되고 후일 엄청난 복구 노력이 필요로 할 것이라 사려됩니다.

도주제(道州制)의 시초로, 한반도 대안(対岸)에 위치한 일본의 중국지방(시마네현, 도토리현, 오카야마현, 히로시마현, 야마구치현)과 세계 재일의 현수교로 연결되어 있는 서국지방을, 1,200 만명을 수용하는 주(州)로 만들고, 주훈(州訓)을 “평화 · 환경, 건강”으로 지정하는 것입니다.

주도(州都)는 인류 최초의 원폭투하로 인해 패전이 앞당겨져, 전화(戰火)를 모면하고 전후 책임을 질 지역으로서 운명지어진 산인중해신지호권 (山陰中海宍道湖圈)에 듭니다. 여기에 주도(州都)를 두면, 중국서국주(中国四国州)가 동해 · 일본해를 끼 유라시아대륙을 정면으로 부터 포착하고 있다고 국제적 이해를 얻어, 가장 적절한 평화에 대한 의사 표시가 될 것입니다.

주도(州都) 지역이 “다케시마의 날”을 제정한 시마네현과 동해 · 일본해 비문 삭제 사건으로 유명해진 도토리현이라는 것을 고려한다면, 대립을 조성한 곳에서 평화의 흐름을 창조하는 특별한 사명을 가진 땅이라고도 할 수 있습니다.

이 지역은, 시로야마 사부로의 저서 『지휘관들의 특공』과 이것을 테마로 한 NHK 보도로 넓리 알려진 독일과의 기술 제휴로 생산한 함정 폭격기 「스이세이(彗星)」을 사용한 최후의 특공대장

나카츠루대위가 지도 교관을 한 곳입니다. 제 2 차대전 말기 일본 본토 결전을 위한 육해군 국내 최대 항공기지 집결지이기도 합니다.

미국에서는 “나카츠루대위의 판단”이 전후의 일본을 구했다며, “일본 최후의 사무라이”로 존경 받고 있다고 듣고 있습니다.

또 전쟁으로 인해 왼팔을 잃은 만화가 미즈키 시게루씨가 탄생시킨 캐릭터를 이용한 「요괴 로드」가 최근 문을 열어 인기를 얻고 있는 관광지입니다. 옛부터 사철(砂鉄) · 벼농사 · 발효 문화를 통해 가야국 때부터 한반도와 특별한 인연이 있었던 것은 양국에 전해오는 문헌 · 사적 · 지명에서 증명되고 있습니다.

또한 서국(四国)은 헤이안시대에 4 백여년간 평화를 유지하기 위해 큰 역할을 한 고보대사 쿠카이(弘法大師空海)의 탄생지이며, 고찰(古刹)를 수행하는 서국여든여덟군데(四国八十八箇所)가 있어 중요한 문화제로서 많은 사람들의 순례지이기도 합니다.

제 6 회 국제평화박물관회의

글로벌 시대를 맞아하여 세계인류사의 시점에서 주훈(州訓)을 정하고, 이것을 일본과 세계에 조언을 받으며 다른 주(州)의 주훈(州訓)도 결정해 갈 것입니다. 그 모든 것을 집결한 것이 국훈(國訓)이며, 이 구현화 과정의 차이에서 몇개의 정당이 생겨난다면 21 세기의 새로운 의회제 민주주의가 탄생할 것입니다. 암울한 시대를 접한 일본과 한국이 함께 검토해 볼만하지 않으십니까?

지금 세계에서 일어나고 있는 곤란한 현상은 “공생의 문화”를 낳는 전통이라고 볼 수 있으며, 이에 참가하지 않고 방치하거나 대책에만 시종한다면 내부 불신에서 오는 붕괴는 불가피합니다.

“원한(怨念) 에너지”에서 생겨난 “대립의 문화”를 경제와 양립할 수 있는 프로젝트로 지향하여, “공생의 문화”를 창조하기 위한 회의를 10 월 6 일부터 시작되는 제 6 회국제평화박물관회의 및 분과회(分科会) 그리고 이즈모(出雲)포럼에서 개최하려고 합니다.

앞서 말씀드린 종군위안부이였던 분들의 오랜 아픔과 고통 그리고 연세를 생각한다면 일각의 유예도 허용할 수 없습니다. 이 프로젝트이 움직이기 시작하다면, 그녀들이 생존 중에 “존엄의 불”이 다시 피어날 것이며, 여기에서 영구 평화의 흐름이 시작되어, 인류 역사상 “존엄의 불”은 영원히 꺼지지 않을 것입니다. 한일 양국의 국민은 물론, 그 혜택은 전 세계로 퍼져 인류 항구의 재산이 될 것입니다.

이것은 진정한 평화, 환경, 건강을 창조하는 출입구입니다. 대한민국, 북한, 일본, 그리고 세계의 여러분들의 많은 참여를 빌며 기다리겠습니다.

朝鲜半岛与日本列岛在人类历史转折期所起的地缘政治学作用

财团法人 人间自然科学研究所
理事长 小松昭夫

由于核扩散，全球变暖，以及长时间积蓄的社会体系的扭曲，导致全球一体化时代金融界发生动摇，“诚信”丧失，粮食·能源·矿物资源价格世界范围上涨。社会各界陷入令人担忧的混乱状况。

全球一体化时代的来临，也是考验人类智慧和勇气的时候。从对立文化走向共生文化，这是解决全世界闭塞状态的唯一之路。而这种转变究竟在何时、何地，应该由谁来推进呢？在探索这一系列答案的时候，我意识到：在亚洲拥有着近代先进文明的朝鲜半岛和日本列岛，由于特定历史背景的制约，不断萌生出对立·怨恨能量。因此，这个地区担负着改变人类命运的重要作用。

在坚持不懈地努力下，从 2003 年开始由中国政府发起六国协议。这表示着联合国常任理事国，也是核大国的中国，美国，俄罗斯开始以世界的角度关注这个地区。

在朝鲜半岛和日本列岛之间，以日本海·东海称谓问题，竹岛·独岛所有权问题为代表的怨恨种子在近代历史中萌生，直到今天仍处于僵持状态。在韩国、朝鲜、日本，已率先具备列举过去，现在，以及对未来预测等问题，引导其扬弃(Aufheben)对立能量，促使共生文化产生的条件。

1988 年，在日本岛根县松江市小松电机产业株式会社创办之地开办「知革塾」，1994 年成立人间自然科学研究所。近 20 多年来，通过在国内外开展演讲、研讨会，出版相关书籍，修建铜像，访问世界战争和平纪念馆并敬献花圈，捐款，接受媒体访谈，启蒙教学活动等，发展到今日。尤其在今年，从出云大社的负责人千家尊佑先生处获赠题词---出云大社神语“幸魂奇魂”，委托中国·北京学苑出版社出版了日中英韩四国语的《中国古典名言录》。

以上活动均以日中英韩法五国语言刊登在研究所的网站中。迄今为止进行的活动之所以能够顺利进行，这都是得益于日本国内，以及来自中，韩等世界各国人士的支持，在这里表示衷心的感谢。

世界现状・朝鲜半岛与日本列岛

在欧洲以宿敌著称的德国、法国为中心构筑了由欧元为统一货币的共同文化圈，共同拥有差异并存的历史教科书。率先把低碳社会作为目标，从地下资源文化向利用风力，太阳能等地表资源文化转换，这些努力均正在进行并可以看到。

在日本，以经济高速增长期的公害和石油危机为契机，开始进行环境・节能技术的开发，

并在1992年的巴西峰会被称为环境大国。但是，1997年缔结京都协议书以后，虽然致力于减少加工厂数量，但整体的排泄量却大幅增加。

近几年随着少子老龄化和债务累积的扩大，对健康保险・养老金制度的不安担忧，由住房贷款问题引发的资源价格暴涨等不安定的因素逐渐增多。同时，随着破产企业放弃债权，又导致企业频繁再生，这样恶性循环最终导致官民间的互相信赖度降低，世代对立，地区对立，国家对立等复杂关系缠绕，进而陷入找不到出口的困境。

各种社会现象的产生，使得人们对政治家，官僚产生不信任，及掺杂愤怒感的绝望。以至于杀害亲属，当街杀人，自杀等难以理解的事件频繁发生。死刑一史无前例的速度被迅速执行。使人觉得这样不但不能解决根本问题，而且会使状况更加混乱。

在韩国，也出现少子高龄化，学费暴涨，首尔一点集中，国内经济不振等现象。随着美国进口牛肉问题的加重，以年轻人为主的抗议活动在全国范围展开，另外诱拐儿童事件增加等导致社会呈现出不安的状况。

日韩两国如果照这样持续发展下去，不难想象作为社会基础的“诚信”“分工”机能将会失灵，社会内部也将走向衰败。

在朝鲜，由于六国协议长期化使得食品・能源等困境接连发生。

在核大国，同时也是联合国常任理事国的美国、俄罗斯、中国，其国内也存在着严峻的问题。因此，由一国领导世界将是非常困难的。

改变充满怨恨、对立的地帶

当今世界，随着亚洲近代化飞速发展，造就了工业化社会的日本和韩国，以及拥有丰富地下资源的朝鲜。这三个国家在发挥各自作用的同时，引导其扬弃怨恨・对立能源。应该就环境及健康问题，与各民族及世界范围的赞同者协力，共同创造亚洲式低碳社会的模型。

虽然没有引起战争，但是一边压抑曾经的积怨，一边将其延续至今的三个国家，现在已具有有利条件，可率先将重视结果的竞争・对立文化向重视过程的竞争・共生文化转变。

这种转变过程将为看不见未来充满纷争的地区带来希望和勇气，与此相关最急迫的课题是对停战协定的期盼。

因此我认为，在这三个国家会确立普遍的认同性，萌生真正的爱国心，面对其他国家的合作者也会感到生存的意义和自豪感。

竹岛・独岛，日本海・东海

岛根县设立“竹岛日”(2005年)；关系日本海・东海名称问题的鸟取县碑文问题(2007年)，在日韩两国引起很大反响。同时，由于小泉纯一郎首相访朝(2002年)和参拜靖国神社，致使日本列岛，日本海，朝鲜半岛，以及中国成为紧张区域，这个事实众人皆知。

在韩国、朝鲜、日本之间，残存着甲午战争、明成皇后暗杀事件、伊藤博文遇袭、安重根处刑、日俄战争、朝鲜殖民地化、创氏改名、强迫劳动、遭遇战争、随军慰安妇、绑架问题、遗留妇女等至今未解决的问题。

如果力量失衡、世界不稳定的话，以上问题什么时候发生也不足为奇。回顾历史可清楚看到：细微小事会引来大灾难。

随军慰安妇问题，有尊严的生命

今年5月访韩时，在国旗飘扬的日本驻韩大使馆前，偶然目睹了年过八十岁的原随军慰安妇们的抗议活动。从现场得知这样的活动每周三举行，到现在已经超过800次。现场的气氛以及惊人的数字使我受到强烈地冲击。当时，装甲车及众多韩国警察出动维护治安，慰安妇向日本提出要求其在国会道歉的市议会决议报告。随后还有幼儿园孩子们的合唱，年轻男女的舞蹈演出。看着她们备受安慰的样子，当时的心情无法用言语来表达。

这一被置之不理的情况，实际上就是在等待她们死亡，即使被这样认为也是没有办法的。此时我发现这是关乎日韩两国、民族的衰败的本质问题；也关乎着日本人、韩国人的见识、智慧和勇气。

人类具有其他生物所没有的尊严。她们在战争中，遭遇苦难丧失了尊严。我们日本人，韩国人，如果有作为人最起码的觉悟的话，就不应该对她们在战后很长时间为争取尊严而进行的活动置之不理。

为解决这个问题很多人都付出了努力，但是至今仍未得到根本解决。2007年4月在华盛顿邮报上刊载了来自美国市民团体关于“慰安妇真相”的报道，继而在6月刊登由日本国会议员和名人联合签署的意见书，这个问题被广泛传开。

结果，美国上下议院、以及加拿大、荷兰、欧盟、菲律宾、澳大利亚等国议会一致决议要求日本政府进行正式道歉。虽然不是强制执行，但是可以清楚的看到，在全球一体化时代如果长时间无视这个事实会产生极其深远的影响。

一亿二千万战争牺牲者的纪录

18世纪的美国独立战争、法国革命，造就了界定领土、国民参政议政、行动・言论自由等，当今社会系统的主流——国民国家。为此，在至今约250年中，和日本总人口数相匹敌的一亿二千万人的牺牲，成就了今天的富裕生活。

作为紧张地区的韩国、朝鲜、以及对岸的日本，应获得美国、中国、俄罗斯乃至世界的理解，扬弃对立和怨恨能量，在朝鲜半岛和日本列岛创造和平潮流。对于人类来说迫在眉睫的课题为：以全球变暖为代表的环境问题；以禽流感为代表的健康问题，人类有必要超越国境一同致力于从事和平事业。

在这里我有一项提议，建设拥有近代战争牺牲者全记录的纪念塔。把世界战争与和平博物馆通过网络连接，设立综合性和平战争展馆，将相关的所有照片与录像收录其中。通过国际和平环境健康会议馆的策划、建设、营运，明确在韩国、朝鲜、日本实现世界恒久和平的作用，我想这样最终才能促进各国间矛盾的和解。

即将建设的世界和平模型，会为充满纷争地带的人们提供创造和平潮流的勇气和智慧。

中世纪日本具有代表性并带来巨大影响的思想家二宫尊德先生留下这样的话：“没有经济的理论为无稽之谈；没有理念的经济为罪恶”、“一家衰败万家兴起”、“谦让”。少子老龄化问题愈发加重，企业向周边各国不断流出，尽管如此为了维持眼前生活给子孙留下负债的人会被称之为经济动物。如果连过去的战争积怨一起留给子孙的话，将变成吞噬子孙的梦想与希望的吸血鬼。

日本经历了第二次世界大战，韩国在经历朝鲜战争后，在野火燎原状况下，受到西方社会各界的支援，并与国民共同努力构筑了今天的富裕社会。

现在，受到恩惠的美国，提供廉价大量石油的中东各国，都面临着相当困难的局面。一边享受富裕生活，一边为很小的一块岩礁，那片海域的名称问题而消耗大量能量和时间的两国的景像，在至今受到恩惠的国家及人民，以及十几亿人一天仅靠不到一美元而生活的人们的眼里，将会留下怎样的印象呢？

作为一个真正的人，应尽快从这样的状况中走出，面向世界建立和平模型。这是日韩两国复兴，以及对发展至今有恩于我们的世界人民所负的义务和责任。

日本的道州制

日本的都道府县制度，是在帝国主义列强中怎样得以幸存的视点出发，到19世纪末形成框架，加上第二次世界大战后修改的内容一直延续至今。随着科学技术的发展和世界形势的激变，可以看到现行的都道府县制度正是各种恶行产生的根源。

日本在战后，颂扬以出口为主导的深加工贸易，以及依托地方交付税以土木建筑作为主体的内需经济体制的前身——高速增长的经济。如今在世界范围设立加工厂，其收益被带回国内，与国内工厂一同发挥社会体系的机能。

金融在这其中发挥了很大的作用。但是，现在脱离实体经济从金融中派生出的商品大量上市，导致社会矛盾上升到无法容忍的阶段。

从解决陷入僵局的诸问题的角度出发，各种对道州制的议论随之产生。但是在最需要道州制的地方，由于受到无知、不正视现实而拥有既得权益的县知事，市长，议员，经济界人士以及政要诸团体的强行阻止，企业破产，员工失业（workingpoor），自杀现象，癌症等疑难杂症的大量发生，议论一直处于低调的状态。

在过去对这种现象的放置，导致民族主义兴起与战争，不仅对周边各国造成莫大的损失，而且迫使国民大量死亡并长期陷入苦境。在核扩散和宽带网发展的当今世界形势下，可见的不是国家间的军事冲突，而是由于恐怖活动、犯罪、精神压力，从文化构造中产生的阴晦的“新型内战”。

为了打破这种困局，正如和国内外其它地区建立互补关系一样，有必要考虑从文化·自然环境·产业基础·人口·面积等方面出发，形成新兴的自治体的道州框架。在世界中能持续并有意义的存在的道州经营有三大要点：

- ①世界上，独自或联合道州间应当发挥怎样的作用；
- ②对于其他地区，期待其发挥怎样的作用；
- ③地区内部如何构建财产再分配体系；

这不仅仅是日本，在韩国，以及世界的其他能够丰衣足食的地区中都可以说得通。现在世界经济开始出现混乱，如果不迅速进行全面改革的话社会内部也将开始衰变，对于这个修复将会付出巨大的代价。

作为道州制的先驱——朝鲜半岛对岸的日本的中国地区（岛根县、鸟取县、山口县、广岛县、冈山县），用世界第一的吊桥将四国地区相联接，把这个拥有1,200万人口的地区作为州，这个州的州训定为“和平·环境·健康”。

州的首府设在最初被投放原子弹而提早战败免遭战火，肩负完成战后责任使命的山阴中海 s h i n j i 湖圈。如果在这里设立州的首府，会被国际认可为这是中国四国州从正面捕捉与日本海·东海之隔的欧亚大陆，表达了最合适的走向和平友好之意。

州的首府如果考虑设在制定“竹岛日”的岛根县，或是由于东海、日本海碑文问题引起国际争论的鸟取县，也可以理解为矛盾产生的地方担负孕育和平文化的特别使命。

这个地区，因城山三郎著的《指挥官们的特攻》以及日本放送局 NHK 同名节目而闻名。这里是使用德国技术制作的舰上轰炸机“彗星”号的特攻队长中津留大尉做指挥官的地方。在第二次世界大战末期，这里曾是为陆海军在日本本土决战提供准备的国内最大的空军集训基地。

听说“中津留大尉的判断”，在美国被称为救助了战后的日本，作为“日本最后的武士”备受尊敬。

另外，因战争失去左手的漫画家水木茂先生，今年发表了作品《妖怪之

路》，使此地成为有名的旅游胜地。从伽耶国时代这个地方就与朝鲜半岛结缘，开始铁砂石・稻作・发酵文化的交流，这一事实从两国的文献・史迹・地名中清晰可见。

其次，四国是著名的弘法大师空海的诞生地，弘法大师为平安时代拥有的世界上史无前例的四百年和平历史，发挥了巨大作用。走遍四国的八十八所古寺，有大量贵重的文化遗产受到众多人士的朝拜。

第 6 届国际和平博物馆会议

在全球一体化时代，从世界人类史的视点出发制定州训，随后其他各州也逐步制定相应的州训。所有州的州训的总和就是国训，在具体实行的过程中根据差异，如果能诞生几个政党的话，21 世纪的新议会制民主主义就产生了。面临艰难时代的日本和韩国难道不应该一起研究讨论吗？

如今，世界上呈现的困难现象，把握产生共生文化的困难所在的同时，如果不加入到其中而是放任不管，或者只是以提出对策而告终的话，将无法避免社会内部的诚信丧失。

10 月 6 日召开第 6 届国际和平博物馆会议・分组讨论会，以及出云论坛。目的在于通过此次会议，将由怨恨能量产生的对立文化与经济相调和，引导其向共生文化转变。

之前提到的随军慰安妇问题，如果想到他们长期遭受的苦难和年龄，我们一刻也不能再犹豫。如果这个项目能够顺利开展的话，将重新点燃她们生存中的尊严之火。从这里发起永久平和潮流，在人类历史中尊严的火种永远不会熄灭，而且在日韩两国国民中，把这种恩惠广泛流传，我想这将变成人类永久的财富。

这才是诞生真正和平、环境、健康的入口。在这里由衷期盼得到韩国，朝鲜民主主义人民共和国，日本，以及世界各国人士的赞同与支持。（结束）

**The turning point of the human history,
Geopolitical role between The Korean Peninsula and
The Japanese Islands .**

**Human Nature Science Research Institute Foundation
Director Akio Komatsu**

Nuclear proliferation and global warming measure advance, and from the distortion of society system accumulated for long time, the finance that globalized is agitation, and collapse of "trust" advances, international rising cost of food •energy •mineral resources, this situation makes us fear even the social confusion in the global scale.

I greeted the global times when I cannot continue only in one country, and time when wisdom and courage of the human were tried came. There is not the way solving a global blockade state besides change to civilization prospering on culture of the symbiosis from civilization that prospered on culture of the opposition. While I grope for I become a pioneer who should promote the change when and from where with being the most willing modern times civilization area in Asia, I continue bringing about opposition • grudge energy controlled by the historic background, I recognize that an important role to take fate of the human on turned to the Korean Peninsula and the Japanese Islands.

6 countries discussion by the Chinese government intermediation is held in a tenacious effort intermittently after 2003, but they show this is United Nations permanent member, China, the U.S.A., and Russia of the nuclear power regard this area as important from a viewpoint of the world.

A grudge born from the history of modern times represented by the issue of calling name the Sea of Japan and Tokai, and Takeshima Islands and Tok-do territorial claim continues in a stiffening state between the Korean Peninsula and Japanese Islands of the opposite bank today. In Korea, Democratic People's Republic of Korea, and Japan, I enumerated a lot of problems assumed in the past, the present and the future ahead of the world and led energy of the opposition to the sublation (Aufheben), and a condition to bring about culture of the symbiosis was set.

In 1988, I made "Chikaku Juku" in the place of establishment of a business of Komatsu Electric industry Co., Ltd. of the Matsue City Shimane Prefecture in Japan through the establishment of Human Nature Science Institute in 1994, I reach it through the holding of the lecture symposium, publication, bronze statue erection, world War and Peace memorial visit and offering of flowers,

contribution, a talk in the media, enlightenment learning activity at home and abroad today for 20 years. In this year specially, I had the chief priest of Izumo Taisha Shrine Takahiro Senge God word “Sakimitama Kushimitama”. I was able to publish “Chinese Classic Wise Remarks” of human education in the global time Japanese, Chinese, Korean, and English 4 languages from Gakuen publishing company of Beijing in China.

The activity record prints it in the homepage in 5 languages of the Japanese, Chinese, Korean, English, and French.

I appreciate a lot of world assenter from the start including Korea and China that past activity was possible.

The world present conditions • Korean Peninsula and Japanese Islands

Germany and France which were an old enemy play a key role in the Europe for many years and build a symbiosis by the unification currency euro and share the history textbook which I wrote differences jointly and aim at the low carbon society again ahead of the world, and an effort to switch to the surface of the earth resources civilization that used wind, light of the sun from underground resources civilization begins in visible form.

Environment • energy saving technology development advances with pollution and an oil crisis of the period of the high economy growth in Japan, and it has been said with environment nation by a Brazilian summit of 1992, but it is the actual situation that the total discharges largely increase as for the reduction in the production factory after the Kyoto Protocol conclusion in 1997 although they advanced.

In late years a declining birthrate and advanced age and the expansion of the accumulated debt advanced, and uneasiness rose by resources remarkable rises to be started from the failure concern of health insurance • the pension, the issue of subprime at a stretch. In addition, mutual distrust of politics, bureaucracy, and nation increases as a result that company reproduction with the debt waiver of the failure company was repeated frequently, and get twisted up in opposition between generations, areas, nations, complexity; of the exit is in an invisible situation.

Various society phenomena amplify it, a politician, distrust for the bureaucrat and despair lead to anger, and killing of a lineal descendant, murder of the slasher and suicide and a mysterious case occur frequently. Death penalty is carried out at unprecedented speed in the past, but this does not become the essential problem solving, too and seems to be able to deepen a degree of the confusion more and more.

The Korean society has the issue of U.S. domestic production beef import and a declining birthrate and advanced age, the sudden rise of educational expenses, Seoul over-centralization, dullness of the national economy coming at the same

time, too, and a protest movement led by the youth opens in the whole land and the kidnappings of the child increase and present an aspect of the society uneasiness.

In this situation, with both countries, "trust" and "division" that are the social basics do not function either, and even the inside collapse is expected.

It seems that the difficult situation continues by food · energy by prolongation of the 6 countries discussion in the Democratic People's Republic of Korea.

The U.S.A., Russia, and China which it is a nuclear power, and is the permanent member of the United Nations, new country, China hold a big problem in the country, and it is in situation that it is difficult in one country to lead the world strongly.

A grudge and an opposition zone in Oughtopia

Go ahead through the modernization quickly in Asia, and Japan and Korea which made industrialized society and underground resources lead a grudge · opposition energy to the sublation because the-rich Democratic People's Republic of Korea plays each role, and a national race and a world assenter put power together in environment and a health problem, and it is to bring about an Asian model of the low carbon society that it is hurried most in the world in now.

As for the state of current 3 countries which last I do not reach war and while controlling a grudge, it may be said that a condition is a prepared area most so that competition and the symbiosis of the serious consideration change the sphere of culture of competition and the opposition of the result serious consideration into the compatible the sphere of culture (Oughtopia) for the first time in the world in a process.

This process is connected in offering hope and courage to the invisible hot spot of the exit and can expect the cease-fire deal that is the most urgent theme.

And establishment of the identity that is universal in 3 countries and true patriotism arise and think that a definite aim and a pride are born to the project participant from the other countries.

Takeshima Island Tok-do, The Sea of Japan and Tokai

Establishment “a Day of Takeshima”(2005) by Shimane prefecture, and an epitaph problem(2007) in Tottori Prefecture affected calling name the Sea of Japan in Japanese name or Tokai in Korean name reported each country Japan and Korea. In addition, by visit to North Korea (2002) and Yasukuni shrine worship of Prime Minister Junichiro Koizumi, it came to be known by the inside and outside the country that Japanese Islands, the Sea of Japan, Korean Peninsula and China were strain zones widely.

Between Korea, Democratic People's Republic of Korea and Japan, I stay with the problems such as Sino-Japanese War, assassination of Meisei empress, snipe of Hirofumi Ito, the execution of Ahn Choong-gun, Russo-Japanese War, Korea colonization, So changing name, forced labor, war damage, army nurse, abduction issue, Japan married woman non-return being unsolved.

Match-up of the power burst, and such a problem comes to the front when, and the world is not non-mysterious if stabilized either. If it watches the past history, it is clear a trifle becomes the ignition point, and to have led to a big misfortune.

The issue of army nurse and life of the dignity

I met with protest activity for Japan of former army nurse beyond 80 years old at the time of a visit to Korea of May accidentally in front of Japanese Embassy over Japanese national flag. It was performed on every Wednesday and heard that I exceeded 800 times locally and received a strong shock from the atmosphere and the number of times. The figure that it is taken soothing by the report of the municipal assembly resolution of the Diet apology request by the Japanese, the chorus of the kindergartener, the comfort by the dance of young man and woman is nothing to say while they are protected by armored car and a lot of Korea police officers.

There cannot be a way even if said that it waits for them to die to overlook. This is that a thing of the essence is asking to be connected with both Japanese and Korean countries and collapse of a race, not to mention Japanese people, I noticed that Korean judgment, wisdom and courage were asked.

There is life of the few dignity to life as the creature and other creatures to the human. They lost life of the dignity by the great suffering during war.

If we were conscious Japanese, or Korean as the human being, I cannot leave acquisition activity of their life of postwar dignity difficult for a long time unattended.

It was made an effort, but a lot of people do not reach basic solution to solve this problem. Opinion ad called "Truth of the army nurse" was printed by the U.S.A. group in the Washington Post in April, 2007. The opinion ad by the joint signature of the Japanese Diet member and celebrity was carried in June to follow and this problem was widely known to the world widely.

As a result, it was decided so that Japanese Government apologized formally in the American Lower House, Parliament Hill, a Dutch assembly, European Parliament by EU, a Philippine assembly. There is not compelling force, but Japanese judgment is asked, and I recognize that I ignore this in the global times when serious influence spreads for a long time.

The record of 120,000,000 war victims

The American War of Independence of the 18th century, the French Revolution brought about the one-country-one-nation which was the mainstream of the social system of today such as the delimitation of the territory, the government participation in planning of the nation, movement · freedom of speech. On 120,000,000 war victims equal to Japanese total population in about 250 years to here, there are the rich times of today.

Korea that was a strain zone, Democratic People's Republic of Korea, Japan of the opposite bank got U.S.A., China, and Russia and world understanding and sublated opposition and the energy of the grudge. It produces a flow of positive peace from Korean Peninsula and the Japanese Islands of the opposite bank. The human needs a peace business I go over the border in an environmental problem represented by the global warming which is a problem of the human emergency and a health problem represented by bird flu.

I suggest one project here. Memorial Tower recording all the dead people by war of modern times, world War and Peace Museum are connected in a network, and a role to peace realization becomes clear, and, through a design of international peace environment health conference room bound together by synthesis peace war exhibit space by a photograph and the picture which a real exhibition is seen in with one place, the world and IT, construction, administration, it seems that, as a result, reconciliation advances in Korea, the Democratic People's Republic of Korea, and Japanese world permanency.

A born world peace model is connected in offering courage and wisdom to bring about a flow of peace to people of a current hot spot in this way.

It is a Japanese representative thinker in the Middle Ages, and the Sontoku Ninomiya old man who gave big influence leaves words “As for the theory without the economy, silly talk, economy without the idea are sins,” “ I abolish family and found ten thousand families,” and “Suijo.”

A declining birthrate and advanced age becomes more and more serious, the work does not affect the situation flowing out into the neighboring countries steadily either, it is said an economic animal to the person who postpones a debt to a descendant to maintain the present life. If we postpone the grudges from past war together, it is to be Dracula eating a dream and the hope of the descendant, it become Dracula eating a dream and the hope of the descendant.

World War II, Korea took the support of various countries in the world in a western social frame from the burnt field by the Korean War, and Japan was combined with the effort of the nation and built the rich society today.

The U.S.A. which took a benefit, the Middle Eastern countries which received supply in large quantities of cheap oil invite the very difficult situation now. I assume a small reef and the name of the sea a problem while enjoying the

richness, and I am equal to or less than 1 dollar, and how will it seem to the eyes of living people that there are people of the countries which received a benefit till now and 10 hundreds of millions of as for the great energy and the scene of the two countries spending time on said 1st?

If there is recognition as the human being, I escape from such situation as soon as possible, and the Japan and Korea two countries revive, and it is proper duty for the world people who received many benefits till I reach today's development and responsibility that we bring about a model of the peace in the world.

A Japanese regional system of division

Japanese each prefecture system made a frame from a viewpoint how survive in the imperialism Great Power in 19 end of the century, they reach it at the present while the World War II back adds a revision. In the development of the technology and the violent change of the international situation, Japanese each prefecture system recognize it to be the root of various crimes.

After the war in Japan thought in praise of high growth economy as for the high processing trade of the export leadership and the thing of the domestic demand economy system of the engineering works architecture subject by the tax allocated to local governments. Now develops a manufacturing facility in the world, and the profit is brought into the country, and society system functions by cooperation with the domestic factory. The finance served as a big role at the outskirts but the present when the derivative financial instrument which was extremely far apart from real economy came to be sold in large quantities, Social contradiction extends to the stage that is impossible of permission

A regional system of division argument began with a viewpoint to solve the many problems that came to a deadlock but in the district where a regional system of division is the most necessary, ignorance or a governor who had the vested interest that did not look straight at reality, it is blocked by the mayor, member of the Diet, businessperson and the government offices parachuting many groups, the argument is dull while causing the mass outbreak of an intractable disease represented by a corporate bankruptcy, working poor, a suicide, and cancer.

The leaving of such a phenomenon led to rise and war of the nationalism in the past and caused serious damage to the neighboring countries and forced the nation to a large quantity of death and the hardship of the long time. In today's international situation that nuclear proliferation and a broadband progressed, not a military collision between nations, terrorism and crimes, it depends on mental pressure, the aspect of a damp and shady "new civil war" to occur from culture and structure came to look have dark color.

To break this critical situation is necessary to think about the frame of the state of way which is a new self-governing body from culture • natural environments •

industrial base • population • area, like be made up of local other than inside and outside the country and supplement relations. Three major key points of the State of course management to be able to live significantly persistently in the world

- ①What kind of role do you take or it is cooperation between the state of course alone in the world?
- ②What kind of role do you expect in the other area?
- ③How do you build a redistribution system of the wealth in the area?

This is not only Japan but also Korea, in addition, in no area where world food, clothing and shelter were worth, may you say?

The present when the world economy began confusion, if it goes ahead of every reform and do not carry it out immediately, inside collapse begins and it seems that awful will pay big compensation to this restoration

As a pioneer of the regional system of division, Chugoku area in Japan in the opposite bank of the Korean Peninsula and Shikoku area in Japan that was connected by No.1 suspension bridge in the world, and establish policy "Peace • Environment • Health" as a state having 12,000,000 people in the provincial capital.

Defeat is hasty by the atom bomb throwing down of the human beginning, is saved from the war and puts it in Sanin Nakaumi Lake Shinji Lake zone in Japan destined as an area carrying out responsibility after the war, if we place a state capital here, it is understood the Eurasian Continent where Chugoku Shikoku state in Japan sandwiched the sea of Japan Tokai between globally, and to the best peace is declared its intentions.

It may be said that it is the ground where it owned the special mission to make culture of the peace that the place that brought about opposition if we think about Tottori that made an international discussion by the issue of Tokai the Sea of Japan epitaph, Shimane Prefecture where a provincial capital established "a day of Takeshima" in.

This area was widely known for the NHK news of written by Saburo Shiroyama which wrote "A special attack corps" as a theme, and Nakatsuru captain who did a don and the last special attack unit head who used a carrier-borne bomber "Suisei" created through technical cooperation with Germany in this area. It was the accumulation place of the country of army and navy for Japanese soil decisive battles of the closing period of the second world war's greatest air base.

It is said that "the judgment of Nakatsuru captain" saved postwar Japan in U.S.A. and hears when respected as "Last Samurai in Japan".

In addition, "The ghost road" that lined up characters of comic artist Shigeru Mizuki who lost the left arm by war was born in late years, there becomes the sightseeing spot with the pulling power. It is clear from documents • a historic

spot • the place name reaching handed down to the two countries that there were the Korean Peninsula and a special relationship from the times of the Kaya country through iron sand • rice growing • fermentation culture in old times.

In addition, Shikoku Area in Japan is the ground of the propagating Buddhism Kohotaishi Kukai birth that carried out a big role to build the peace of 400 years unprecedented in the world in the Heian era. We visit the edge, and there are eighty-eight holy places in Shikoku walking the old historic temple and receives a pilgrimage of much one as precious cultural heritage.

The 6th International Conference of Museums for Peace

Greeting the global times and it is determined state policy by an all humankind historic viewpoint, and state policy of other states is decided while asking this in the world. If the grand total is national policy, and some political parties are created by the difference of the process of this embodiment, new parliamentary democracy of the 21st century is born. Will not Japan which greeted the times hard to please and Korea be to deserve examination together?

The difficult phenomenon to be taking place in the world and it is regarded culture of the symbiosis as the labor pains to bring about and we leave you unattended without participating in this, or if I do only measures all the time, the collapse from inside distrust becomes unavoidable

Culture of opposition born by grudge energy, I lead it to the sublation by a project to be compatible with economy, a meeting to bring about culture of the symbiosis, I would like to hold it in the 6th International Conference of Museums for Peace to begin on October 6 • subcommittee and the later Izumo forum.

I spoke it earlier, I do not become the postponement of moment if I regard age as the hardship of the long time of the people who were a charity dame either. If this project begins to change, fire of the dignity burns during their survival again, and a flow of the permanent peace begins from here, and the fire of the dignity does not need to disappear in the history of the human eternally, and the benefit is wide from the start, and the nation of the Japan and Korea two countries will be property in human permanency in the world.

This is an entrance producing true peace • environment • health. I pray for agreement of world people heartily in Korea, the Democratic People's Republic of Korea, and Japan.

安重根義士遺墨関連出張報告

(韓国・京都・山口県・広島県・岡山県・高知県訪問)

2009年4月1日
財団法人人間自然科学研究所

作成：尹熙竣

出張概要まとめ

(1)目標

日韓併合より100年を来年迎えることにあたって、被害国と加害国が一緒になって、世界の「平和モデル」を構築するための入口が安重根義士（東洋平和論）と伊藤博文公の死を未来発展的に生かすことである。

そのきっかけとして、2009年10月26日～2010年1月末まで韓国「芸術の殿堂」にて行われる「安重根義士遺墨特別展示会」に展示する遺墨の貸し出しの申し出及び手続きを行った。

(2)メンバー

①安重根義士記念館

キム・ホイル（館長）

イ・ヘギュン（総務部長）

②芸術の殿堂（ソウル市所属）

イ・ドングッ（書道チーム／次長）

③財団法人人間自然科学研究所

小松昭夫（理事長）

尹熙竣（研究員）

磯江公博（小松電機）

出張概要まとめ

(3)スケジュール (2009年3月25日(水)～30日(月)) 5泊6日

■韓国 (2009年3月25日～27日)

- ①安重根義士殉国99周忌追念式
- ②安重根義士記念館起工式
- ③聖心女子大学

■京都 (2009年3月27日～28日)

龍谷大学「安重根遺墨・関連資料展と日韓国際平和シンポジウム」に出席

■山口県光市 (2009年3月28日～29日)

伊藤博文記念館を訪問

■広島県 (2009年3月29日)

願船寺(設楽正純当主)を訪問

■岡山県 (2009年3月30日)

淨心寺(津田雅行住職)を訪問

■高知県 (2009年3月30日)

公文豪様の仲介で、小松亮様に面会

韓国 安重根義士殉國99周忌追念式

(2009年3月26日 10:00~11:00)

追念式様子



子供たちによる「安重根・太極旗」合唱



顕花する小松理事長

右から、①ジョ・スハン社長、②キム・ヒヨンチヨル顧問、③小松理事長、④菅原敏允史談会長、⑤チエ・ドンス黄道民副会長

韓国 安重根義士記念館 起工式

(2009年3月26日 11:00~12:00)

(建設社...デウ建設)

安重根義士記念館建立工事起工式



起工式祝いパーティー



起工式典演台の前

右から、①小松理事長、②バツ・ユ
チヨル記念館建立委員長、③キム・
ヒヨンチヨル顧問

韓国 聖心女子大学 安重根義士記念館主催懇親会 (2009年3月26日 14:00~20:00)

大学の関係者と一緒に



安重根義士記念館主催の懇親会



㊂ユン・テジョン広報チーム長



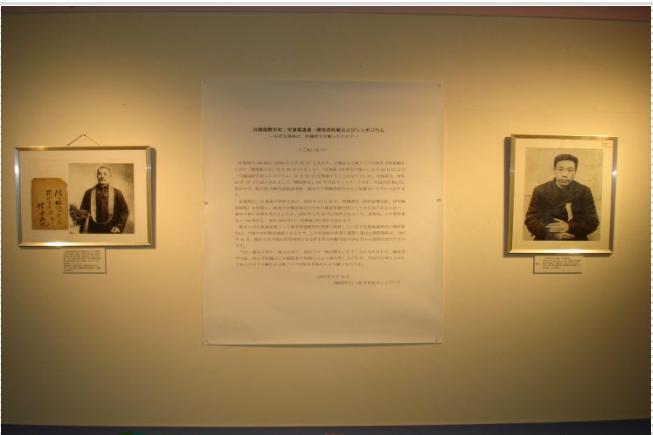
右から、①アン・ウンモ安重根崇暮会会長、②小松理事長、③牧野英一法政大学教授

京都 龍谷大学

安重根遺墨・関連資料展

(2009年3月28日10:00~11:30)

左から、①イ・ヘギュン安重根記念館
総務部長、②キム・ホイル安重根記念館
館長、③戸塚悦郎龍谷大学教授



津田海純教戒師と安重根義士



岡山県淨心寺から、龍谷大学へ委託された安重根義士の遺墨3点

若原道昭龍谷大学長(右下2番目)
と、遺墨の貸し出しを協議

京都 龍谷大学

日韓国際平和シンポジウム

(2009年3月28日14:00~20:00)

若原道昭龍谷大學長(右下2番目)
と、遺墨の貸し出しを協議



「韓国併合」100年市民ネットワー
クが主催、龍谷大学・教員組合、駐
大阪大韓民国総領事館が後援

発表「日韓の歴史の新たな歩みのた
めにー安重根義士と歴史の記憶の場
ー」牧野英二教授、「安重根裁判の不
法性と東洋平和」戸塚悦朗教授



「安重根の夢ー大韓独立と東洋平和
ー」というタイトルでキム・ホイル安重
根記念館長が発表

山口県光市 伊藤博文記念館①

(2009年3月29日 09:30~11:00)

山口県光市岩田駅前



岩田駅内にかざつてある伊藤博文
公の写真



記念館入口



銅像と産湯の井戸碑石



山口県光市 伊藤博文記念館②

(2009年3月29日 09:30~11:00)

伊藤公生家



館内展示物



館内入口



伊藤博文公の書



広島県 願船寺

(2009年3月29日 15:30~17:00)

設樂正純当主夫婦



対談中(所在・責任者・警備等の明確化)

岡山県 浄心寺

(2009年3月30日 11:40~12:40)

津田雅行住職(中央)とお寺の前で



対談中

津田海純教戒師が安重根義士から
もらった遺墨 3点



高知県 小松亮様

(2009年3月30日 17:30~19:00)

公文豪様から安岡静四郎検査官、水野吉太郎官選弁護人のお墓を紹介して貰つた



小松亮様の叔父にあたる小松利宗様が書いた裁判の様子（当時遼東新報社の記者）



小松亮様から安重根義士に関する資料を見させて頂いた

小松利宗様が安重根義士からもらつた遺墨



WA-JO

IZUMO

The radiant beauty of the world
Compels my inmost soul to free God-given powers of my nature
That they may soar into the cosmos,
To take wing from my Self And trustingly to seek myself
In cosmic light and cosmic warmth.

和讓